



新潟市水族館マリニピア日本海

30周年記念誌

1990 - 2020



MARINEPIA NIHONKAI 30th ANNIVERSARY

小さな水の器から

新潟市水族館
館長 加藤 治彦
30周年の2020年度末で退任

「器」という漢字…水槽が並んだように見えませんか？

水族館は陸上に設けられた水の器です。器には様々な生き物が展示されています。一方、私たちの住む太陽系第三惑星＝地球も水の器です。小さな器には、地球の多様な水界の一部を模倣し、生物がすみことのできる環境が大小様々な水槽内に作り出されていて、展示が行われています。大きな器は多様性に富み、必ずしも小さな器であらゆる生物が継続的に飼育できるわけではありませんが、知識と技術、そして不断の研究努力で小さな器の展示生物の多様性も増すよう目指して行きます。

学んでいただきたいのは、地球水界環境の多様性とその保全の重要性です。小さな器の中の生物から、大きな器＝生命の惑星「地球」の将来を見つめる、そんな水族館を目指していきたいと考えています。忘れてはいけないのは、私たちの住むこの地球は広大無辺の宇宙空間に存在する、生命を宿した唯一無二の器であるという事実、私たちが水の器の住人である、ということなのですから。

沢山の皆様のお陰により、創立30周年を迎えることができました。自然環境を健全に保ち、次世代に引き継ぎつつ、50周年、100周年或いはそれ以上を皆様と共に目指す新潟市水族館マリニピア日本海に対し、これまで同様、皆様の温かいご支持とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。



マリニピア日本海 30周年記念誌

CONTENTS

前館長あいさつ	01
30年の歴史	03
企画展示の歴史	13
教育プログラム	21
「種の保存」の取り組み	51
研究発表	53
漂着リスト	67
マリニピア日本海 リニューアル	79
生物の科学 遺伝	83
資料編	97
あとがき ～館長からのメッセージ～	113

30年の歴史

1990

- 1990年 5月21日 ● **ハンドウイルカ6頭搬入**
和歌山県太地町から専用の輸送装置を用いてトラックで運びました。
- 1990年 6月 ● **旧水族館より魚類移動 種苗センターから魚類搬入**
開館準備のために収集した魚類を種苗センターの大型水槽で畜養させていただきました。
- 1990年 6月 ● **旧水族館よりペンギン移動**
フンボルトペンギン57羽を移動しました。
- 1990年 7月1日 ● **旧水族館より海獣移動**
トド2頭、カリフォルニアアシカ6頭、ゴマフアザラシ6頭をトラックで運びました。
- 1990年 7月2日 ● **新規飼育動物搬入**
アメリカカバナー2頭、カナダカワウソ3頭、バイカルアザラシ3頭、イワトビペンギン6羽を搬入しました。

MEMO

イルカを輸送する時は、担架で体を支えて、コンテナ内に固定し、1頭ずつトレーナーや獣医が状態を見ながら、慎重に輸送します。搬入はクレーン車を使って担架を吊り上げ、プールに入れました。イルカの泳ぎが安定するまで、ダイバーが付き添いました。



旧水族館より海獣移動

1990年 7月27日 開館日

新潟市制施行100周年を記念して開館しました。



- 1990年 8月16日 ● **入館者最多**
入館者数最多となる「23,737人」を記録しました。

1991

- 1991年 5月14日～1992年 3月23日 ● **神戸市立須磨海浜水族園から 雌のラッコ2頭(スマコ、チャサリー)借用**
タンカー事故の影響でアメリカからの入手が困難となり、借用個体を展示することになりました。
- 1991年 5月19日～5月26日 ● **ドルフィンウィーク開始(2004年まで実施)**
(特設パネル、小学生トレーナー体験)
ハンドウイルカを搬入した5月21日を含む1週間をドルフィンウィークと称して様々なイベントを行いました。
- 1991年 7月19日 ● **秋篠宮殿下、初のご来館**
海の祭典出席の折りにご来館されました。



ドルフィンウィーク



秋篠宮殿下、初のご来館

1991年 8月15日 入館者100万人達成

1992

- 1992年 3月8日 ● **ロシア・チンロ水族館との交流**
県民の船に参加して、ロシアへ渡りました。
- 1992年 6月10日～6月13日 ● **佐渡沖の海底生物探査**
鳥羽水族館と共同で、無人潜水調査機(ROV)を使用した調査を行いました。
- 1992年 7月18日～9月6日 ● **夏期特別展「深海の世界」**
6月に実施した海底生物調査の成果を中心に特別展を開催しました。
- 1992年 11月9日～1993年 3月25日 ● **マリニピア松島水族館からラッコ雄2頭、雌3頭飼育受託**
マリニピア松島水族館の水槽工事に伴い、ラッコを預かりました。受託期間中に1頭出産しました。



佐渡沖の海底生物探査



夏期特別展「深海の世界」

1993

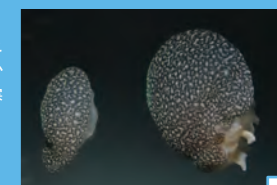
- 1993年 3月30日 **入館者200万人達成**
- 1993年 5月6日 ● **ラッコ4頭搬入**
雄: トム、雌: ララ、ココ、モモ アラスカよりラッコ4頭を搬入しました。初の当館所有のラッコです。5月12日から公開しました。
- 1993年 6月6日 ● **第1回自然観察会**
(旧 岩室村天神山、旧 巻町仁箇堤) 以降、毎年数回開催
沢や山中の池、人工のため池などをまわり、水辺の生きものを観察しました。
- 1993年 6月20日 ● **サラサベッコウタマガイ 新種記載**
両津湾の水深400～500mから採集した標本の研究結果をもとに新種記載されました。



第1回自然観察会

MEMO

初めて見たときはちぎまわっていて、何動物なのかさえ分からない、まるで寒天ダンゴのようでした。



1994

- 1994年 4月10日 ● **当館で初めてラッコ繁殖**
父: トム、母: ララ 愛称を募集し、ナナに決定
ラッコの雌3頭が約3か月おきに出産しました。最大で7頭と一緒に飼育しました。
- 1994年 7月15日 ● **ラッコ繁殖** 父: トム、母: ココ
愛称を募集し、トコに決定しました。

MEMO

母親が3頭とも子育て上手だったので、育児には手がからなかったのですが、自力で餌を食べるようになってから7頭のラッコに1人で餌を与えるのはすごくていへんでした。



1994年 8月14日 入館者300万人達成

- 1994年 11月5日 ● **ラッコ繁殖** 父: トム、母: モモ
愛称を募集し、ミミに決定しました。

1995

- 1995年 1月23日 ● **旧 紫雲寺町藤塚浜にてゴマフアザラシ保護**
両眼は失明し下顎が骨折していて、野生復帰は不可能と判断。収容してからは順調に回復し、繁殖にも参加して、現在も生存しています(雄: ホゴ)。
- 1995年 5月25日～6月1日 ● **ロシア・チンロ水族館へ職員訪問**
(水生生物調査採集) 以後、数度にわたり交流
チンロ水族館職員の協力によりハンカ湖で採集した魚類を展示しました。



ゴマフアザラシ保護



ロシア・チンロ水族館へ職員訪問

1996

1996年 3月14日～3年間 ●ラッコ1頭(雌:ココ)を親善大使として神戸市立須磨海浜水族園に貸し出し 希少動物の繁殖と阪神大震災の復興記念として行いました。

1996年 3月17日 入館者400万人達成

1996年 3月20日 ●神戸市立須磨海浜水族園と姉妹水族館の協定締結

1996年 3月23日 ●トウホクサンショウウオ繁殖賞受賞 新潟県内に分布の南限がある静水性のサンショウウオです。

1996年 6月20日 ●トド2頭を小樽水族館から搬入 愛称は雄がタケ、雌がナーシー。

1996年 12月10日 ●神戸市立須磨海浜水族園とラッコの交換 血統管理のため、当館のトコと須磨海浜水族園のトニーを交換しました。



ラッコ1頭を神戸市立須磨海浜水族園に貸し出し



神戸市立須磨海浜水族園との協定締結 トウホクサンショウウオ繁殖賞受賞



トド2頭を小樽水族館から搬入 繁殖賞の受賞プレート

1997

1997年 3月10日 ●ラッコ1頭(雌:ララ)をかごしま水族館へ貸し出し 繁殖を目的とした貸し出し(ブリーディングローン)を行いました。

1997年 3月11日 ●当館で100羽目のフンボルトペンギン繁殖 旧水族館での飼育当初から血統に配慮して繁殖させ、ついに100羽に達しました。

1997年 8月27日 入館者500万人達成

1997年 10月 ●バックヤードツアー開始 (以降、リニューアル前まで実施) 日本海大水槽のガイドツアーを毎日実施しました。

MEMO

巣立ったヒナは飼育係が与える魚をなかなか餌とは認識しないので、餌を自力で食べる訓練をします。特に多く繁殖した1992年は30羽ほどもいて、何羽も同時に訓練するのはたいへんでした。



バックヤードツアー

1998

1998年 5月13日 ●かごしま水族館に貸し出しているラッコ“ララ”が出産 この仔もかごしま水族館に3年間貸し出されました。

1998年 10月6日 ●村上市の海岸に漂着したハナゴンドウの保護・治療 9日間にわたり治療を試みましたが、死亡しました。骨格標本をアクアラボに展示しました。

MEMO

自力遊泳できない状態だったので、担架で吊って水中姿勢を保持し、補液、流動食の強制給餌、投薬などの治療を行いました。24時間体制でのぞみましたが、回復しませんでした。病理解剖の結果、死因は肺炎による呼吸不全でした。



1999

1999年 1月14日～2月28日 ●絵画展「水の仲間たち」 (以降、リニューアル前まで実施) 小学生を対象に毎年実施しました。

1999年 7月20日 入館者600万人達成



絵画展「水の仲間たち」

2000

2000年 1月25日 ●ハンドウイルカ2頭搬入 和歌山県太地町から搬入した2頭は、7/18に愛称ランとアイに決定、ショーデビューしました。

2000年 2月29日 ●マンボウ2尾一般公開 現在のターボン水槽にマンボウを展示しました。壁面にぶつからないように水槽の内側にはフェンスを設置しました。

2000年 3月1日～3月31日 ●市制施行110周年記念 市民家族無料招待

2000年 3月14日 ●かごしま水族館へ貸し出しているラッコ“ララ”が返還 チャーター機で鹿児島から新潟へ輸送しました。

2000年 7月2日 ●ラッコ1頭“ナナ”ふくしま海洋科学館 アクアマリンふくしまへ貸し出し

2000年 7月27日～8月2日 ●開館10周年記念ウィーク クイズラリーポスタープレゼント 着ぐるみとの記念撮影 開館日7月27日からの1週間、様々なイベントを行いました。



ハンドウイルカ2頭搬入

MEMO

展示当初はフェンスの素材が弱く、時々マンボウがフェンスを破り外側に・・・その度に潜ってフェンスを手で縫いました。



着ぐるみとの記念撮影

2001

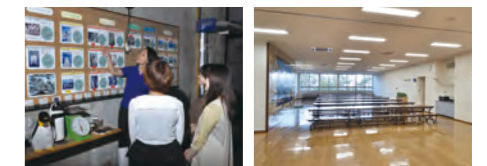
2001年 2月4日 ●保護カマイルカ2頭搬入 石川県で保護されたカマイルカ2頭を搬入しました。

2001年 4月22日 入館者700万人達成

2001年 6月23日 ●ペンギンガイドツアー開始 (以降、リニューアル前まで実施) 希望者10人ほどに、ペンギンについてのガイドツアーを行いました。



保護カマイルカ2頭搬入



ペンギンガイドツアー

団体休憩室増築オープン

2002

2002年 3月13日 ●本館2階団体休憩室増築オープン 休憩場所の拡張にとどまらず、講演会や生きもの教室の会場としても活用しています。

2002年 5月19日～6月30日 ●韓国ソウル市コエックスアクアリウムとの交流特別展開催 シュリヤクナブリなどの韓国産魚類を展示しました。

2002年 6月4日 ●当館で初めてアメリカビーバー繁殖 雄3頭、雌1頭の仔が生まれました。



2003

2003年 5月3日 入館者800万人達成

2003年 7月24日 ●エントランスホール演出更新 投影機での静止画から、実写に近い映像と音声を組み合わせたプロジェクター動画へリニューアルしました。

2003年 12月7日 ●お魚教室(硬骨魚を知る) 2006年から現在まで続く「いきもの教室」の前身となる体験型の教室を開始しました。

2004

2004年 1月10日 ●クラゲコーナー開設 地下の情報コーナー（現在の育成室の場所）をクラゲコーナーに改修し、8本の水槽でクラゲを展示しました。

MEMO

2003年、本館地下「情報コーナー」を「クラゲ展示にする」と突然の決定。そして、突然の「担当者指名」。私：「私これまでクラゲやったこと無いんですけど…」、上司：「頑張って!」、私：「…」。突貫工事の末、なんとか常設8本の展示を完成させました。しかし、本当の戦いはその後の展示の「維持」でした…。



2004年 4月 ●ボランティア募集開始 水族館活動への市民参加を目的として、ボランティア組織を結成しました。

2004年 7月 ●サマードルフィンスクール開始（2005年まで実施） 夏休みに小学4年生から中学生を対象に、イルカについて楽しく学べるスクールを開催しました。

2005

2005年 2月20日 ●新潟の水辺コーナー開設 サメ水槽から、田んぼ・湧水・山間の水辺をテーマとした展示に変更しました。



サマードルフィンスクール開始 新潟の水辺コーナー開設

2005年 6月1日 入館者900万人達成

2005年 12月6日 ●ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまからラッコの返還及び譲り受け 貸し出していたナナの返却と、アクアマリンふくしま所有のクータンを譲り受けました。

2006

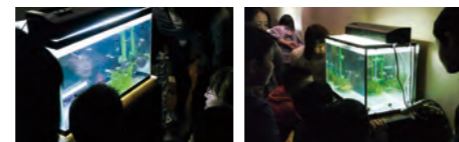
2006年 4月18日 ●バイカルアザラシ繁殖 飼育下では世界初、繁殖賞受賞 愛称を募集しカルに決定 親が育児をしなかったため、人工哺育を行いました。

MEMO

いつものように朝一番の確認に行くと、なんと産室にへその緒のついた白い仔がいました。初の人工哺育で毎日が試行錯誤の連続。発熱や便秘など色々ありましたが、元気に育ってくれました。



2006年 6月4日 ●いきもの教室開始 第1回「メダカの産卵と発生を調べてみよう」 毎月違ったテーマで、見る聞く触る考えるなど体験を通して生き物を知る2時間半のプログラムです。



いきもの教室開始

2006年 7月2日 ●当館で初めてトド繁殖 父はタケ、母はナーシーです。



当館で初めてトド繁殖 サマースクール開始

2006年 7月23日～8月31日 ●サマースクール開始 ふれあい探検、ドルフィンスクール、イルカトレーナー体験、ナイトツアーの4つのプログラムで構成されていました。以降、リニューアル前まで実施。

2007

2007年 4月17日 ●保護したカマイルカの雌を搬入 この個体(メメ)は、現在も生存しています。



2007年 6月19日 ●オガワコマッコウを保護 阿賀野川河口に生存漂着したオガワコマッコウを保護し、イルカ屋内プールへ収容しました。生存期間は3日間でした。骨格標本をアクアラボに展示しています。



2007年 8月17日 入館者数1,000万人達成

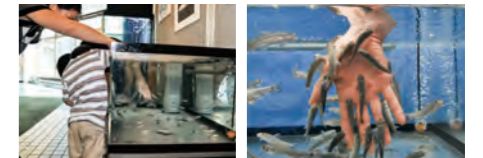
2008

2007年 11月23日 ●ふくしま海洋科学館 アクアマリンふくしまと友好館 提携署名式



友好館提携署名式

2007年 12月7日 ●ガラ・ルファ展示 通称：ドクターフィッシュとして人気のあったガラ・ルファを自由に手に入れられる水槽で展示しました。



ガラ・ルファ展示

2008年 4月1日 ●年間パスポート販売開始 年間に何度でも入館できるお得なパスポートの販売を開始しました。

2008年 9月14日 ●アシナガスジエビ繁殖賞受賞 新潟県の沿岸にも分布しているアシナガスジエビの繁殖と育成に、国内で初めて成功しました。



アシナガスジエビ繁殖賞受賞

2008年 10月3日 ●タッチプールガイド開始 ウニやヒトデを分かりやすく解説しました。

2008年10月8日 ●スマ初展示 ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまよりスマ22尾を譲り受けました。



スマ初展示

MEMO

ラッコは興奮すると体温が急上昇し死亡することもあるデリケートな動物のため、輸送には庫内を低温に保てる冷凍トラックを使います。新潟～須磨間を一晩かけて運びますが、同行する飼育員にとっては寒さや眠さとの戦いでした。

2009

2009年 3月24日～3月26日 ●神戸市立須磨海浜水族園とラッコの交換 神戸市立須磨海浜水族園のミーと当館のクータンを交換しました。

2009年 6月7日 ●ホシエイ初繁殖 日本海大水槽で生まれた幼魚は、信濃川水槽「河口・沿岸」に展示しました。

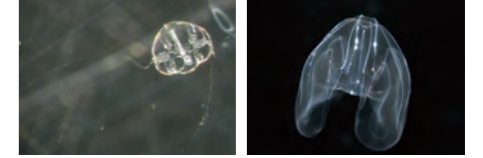


ホシエイ初繁殖

2009年 9月22日 入館者1,100万人達成

2010

2010年 5月8日 ●カプトクラゲ繁殖賞受賞 カプトクラゲは有櫛動物で雌雄同体です。育成個体が半年以上生存し産卵を確認したため繁殖賞に申請、認定されました。



カプトクラゲ繁殖賞受賞

20周年記念イベント

様々な参加型イベントを実施しました。

- マリンスafari給餌体験
- 日本海大水槽を上から見よう
- 日本海大水槽飼育体験 ●イワシのトルネード
- 水の生きもの相談会 ●アシカと記念撮影
- 日本海大水槽へエサをやろう!
- 20周年ペンギンガイド ●別館ガイド



2010年 9月24日～9月25日 ●お泊まり水族館 20周年記念イベントのひとつで、夜の水族館を解説付きで見学し、マリニピアホールに布団を並べて大水槽を眺めながら就寝しました。



2011

- 2011年 1月20日～2月20日 ● **コウイカ繁殖賞受賞**
卵から成体まで育てたコウイカが繁殖し、2世代目が6ヶ月以上生存したため繁殖賞に申請、認定されました。
- 2011年 2月22日 ● **大人のための水族館講座開始**
水族館好きな大人を対象とした講座や講演会を実施しました。
- 2011年 3月11日 ● **東日本大震災**
4月1日からふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまの生物を緊急受け入れしました。

2011年 11月14日 **入館者1,200万人達成**



コウイカ繁殖賞受賞 大人のための水族館講座

MEMO

避難してきた生物は、魚類と無脊椎動物22種206個体で、その中には、世界初の展示に成功し、国内唯一の飼育個体であるマルアオメエソも含まれていました。受け入れ期間は77日間で長期にわたりましたが、無事に帰館させることができました。



2012

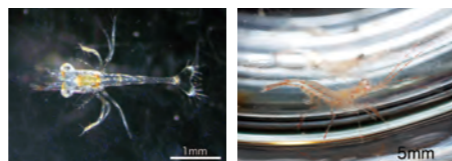
- 2012年 5月11日 ● **大阪・海遊館よりコツメカワウソを搬入当館で初めてコツメカワウソ展示**
老衰で死亡したカナダカワウソに代わり、コツメカワウソを展示しました。
- 2012年 7月15日 ● **新潟市北区太夫浜でアカウミガメの産卵を確認**
アカウミガメの産卵北限記録となりました。
- 2012年 8月20日 ● **Lysmata boggessi (ペパーミントシュリンプ) 繁殖賞受賞**
大西洋に分布するペパーミントシュリンプの繁殖に、国内で初めて成功しました。
- 2012年 9月1日～ ● **リニューアル工事のため休館**
老朽化対策、バリアフリー化、新たな魅力創出のためにリニューアル工事を行いました。



コツメカワウソ展示



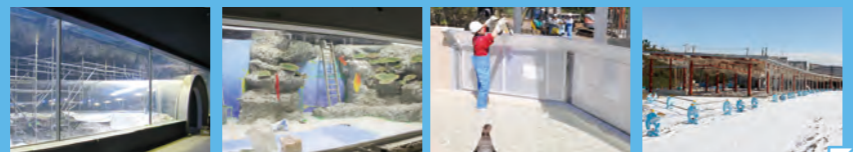
アカウミガメの産卵



ペパーミントシュリンプ繁殖賞受賞

MEMO

2012年9月1日 開館以来初めて水を抜かれた日本海大水槽の深さは4m、上からのぞいてみました。高所恐怖症の私にとって普段とはまったく異なる恐ろしい光景でした。



2013

- 2013年 6月2日 ● **田んぼ体験開始**
リニューアルオープンプレイバントとして実施しました。以降毎年開催しています。
- 2013年 6月30日 ● **アカシュモクザメ搬入・初展示**
リニューアルした日本海大水槽で、開館以来初めて、アカシュモクザメの飼育を開始しました。
- 2013年 7月15日 ● **リニューアルオープン** 入館者にピンパッチと缶パッチをプレゼントしました。



田んぼ体験 アカシュモクザメ搬入、初展示



2014

- 2013年 7月15日 ● **ひれあし類解説・ペンギン解説・アクアラボ体験スタート**
リニューアルオープンを機に解説プログラムを増やしました。
- 2013年 10月21日 ● **アカムツの人工育成成功**
ノドグロとして有名なアカムツの人工育成に、世界で初めて成功しました。



ひれあし類解説 ペンギン解説 アクアラボ体験

MEMO

展示への挑戦を開始したのが2008年、成魚の入手を計画しましたが、採集の難しさを痛感する結果となりました。2010年、人工授精による育成へと発想転換をして再挑戦しました。育成条件の解明に苦勞し、展示の実現まで実に5年を要しました。



- 2014年 2月11日～3月2日 ● **「ハンズオン」ガイド(日・祝のみ)開始**
新たに設置したハンズオングッズ(体験学習教材)の活用の仕方を解説しました。2016年まで実施。
- 2014年 3月8日～3月16日 ● **育成室ガイド開始**
普段は間近で見ることができない室内を解説付きで見学できるガイドを開催しました。
- 2014年 3月25日～3月28日 ● **骨格標本ガイド「骨から学ぶイルカのあれこれ」開始**
イルカの体のつくりを、骨格標本を通してツアー形式で解説しました。2016年まで実施。
- 2014年 3月28日 ● **ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまよりユーラシアカワウソを搬入当館で初めてユーラシアカワウソ展示**
ニホンカワウソの基亜種であるユーラシアカワウソを展示しました。



育成室ガイド開始



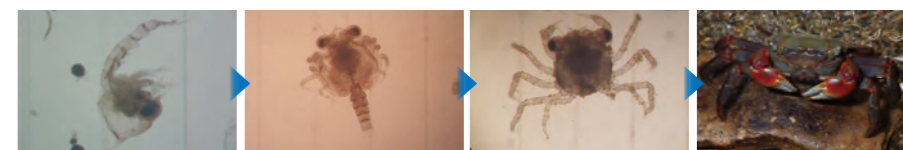
骨格標本ガイド開始



ユーラシアカワウソ展示

2014年 4月27日 **入館者1,300万人達成**

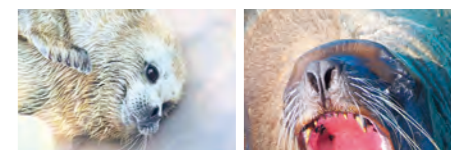
- 2014年 7月23日 ● **アカテガニ繁殖賞受賞**
日本各地に生息する陸生のカニ、アカテガニの飼育下繁殖に成功しました。



- 2014年 7月26日～8月4日 ● **夏期体験型プログラム「どないきもの?イルカに注目」**
夏休みのイベントとして、イルカを知ってもらうための体験型プログラムを実施しました。



- 2014年 12月13日～2015年 1月8日 ● **フォトコンテスト開始**
一般の方から「マリニピア日本海にいる生き物」などの写真作品を応募いただき、その中から受賞作品を選び展示しました。

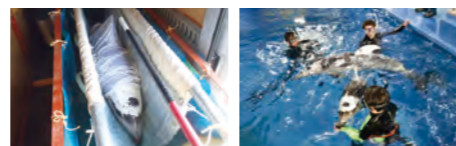


- 2014年 12月28日 ● **新潟市西蒲区越前浜に全長3.8mのリュウグウノツカイ漂着(1月2日～4日に展示)**
開館以来初めての展示となりました。



2015

2015年 2月15日 ● **保護したカマイルカ2頭を搬入**
石川県で保護されたカマイルカ2頭を搬入しました。



カマイルカ搬入

2015年 7月23日～8月12日 ● **にいがたフィールドガイド開始**
にいがたフィールドで水辺の生きものについて解説するガイドを開催しました。



にいがたフィールドガイド

2015年 8月25日 ● **ロクセンスズメダイ繁殖賞受賞**
熱帯の海に生息しているロクセンスズメダイの繁殖に、国内で初めて成功しました。



2015年 9月24日 ● **長岡市寺泊沖でROV調査実施**
ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまと共同で、日本海の100m以深の海底調査を実施しました。



ROV調査実施

ザトウクジラ漂着

2015年 11月3日 ● **胎内市桃崎浜でザトウクジラが漂着**
幼獣と思われるザトウクジラが死亡漂着しました。

2016

2016年 1月31日 **入館者1,400万人達成**

2016年 2月8日 ● **佐渡市の定置網でリュウグウノツカイを捕獲**
生きたまま捕獲されたので、たいへん良い状態で展示できました。現在は剥製を展示中です。



MEMO

運ばれてきた個体は、神秘的な美しさを保っていました。新鮮なうちに展示しようと、ありものの材料を集めて大急ぎで展示台を作りました。



2016年 2月24日 ● **クロベンケイガニ繁殖賞受賞**
日本各地に生息する陸生のカニ、クロベンケイガニの飼育下繁殖に成功しました。

MEMO

アカテガニと同じく、生存率をはかるために、1mmくらいの幼生約1000個体をちまちま数えるのが大変でした。



2016年 3月16日 ● **活魚輸送車導入**
水量2.5m³の水槽を搭載した輸送専用のトラックを導入しました。

MEMO

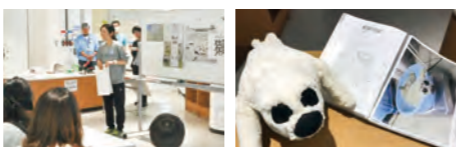
展示生物を安全に状態良く運ぶことを考えながら、飼育員自らが設計しました。断熱材や水槽の形状などを何度も見直し、深海生物や熱帯魚、高速で泳ぐ回遊魚まで、様々な生息環境の生物に対応できる世界に一台しかない特別車両が完成しました。



2016年 8月1日～ ● **イルカバックヤードミニガイド**
イルカのバックヤードを30分程度で案内するミニガイドを行いました。

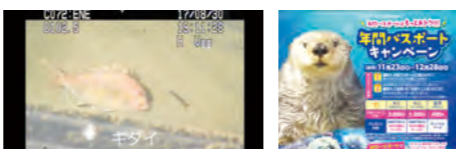
2017

2017年 1月14日～1月15日 ● **バイカルアザラシ“カル”の1/2成人式(1/7～1/15パネル展示)**
当館生まれのバイカルアザラシが10歳になったのを記念して、誕生時の様子や成長の記録を等身大模型や絵日記・VTRなどで紹介しました。



カルの1/2成人式

2017年 5月27日～5月28日 ● **世界カワウソの日イベント開始**
世界カワウソの日(5月の最終水曜日)に合わせて、カワウソを知ってもらうためのイベントを開催しました。



ROV調査実施

年パスキャンペーン

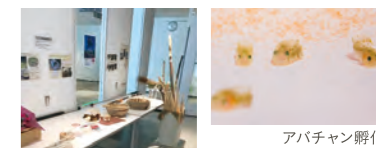
2017年 8月30日 ● **寺泊沖で第2回ROV調査実施**
ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまと共同で、アカアマダイ・キダイ等の撮影に成功しました。

2017年 11月22日 **入館者数1,500万人達成**

2018

2017年 11月23日～12月28日 ● **年パスキャンペーン(クーポン配布)開始**
期間中、年間パスポートを購入の方に館内で使える割引クーポンなどをプレゼントするキャンペーンを始めました。

2018年 1月13日～1月14日 ● **ビーバー1/2成人式**
アメリカビーバー2頭の10歳を記念して、アメリカビーバーを知ってもらうためのイベントを行いました。



アバチャン孵化

ビーバー1/2成人式

2018年 6月9日 ● **海辺のいきもの観察会開催**
砂浜に生息する生物を知ってもらうことを目的とした観察会を開始しました(以降、スナガニ観察会として継続)。



世界水族館会議 ポスター

2018年 9月1日 ● **自然産卵のアバチャンが孵化**
日本海型(黄色斑紋型)のアバチャンが、飼育下で初めて産卵し、ふ化仔魚を1年間育成することに成功しました。

2018年 11月9日 ● **世界水族館会議 ポスター発表**
Genetic strain analysis and conservation activities in *Pseudorasbora pumila*(ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま) 世界中から水族館関係者が参加した国際会議でポスター発表を行いました。



コンペイトウ初展示

2018年 12月5日 ● **コンペイトウ初展示**
コンペイトウを開館以来初めて展示しました。飼育下での産卵も確認されました。



ヒゲナガヤギウオ初展示

2019

2019年 1月11日 ● **ヒゲナガヤギウオ初展示**
全国でも飼育が希少な種です。動物プランクトンを食べるのが分かりました。

2019年 4月20日～4月21日 ● **ペンギンの日イベント**
世界ペンギンの日(4月25日)に合わせて、ペンギンを知ってもらうためのイベントを開催しました。



ペンギンの日イベント

2019年 5月9日 ● **トゲビクニン国内初展示**
日本海固有種です。当館の採集活動で、新潟県での分布が明らかとなりました。



トゲビクニン国内初展示

2019年 7月8日 ● **日本海の磯コーナーリニューアル**
日本海の磯コーナーの壁面に、佐渡島と越後七浦の風景が描かれ、日本海大水槽の魅力がアップしました。

MEMO

生まれたての仔イルカの体は、フニャフニャで上手く泳げません。母イルカは仔が壁にぶつからないようにガードしたり、呼吸しやすいように泳いだり、しばらくは24時間ひたすら寄り添い面倒を見ていました。母の力は偉大であると改めて感じました。



2019年 7月29日 ● **カマイルカ当館初繁殖**
15時48分に体長約104cm、オスのカマイルカが誕生しました。これに伴い初めてイルカショーを中止しました。

2019年 8月26日 ● **海底を泳ぐアカムツ撮影成功**
世界初! ROV調査で、水深150m付近の砂泥底を泳ぐ、幼魚と成魚の2個体の撮影に成功しました。

MEMO

謎の多いアカムツの生態を探るため、2015年から毎年実施してきました。様々な水深や地形を調査しましたが、過去3回は空振りでした。4回目のこの年、最も好むと思われる泥底にポイントを絞って調査した結果、ようやく撮影に成功しました。



日本海の磯コーナーリニューアル



フェダイ展示

2019年 10月18日 **入館者数1,600万人達成**

2019年 10月22日 ● **日本海で採集されたフェダイを展示**
日本海側では2例目、北限記録を更新しました。

2020

2020年 4月1日 ● **30周年企画展示「マリニピア日本海30年のあゆみ」スタート**

2020年 4月21日～5月10日 ● **新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館**

2020年 7月27日 ● **開館記念日**

企画展示の歴史

1991

3月17日～5月12日
春期特別展「日本のエビ・カニの仲間たち」

水槽20本 生物80種

7月25日～8月6日
開館1周年記念出張展示(伊勢丹4Fおもちゃ売場)

生物 約20種 120点

1992

7月18日～9月6日
夏期特別展「深海の世界」

水槽4本 生物12種

佐渡沖海底生物探査の映像上映。東海大学海洋科学博物館収蔵の深海魚標本を借用展示。



10月2日～10月11日
はらたいら原画展
10月4日:講演会・サイン会

1993

7月17日～9月5日
夏期特別展「サンゴ礁の生き物たち」

水槽16本

10月9日～12月5日
水口博也写真展「ドルフィン—波の記憶—」

11月20日～11月26日
ハイビジョンシアター「オルカの国への旅」他

1994

4月23日～5月8日
春期特別展「春の水辺の生き物たち」

春の水辺に生息する身近な生物を展示。

水槽18本 生物45種

7月23日～9月4日
夏期特別展
「水の世界の忍者たち 水生生物の生活防衛戦略」

自然の中では、さまざまな生き物が直接的、間接的に影響し合っていて生きています。水の中にすむ生き物たちのいろいろな戦略、特に食われないための工夫にスポットをあて、水生生物の生活防衛戦略として紹介。

水槽15本 生物39種

1995

3月25日～6月4日
春期特別展「角田・弥彦山麓の水生生物」

水槽9本 生物17種

7月22日～8月31日
開館5周年記念 夏期特別展
「シーラカンスと古代魚展」

古代魚の代表的な存在であるシーラカンスのはく製、内蔵標本および解説パネルなどを中心に展示。その他、古代魚と総称される魚類群を紹介することで、最初の脊椎動物である魚類の進化を解説。

シーラカンス剥製+パネル等一式レンタル

水槽4本 生物8種



11月3日～12月3日
秋期特別展「ロシア沿海州の魚類」

TINRO(チンロ:太平洋水産海洋研究所)から招待され、1995年5月25日～6月1日にロシア ウラジオストクにあるTINRO附属水族館を訪問、飼育技術に関する情報交換とロシア沿海州に生息する魚類の採集調査を行った。その時の成果を紹介。

水槽4本 生物5種 標本

1996

4月27日～5月31日
春期特別展「新潟の希少淡水魚」

水槽8本 生物13種

5月12日
春期特別展講演会「新潟県の淡水魚相とその現状」
井上信夫(ネイチャーワーク)

5月19日
春期特別展講演会「中条町のイバラトミヨ保護活動」
佐藤 正(イバラトミヨ・水芭蕉の会)

7月20日～9月1日
夏期特別展
「調べてみよう水の生き物たち
—水生動物の系統分類学入門—」

動物界を構成する生物を分類学的に解説。主に水生生物を含む分類群について生体を展示し紹介。

水槽24本 生物30種

7月28日
夏期特別展講演会「海の動物の形の不思議」
武田正倫(国立科学博物館)

8月4日
夏期特別展講演会「水生動物の分類と系統」
内田紘臣(串本海中公園センター)

1997

3月20日～5月11日
春期特別展「日本の希少淡水魚」

水槽13本 生物13種

4月6日 春期特別展講演会
「神戸の淡水魚事情 —ナガレホトケドジョウについて—」
青山 茂(神戸市立須磨海浜水族園)

7月20日～8月31日
夏期特別展「刺胞動物ってなーに
クラゲやイソギンチャク、サンゴの仲間たち」

水槽15本 生物42種

8月3日 夏期特別展講演会
「刺胞動物の世界(刺胞動物4綱の分類)」
内田紘臣(串本海中公園センター)

9月27日～11月17日
磐越道全通記念 秋期特別展
「水口博也写真展 巨鯨の海 -Whale Odyssey」

1998

3月21日～5月31日
春期特別展
「湧き水の生き物—胎内川のどっこん水から—」

胎内川の形成する扇状地内(旧中条町周辺)には伏流水が湧き出す地帯が点在し、そこでは独特な生態系が存在する。そこにすむ水生生物を展示し、周辺の自然環境について紹介。

水槽6本 生物16種

5月10日
春期特別展講演会「中条町のイバラトミヨ保護活動」
佐藤 正(イバラトミヨ・水芭蕉の会)

7月25日～8月31日
夏期特別展「棘皮動物の世界
ウニ・ヒトデ・ナマコの仲間たち」

水槽11本 生物29種

8月2日 夏期特別展講演会
「棘皮動物の世界—ウミユリ類を中心に—」
小郷一三(大阪清風学園)



1997年夏期特別展で作成した冊子の表紙



1998年夏期特別展で作成した冊子の表紙

1999

3月20日～5月9日

春期特別展「新潟県の通し回遊魚」

淡水、海水の両域を利用する通し回遊魚のうち、新潟県で記録されている27種について、11種の生体展示を中心にその生態を解説。

水槽10本 生物11種

4月25日 春期特別展講演会

「川と海を回遊する魚—新潟の春告げ魚イトヨを中心に—」
樋口正仁（新潟県）

7月25日～8月31日

夏期特別展 「繁栄する節足動物の世界 ～三葉虫からタガメまで～」

水槽14本 生物30種

8月22日

講演会「負けて得するヤドカリの争い」
今福道夫（京都大学）

2000

3月25日～5月7日

春期特別展「メダカ展」

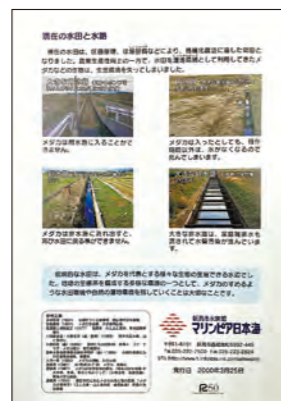
水槽6本 生物10種

4月23日 春期特別展講演会

「ところ変わればメダカも変わる」
酒泉 満（新潟大学）



メダカ展で作成した冊子の表紙



メダカ展で作成した冊子の裏表紙

7月25日～8月31日

夏期特別展「軟体動物の世界 ～貝・イカ・タコの仲間たち～」

水槽19本 生物53種



8月6日

夏期特別展講演会「タコの不思議な生活」
奥谷喬司（日本大学）

9月30日～10月31日

ペーパークラフト展「ペラペラ水族館」

後藤 慶（紙工作作家）

2001

2001年3月25日～6月3日

春期特別展「新潟県の外来生物」

ブラックバス（オオクチバス、コクチバス）やブルーギルなど、新潟県に生息する外来種（おもに淡水魚類）を展示し、それらが侵入してきた経緯や、在来種に与える影響などを紹介。

水槽9本 生物12種

4月15日

春期特別展講演会「新潟県の外来生物」
井上信夫（雪国自然学校）、本間智晴（新潟県）

7月25日～8月31日

夏期特別展「脊索動物の世界～ホヤから人まで」

水槽18本 生物42種 剥製 骨格標本

8月5日

夏期特別展講演会「脊索動物、5億5千万年の旅」
野崎真澄（新潟大学）

9月29日～11月4日

企画展「マリニピア日本海11年の歩み」

2002

3月21日～6月2日

春期特別展「新潟県の希少水生生物」

2001年に刊行された「レッドデータブックにいがた」の中から、おもに新潟市周辺に生息する水生動物を展示し、希少種に選定された理由と希少化の原因を紹介することにより、生物多様性保全の重要性を解説。

水槽7本 生物22種

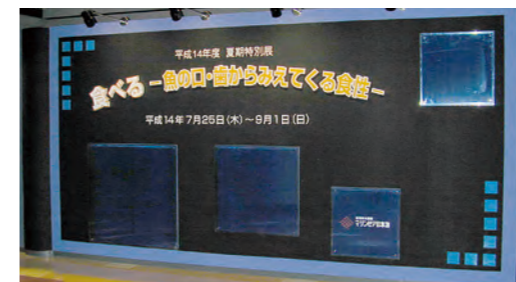
4月21日

春期特別展講演会「新潟県の希少水生動物」
須藤弘之（新潟県）、井上信夫（雪国自然学校）

7月25日～9月1日

夏期特別展 「食べる—魚の口・歯からみえてくる食性—」

水槽19本 生物35種



2003

3月21日～6月1日

春期特別展「川の生物とすみ場のいろいろ」

水槽9本 生物25種

7月25日～8月31日

夏期特別展「泳ぐ—体のつくりと泳ぎ方—」

水槽16本 生物20種



2004

3月20日～6月6日

春期特別展「ふるさとの水辺～新潟市とその周辺でみられる淡水生物」

水槽9本 生物16種

5月30日 春期特別展講演会

「ふるさとの水辺～新潟市とその周辺でみられる淡水生物」
当館職員

7月24日～8月31日

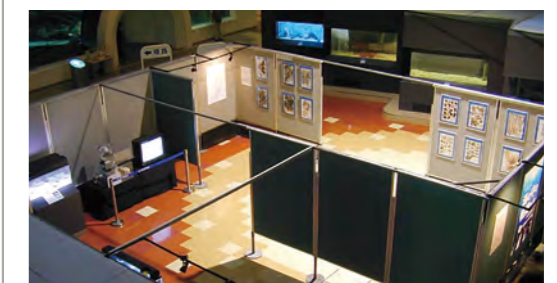
夏期特別展 「身を守る—水生生物のサバイバル術—」

2005

1月2日～5月15日

春期特別展「海の中の植物たち～海藻・海草～」

水槽4本 顕微鏡 海藻標本38種



7月23日～8月31日

夏期特別展 「水生生物のオスとメス—繁殖と性—」

2006

3月25日～5月31日

春期特別展「新・新潟市の水辺～福島潟～」

水槽3本 漁具等

7月23日～8月31日

夏期特別展 「魚ってなに？—魚の分類・進化入門—」

2007

3月24日～4月8日

春期特別展「さかなのあかちゃん
—水族館生まれの水生生物—」

7月21日～8月26日

夏期特別展「魚のふしぎ!どっちがどっち」

水槽14本 生物20種



2008

3月20日～5月18日

春期特別展「生きている化石展」

2007年にマリニア日本海と友好提携を結んだアクアマリンふくしまの特別協力を得て、様々な「生きている化石」を生体展示し、また、同館が世界で初めて撮影に成功したインドネシア産シーラカンス(学名: *Latimeria menadoensis*)の水中映像紹介。

水槽14本 生物13種 化石9種

シーラカンス模型 映像

7月16日～8月31日

夏期特別展
「えび・海老・蝦 エビの自然史」



水槽14本 生物34種

2009

3月20日～5月31日

春期特別展「新潟のカエル・サンショウウオ」

新潟県に生息する両生類19種のうち15種を展示し、分類や両生類特有の変態、繁殖生態、生息域の環境問題などを紹介。

水槽15本 生物15種

7月18日～9月27日

夏期特別展「ドッキリ 海の有毒生物」

水槽18本



2010

3月20日～4月11日

春期特別展「新潟県の希少淡水魚保護の現状」

水槽4本 生物4種

7月17日～8月31日

夏期特別展「対馬暖流の贈り物」

日本海の生物構成に大きな影響を与えている「対馬暖流」について、開館以来20年間に渡り収集してきた標本展示及び、日本海を特徴づける魚類等を展示。

水槽13本 骨格標本3体 液浸標本1体

12月18日～1月30日

冬期特別展「クマノミのふしぎ」

水槽9本 生物31種



2011

3月19日～4月10日

春期特別展
「新潟市レッドデータブックの水生生物」

2010年に刊行された「大切にしたい野生生物—新潟市レッドデータブック—」に掲載されている水生動植物を展示し、希少化の原因などを紹介することにより、生物多様性保全の重要性を解説。

水槽20本 生物25種



7月16日～8月31日

夏期特別展「海の生物「色のひみつ」」

海洋動物の体の色には、生息環境と密接な関係がある。カモフラージュやエネルギー獲得のためなど、それぞれ生きるための重要な意味が隠されている。実際の生物や模型などを用いて解説。

水槽11本 生物48種



2012

1月14日～2月29日

冬期特別展「よみがえれ、日本の淡水魚」

水槽3本 生物5種

4月28日～5月31日

春期特別展「鳥屋野湯の水生生物」

水槽9本 生物24種



7月14日～8月31日

夏期特別展
「ハゼのなぜ」

ハゼ亜目は272属2,236種おり、海洋や河川にすみ生息環境は著しく多様である。その食性の相違、毒の保有、他生物との共生、性転換など独自の進化が見られる。身近なハゼに関する「なぜ」に着目し、生態などを解説・展示。

水槽13本 生物44種



「ハゼのなぜ」で作成した冊子の表紙

2013

7月15日～9月15日

夏期特別展「写真展
マリニア日本海
リニューアルの歩み」

12月20日～2月5日

冬期特別展示
「アカムツ稚魚
世界初公開」

世界で初めてアカムツの人工授精から稚魚までの育成に成功した。成功に至る様々な研究の取り組みをパネルで紹介。飼育下育成個体を生体展示することで、新たに解明された生態などを紹介。

水槽1本 生物1種



2014

2月14日～4月6日

冬期特別展示「越佐海峡漁の副産物」

水槽3本 生物7種

4月18日～6月1日

春期特別展示「春の風物詩シロウオ」

水槽2本 生物1種

6月13日～6月29日

特別展示「にいがたフィールドの水生生物」

水槽2本 生物14種 トンボ羽化殻標本

7月18日～8月31日

夏期特別展示「新潟の魚～名前の由来～」

水槽4本 生物4種

9月19日～11月24日

秋期特別展示「アカムツ幼魚公開記念～人工授精から育成までの軌跡～」

デジタルサイネージ2台

2015

2月7日～3月4日
冬期特別展示「展示スタッフの一押し生物」

3月20日～5月31日
**春期特別展示
 「シロウオ～
 春を告げる魚～」**

水槽2本 生物2種

7月3日～8月31日
**夏期特別展示「海水魚と
 淡水魚～適応のしくみ～」**

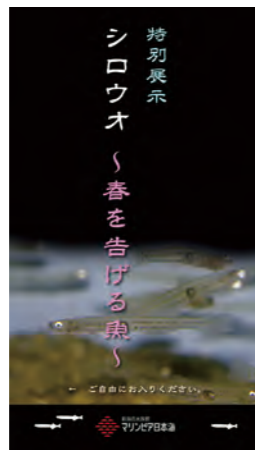
多くの真骨魚の生息地が海水域と淡水域に分かれていることについて、環境水の塩分濃度の違いとそれに伴う浸透圧調整の仕方の違いに焦点を当てて、生体・パネルを用いて解説する。

水槽4本 生物9種

9月18日～11月1日
秋期特別展示「守ろう!新潟の希少淡水魚」

水槽4本 生物9種

5月20日
 講演会「守ろう!地域の淡水魚～地域の自然と共に生きるには～」
 小西 蘭(信州大学)、樋口 正仁(五泉トゲソの会)



2016

2月9日～2月11日
特別展示「リュウグウノツカイ」

生鮮展示の後、剥製保存

2月19日～4月10日
**冬期特別展示
 「水中探査機で見た水深100mの日本海」**

2015年9月24日、新潟県長岡市の寺泊沖で水深100m付近に生息する生物の生態調査を、友好提携館である「ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま」の協力のもと、遠隔操作型水中探査機(ROV)を使っておこなった。この調査で得られた水深100m付近に生息する生物の生態や生息場所の水温、底質の様子などを紹介。

水槽3本 生物4種 プロジェクター動画 ROV実物大模型

4月28日～5月29日
春期特別展示「春を告げる魚」

水槽3本 生物3種

7月15日～8月28日
夏期特別展示「魚って何だ？」

水槽5本 生物12種 シーラカンスペーパークラフト

9月16日～10月30日
**秋期特別展示
 「新潟のサンショウウオ」**

日本に分布するサンショウウオ科は28種、東西に長く山地や水域などの地形の多様性に富む新潟県にはそのうち7種が分布している。このうち5種と、同じ有尾目に属するアカハライモリ(イモリ科)を紹介し、絶滅のおそれが増しているサンショウウオの現状について紹介。あわせて、新潟県には自然分布しない日本固有種かつ世界最大の現生両生類である特別天然記念物オオサンショウウオも特別展示。

水槽4本 生物7種

12月23日～12月25日
特別展示「クサビフグ」

生鮮展示の後、剥製保存



2017

1月2日～1月4日
特別展示「アカナマダ」

生鮮展示の後、剥製保存

2月10日～4月9日
**冬期特別展示「アカムツ水槽
 リニューアル記念企画～アカムツ稚魚公開～」**

水槽2本 生物1種



4月28日～6月11日
春期特別展示「新潟の淡水カメ」

水槽4本 生物4種

5月20日
 講演会「新潟県の淡水カメ類」
 井上信夫(潟環境研究所)

7月14日～9月24日、9月30日～11月26日
特別展示「新潟市水族館50年のあゆみ」

1967年にマリンピア日本海の前身となる「新潟市立新潟水族館」が開館して50周年となることから50年をふりかえる展示を開催。

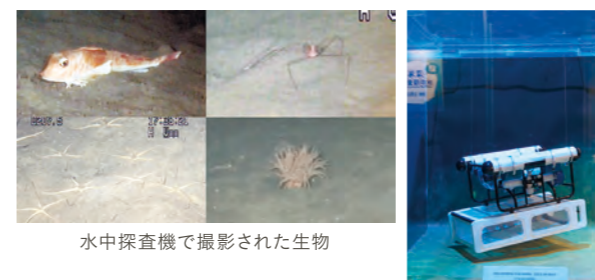
2018

1月2日～1月8日
特別展示「ノコギリザメ」

2月23日～4月8日
**企画展示
 「深海には何がある?水中探査機で見た日本海」**

水中探査機を水深208mまで潜行させて撮影した日本海の海底環境と、そこに生息している生物を紹介。

水槽3本 生物9種 プロジェクター動画 1/4ROV模型 圧縮カップ麺容器



水中探査機で撮影された生物

水中探査機の模型

4月27日～6月17日
企画展示「育てる～マリンピア日本海の繁殖・育成～」

水槽3本 ペンギン巣穴模型 バイカルアザラシ顔出しパネル

7月13日～9月24日
企画展示「新潟の外来魚～失われゆく多様性～」

水槽6本 生物14種

8月18日
 講演会「参入する外来生物～変貌する水中世界～」
 井上信夫(潟環境研究所)

12月1日～3月31日
**企画展示「水深100mを知る
 ～水中探査機で見た!日本海の海底と生物」**

デジタルサイネージ動画 1/4ROV模型 圧縮カップ麺容器

12月8日
 講演会「日本海北部における海洋環境と生物資源調査」
 八木祐太(日本海区水産研究所)・当館職員

2019

3月15日～5月26日
**企画展示
 「海の生き物を集める～水族館の収集活動～」**

水槽4本 生物14種 採集道具 1/4活魚輸送車模型

活魚車ペーパークラフト

7月12日～9月16日
企画展示「身近に潜む海のキケン生物」

身近に生息する危険生物を生体展示や解説パネルを用いて紹介。毒の成分、被害時の症状、応急処置、危険回避などについても紹介。

水槽5本 生物16種 標本



10月11日～12月1日
企画展示「新潟の淡水エビ・淡水カニ」

水槽10本 生物10種

2020

4月1日～2021年5月9日
**30周年企画展示
 「マリンピア日本海30年のあゆみ」**

固定展示として30年間の年表を掲示。その他、期間を4つに分け、テーマ展示を開催。



- テーマ展示
- 4月1日～7月27日 「魚とイルカの運び方」
 - 8月1日～11月3日 「ラッコとペンギンの30年」
 - 11月7日～1月24日 「バイカルアザラシとカマイルカの誕生秘話」
 - 2月20日～5月9日 「復活!ガラ・ルファ/アカムツ展示への挑戦」

教育プログラム

※1991年から2000年のデータは10周年記念誌から引用したものが多いため、2001年以降のデータ項目と異なる場合があります。
 ※参加者数については、正確な人数が残っていないものもあるため、記載していないものもあります。
 ※オープン年(1990年)は常設プログラム以外の教育プログラムは実施していません。

■ 1991年度(平成3年度)

ドルフィンウィーク(5月19日～26日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月19日(日)
タイトル	イルカタッチデー
日程	5月20日(月)～5月26日(日)
タイトル	イルカクイズ
日程	5月26日(日)
タイトル	イルカパネル展
日程	5月19日(日)～5月26日(日)

自然観察会		
1	日程	6月6日(日)
	場所	現 西蒲区 天神山・仁箇堤
	内容	里山での生物相の観察
	参加者数	8人
2	日程	11月21日(日)
	場所	現 胎内市地本 他
	内容	湧水池の生物相の観察
	参加者数	12人

■ 1992年度(平成4年度)

ドルフィンウィーク(5月17日～24日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月17日(日)
タイトル	イルカと記念撮影
日程	5月18日(月)～5月23日(土)
タイトル	イルカクイズ
日程	5月24日(日)
タイトル	イルカパネル展
日程	5月17日(日)～5月24日(日)

■ 1994年度(平成6年度)

ドルフィンウィーク(5月15日～22日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月15日(日)、5月22日(日)
タイトル	イルカと記念撮影
日程	5月16日(月)～5月21日(土)
タイトル	イルカパネル展
日程	5月15日(日)～5月22日(日)

自然観察会		
1	日程	6月19日(日)
	場所	現 胎内市地本
	内容	トミヨ属淡水型の生息地での観察
	参加者数	13人
2	日程	8月24日(日)
	場所	水族館前の海岸
	内容	海岸に生息する生物の収集と観察
	参加者数	19人
3	日程	10月30日(日)
	場所	信濃川河口～加茂川上流
	内容	河川の問題と生物相
	参加者数	8人

■ 1993年度(平成5年度)

ドルフィンウィーク(5月16日～23日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月16日(日)、5月23日(日)
タイトル	イルカと記念撮影
日程	5月17日(月)～5月22日(土)
タイトル	イルカパネル展
日程	5月16日(日)～5月23日(日)

■ 1995年度(平成7年度)

ドルフィンウィーク(5月18日～24日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月21日(日)、5月24日(水)
タイトル	イルカと記念撮影
日程	5月18日(木)～5月20日(土)、5月22日(月)・23日(火)
タイトル	イルカパネル展
日程	5月18日(木)～5月24日(水)

自然観察会		
1	日程	6月11日(日)
	場所	現 西蒲区白勢川
	内容	小河川の中流域と河口域の環境と生物相
	参加者数	65人
2	日程	8月20日(日)
	場所	現 西蒲区間瀬田ノ浦海岸
	内容	海岸に生息する生物の収集と観察
	参加者数	31人
3	日程	10月15日(日)
	場所	阿賀野川河口域と松浜の池
	内容	河口域や海岸部にあるため池の環境と生物相
	参加者数	40人

■ 1996年度(平成8年度)

ドルフィンウィーク(5月19日～26日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月19日(日)、5月26日(日)
タイトル	イルカの飼育体験
日程	5月20日(月)～5月25日(土)
タイトル	イルカと記念撮影
日程	5月20日(月)～5月25日(土)
タイトル	イルカパネル展
日程	5月19日(日)～5月26日(日)

自然観察会		
1	日程	6月23日(日)
	場所	現 胎内市地本・大出
	内容	湧水と水生生物
	参加者数	41人
2	日程	8月25日(日)
	場所	水族館前の海岸
	内容	海岸に生息する生物の収集と観察
	参加者数	38人
3	日程	10月20日(日)
	場所	阿賀野川河口域と松浜の池
	内容	河口域や海岸部にあるため池の環境と生物相
	参加者数	荒天のため中止

■ 1997年度(平成9年度)

ドルフィンウィーク(5月18日～25日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月18日(日)～5月25日(日)
タイトル	イルカの解説と写真撮影
日程	5月19日(月)～5月24日(土)
タイトル	冊子「水族館探検シリーズ2 イルカ編」の配布
日程	5月18日(日)～5月25日(日)

自然観察会		
1	日程	6月15日(日)
	場所	現 西蒲区白勢川
	内容	小河川の中流域と河口域の環境と生物相
	参加者数	35人
2	日程	8月24日(日)
	場所	水族館前の海岸
	内容	海岸に生息する生物の収集と観察
	参加者数	26人
3	日程	11月2日(日)
	場所	阿賀野川河口域と松浜の池
	内容	河口域や海岸部にあるため池の環境と生物相
	参加者数	27人

■ 1998年度(平成10年度)

ドルフィンウィーク(5月17日～24日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月17日(日)～5月24日(日)
タイトル	バックヤード見学ツアー
日程	5月17日(日)～5月23日(土)
タイトル	講演「イルカの話」
日程	5月17日(日)、5月24日(日)
タイトル	鯨類骨格標本の展示
日程	5月17日(日)～5月24日(日)

自然観察会		
1	日程	5月17日(日)
	場所	現 胎内市地本
	内容	湧水と水生生物
	参加者数	34人
2	日程	8月23日(日)
	場所	水族館前の海岸
	内容	海岸に生息する生物の収集と観察
参加者数	23人	
3	日程	10月18日(日)
	場所	阿賀野川河口域と松浜の池
	内容	河口域や海岸部にあるため池の環境と生物相
参加者数	荒天のため中止	

■ 1999年度(平成11年度)

ドルフィンウィーク(5月16日～23日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月16日(日)～5月22日(土)
タイトル	特別展示「新潟県の漂着鯨類」
日程	5月16日(日)～5月30日(日)
タイトル	講演「漂着鯨類の緊急保護の実際」
日程	5月23日(日)
タイトル	イルカについての解説
日程	5月17日(月)～5月22日(土)

自然観察会		
1	日程	6月6日(日)
	場所	現 西蒲区白勢川、大河津分水河口域
	内容	通し回遊魚の遡上観察
	参加者数	31人
2	日程	8月1日(日)
	場所	現 西蒲区間瀬田野浦海岸
	内容	海岸の地形と水生生物の観察
参加者数	33人	
3	日程	10月17日(日)
	場所	阿賀野川河口域と松浜の池
	内容	河口域や海岸部にあるため池の環境と生物相
	参加者数	荒天のため中止

■ 2000年度(平成12年度)

ドルフィンウィーク(5月20日～28日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月20日(土)、5月28日(日)
タイトル	イルカと写真撮影
日程	5月20日(土)、5月22日(月)～5月27日(土)
タイトル	特別展示「イルカの輸送」
日程	5月20日(土)～28日(日)

自然観察会		
1	日程	6月4日(日)
	場所	現 北区太夫浜
	内容	メダカの観察
	参加者数	35人
2	日程	8月9日(日)
	場所	水族館前の海岸
	内容	海岸に生息する生物の採集と観察
参加者数	18人	

■ 2001年度(平成13年度)

ドルフィンウィーク(5月19日～27日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月19日(土)～27日(日)
回数	9回
内容	イルカについての講義・エサ作り・トレーニング体験など
参加者数	18人

自然観察会		
1	日程	5月30日(水)
	場所	信濃川下流河川敷公園(現 西区山田)
	内容	信濃川下流にあるワンドで刺し網漁を行い、外来魚調査と駆除を実施
	参加者数	12人
2(1)	日程	6月17日(日)
	場所	現 北区太夫浜
	内容	太夫浜にある田んぼ脇の水路でメダカなどの淡水生物を観察 ※ 2(1)～2(4)まで4回とも同じ当選者による4回プログラム
参加者数	13人	
2(2)	日程	7月29日(日)
	場所	現 北区太夫浜
内容	太夫浜にある田んぼ脇の水路でメダカなどの淡水生物を観察	
参加者数	17人	
2(3)	日程	9月16日(日)
	場所	現 北区太夫浜
	内容	太夫浜にある田んぼ脇の水路でメダカなどの淡水生物を観察
参加者数	11人	
2(4)	日程	10月21日(日)
	場所	現 北区太夫浜
	内容	太夫浜にある田んぼ脇の水路でメダカなどの淡水生物を観察
参加者数	6人	
3	日程	8月11日(土) 荒天のため中止
	場所	水族館前の海岸
	内容	水族館前の海岸で生物を採集し、観察
参加者数	17人	

■ 2002年度(平成14年度)

ドルフィンウィーク(5月18日～26日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月18日(土)～26日(日)
回数	9回
内容	イルカについての講義・エサ作り・トレーニング体験など
参加者数	18人

自然観察会	
日程	6月15日(土)
場所	現 北区太夫浜
内容	太夫浜にある田んぼ脇の水路でメダカなどの淡水生物を観察
参加者数	17人
日程	8月18日(日)
場所	水族館前の海岸
内容	水族館前の海岸で生物を採集し、観察
参加者数	16人
日程	11月2日(土)
場所	現 北区太夫浜
内容	太夫浜にある田んぼ脇の水路でメダカなどの淡水生物を観察
参加者数	荒天のため中止

■ 2003年度(平成15年度)

ドルフィンウィーク(5月17日～25日)	
タイトル	1日イルカトレーナー体験
日程	5月17日(土)～25日(日)
回数	9回
内容	イルカについての講義・エサ作り・トレーニング体験など
参加者数	18人
タイトル	イルカ〇×クイズ
日程	5月17日(土)～25日(日)
回数	9回
内容	ショーホール観覧席で実施
参加者数	475人
タイトル	イルカ入門講座「イルカの健康管理」
日程	5月24日(土)
内容	イルカを健康に保つための最新のトレーニング技術などを解説
参加者数	4人

自然観察会	
日程	8月24日(日)
場所	水族館前の海岸
内容	水族館前の海岸で生物を採集し、観察
参加者数	16人

お魚教室	
日程	12月7日(日)
場所	本館レクチャールーム
内容	「魚の体を調べてみよう」魚の解剖をして詳しく観察する
参加者数	24人

■ 2004年度(平成16年度)

ドルフィンウィーク(5月15日～23日)		
1	タイトル	1日イルカトレーナー体験
	日程	5月15日(土)～23日(日)
	回数	9回
	内容	イルカについての講義・エサ作り・トレーニング体験など
参加者数	18人	
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	5月16日(日)、5月23日(日)
	回数	4回
	内容	小4から中学生までを対象とし、イルカについての講義やトレーニングなどを学ぶ
参加者数	16人	
3	タイトル	講演会「イルカ教室」
	日程	5月22日(土)
	場所	本館レクチャールーム
	内容	イルカトレーナーがイルカの飼育やトレーニングなどについて解説
参加者数	22人	
4	タイトル	トレーニング解説
	日程	5月15日(土)、5月17日(月)～22日(土)
	回数	7回
	場所	イルカショーホール(観覧席)
	内容	イルカのトレーニングの様子をトレーナーが解説
参加者数	122人	

サマードルフィンスクール	
タイトル	サマードルフィンスクール
日程	①7月20日(火)～23日(金)
	②7月27日(火)～30日(金)
	③8月3日(火)～6日(金)
	④8月17日(火)～20日(金)
	⑤8月24日(火)～27日(金)
回数	40回
内容	イルカについての講義・イルカに触れ体のづくりなどを観察
参加者数	102人

自然観察会	
日程	8月24日(日)
場所	水族館前の海岸
内容	水族館前の海岸で生物を採集し、観察
参加者数	16人

お魚教室	
日程	11月14日(日)
場所	本館レクチャールーム
内容	「軟骨魚を知る」サメの解剖をして詳しく観察する
参加者数	20人

■ 2005年度(平成17年度)

サマードルフィンスクール	
タイトル	サマードルフィンスクール
日程	①7月25日(月)～8月12日(金)
	②8月22日(月)～8月28日(日)
回数	49回
内容	イルカについての講義・イルカに触れ体のづくりなどを観察
参加者数	380人

自然観察会	
日程	8月21日(日)
場所	水族館前の海岸
内容	水族館前の海岸で生物を採集し、観察
参加者数	12人

■ 2006年度(平成18年度)

サマースクール(2006年度から開始したプログラム)		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月23日(日)～8月31日(木) (月曜、8月13日～17日・20日を除く毎日)
	回数	29回
	内容	飼育生物との触れ合いや、バックヤードツアーを通して、水族館について学ぶ
参加者数	290人	
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月23日(日)～8月31日(木) (月曜、8月13日～17日・20日を除く毎日)
	回数	29回
	内容	イルカを間近で観察したり、イルカに直接触れたりすることを通して、イルカに関する正確な知識を学ぶ
参加者数	313人	
3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月24日・31日、8月7日・21日・28日(月曜)
	回数	5回
	内容	イルカの飼育体験を通して、生き物の飼育に不可欠な飼育環境の管理・餌料の準備・健康管理について学習し、生物や環境への関心を高める
参加者数	20人	
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	7月28日・29日、8月4日・5日・18日・19日(金曜と土曜)
	回数	6回
	内容	水族館の飼育生物の夜間の生態について、飼育員の案内により学ぶ
参加者数	128人	

自然観察会		
1	日程	5月20日(土)
	場所	福島潟
	内容	福島潟を散策しながら陸上生物及び水中生物を観察する (水の駅ビュー福島潟、FM新潟と共催)
	参加者数	12人
2	日程	8月20日(日) 午前9時30分～午後3時
	場所	水族館前の海岸
	内容	水族館前の海岸で生物を採集し、観察
	参加者数	8組18人

2007年度(平成19年度)

いきもの教室		
1	タイトル	メダカの産卵と発生を見よう
	日程	6月4日(日)
	内容	メダカが産卵する様子や卵の中を顕微鏡でのぞき、育っていく様子を観察する
	参加者数	10組26人
2	タイトル	海藻の話 かんてんをつくらう
	日程	7月2日(日)
	内容	海で海藻を採集して調べる 海藻を使ってかんてんを作ってみる
参加者数	7組22人	
3	タイトル	プランクトン観察
	日程	9月3日(日)
	内容	海でプランクトンを採集し、顕微鏡で観察する
参加者数	3組6人	
4	タイトル	ザリガニを釣ろう
	日程	10月1日(日)
	内容	アメリカザリガニを釣り、体のつくりを観察する
参加者数	7組20人	
5	タイトル	サケの人工授精体験
	日程	11月4日(土)
	内容	サケの採卵、採精を行い人工授精を体験する
参加者数	5組9人	
6	タイトル	硬骨魚の解剖
	日程	12月2日(土)
	内容	マサバを使って硬骨魚の体のつくりを解剖しながらよく観察する
参加者数	6組14人	
7	タイトル	いきものの形をつくらう
	日程	1月6日(土)
	内容	館内で生き物をよく見てから粘土けしごむで形を作ってみる
参加者数	8組16人	
8	タイトル	サメの体をみてみよう
	日程	2月3日(土)
	内容	トラザメを使って体のつくりを触りながらよく調べる
参加者数	7組19人	
9	タイトル	イカの解剖
	日程	3月3日(土)
	内容	スルメイカを使ってイカの体のつくりを解剖しながらよく観察する
参加者数	11組22人	

サマースクール		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月25日(水)～8月26日(日) (月曜、8月4日・11日～20日を除く毎日)
	回数	20回
	参加者数	79組207人
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月25日(水)～8月26日(日) (月曜、8月4日・11日～20日を除く毎日)
	回数	20回
	参加者数	106組214人
3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月30日、8月6日・20日(月曜)
	回数	3回
参加者数	10組12人	
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	7月27日・28日、8月3日・4日・10日・11日・17日・ 18日・24日・25日(金曜と土曜)
	回数	10回
	参加者数	62組198人
5	タイトル	ビーバー飼育体験
	日程	8月17日(金)・18日(土)・19日(日)
	回数	3回
内容	普段経験する機会が少なく、かつ要望の高い水生哺乳動物の飼育体験を、ビーバーを対象として実施し、飼育管理に関する知識の向上を図る 飼料の準備、排泄物の処理や利用を体験するプログラムにより、飼育管理のほかに食性について学習する効果も持たせる	
参加者数	5組11人	
6	タイトル	ザリガニ釣り体験
	日程	8月17日(金)・18日(土)・19日(日) (各日2回実施)
	回数	6回
内容	外来生物であるアメリカザリガニについて学習することで、外来生物の問題についての関心を高め、自然環境の保全や野生生物の保護について考える機会を与える	
参加者数	107人	

いきもの教室		
1	タイトル	アメリカザリガニを知ろう 釣りと観察
	日程	4月7日(土)
	内容	アメリカザリガニを釣って体のつくりを観察し、習性を知る
	参加者数	9組25人
2	タイトル	メダカの観察 産卵の観察と視力測定
	日程	5月12日(土)
	内容	オスとメスの見分け方や産卵の様子を観察する メダカがどれくらい見えているかを実験で調べる
参加者数	3組5人	
3	タイトル	海藻の話 地先海岸の海藻とワカメ
	日程	6月2日(土)
	内容	地先海岸で生育する海藻を知る ワカメの生活史や部位による役割を知る
参加者数	8組20人	
4	タイトル	くっついて生きる 海の生きもの教室 ※兼自然観察会
	日程	7月7日(土)
	内容	海でくっついて生きる生き物を集め、 くっつき方や餌の食べ方等を観察する
	参加者数	10組24人
5	タイトル	貝を集めて標本をつくらう ※兼自然観察会
	日程	8月4日(土)
	内容	海で貝を集めて名前を調べて、標本を作る
参加者数	7組21人	
6	タイトル	ヤドカリの観察 体のつくりとお引越し
	日程	9月1日(土)
	内容	ヤドカリの体や引越しの仕方を観察する
参加者数	10組23人	
7	タイトル	プランクトンネットづくりと採集と観察
	日程	10月6日(土)
	内容	身近な物でプランクトンネットを作り プランクトンを集めて観察する
参加者数	3組7人	
8	タイトル	ウニ・ナマコ・ヒトデの観察
	日程	11月10日(土)
	内容	ウニ・ナマコ・ヒトデの似たところを探す 食べている物や動き方を観察する
参加者数	9組23人	

9	タイトル	魚拓をつくらう
	日程	12月2日(日)
	内容	魚の体やヒレの形を触って動かして観察する 見た魚の写しを取って持ち帰る
参加者数	10組27人	
10	タイトル	魚の解剖 硬骨魚の体を知ろう
	日程	1月19日(土)
	内容	目、ヒレ、ウロコ、エラ、心臓、背骨、血管等、魚の体をよく観察する
参加者数	4組8人	
11	タイトル	サメの解剖 軟骨魚の体を知ろう
	日程	2月3日(土)
	内容	オス、メスの見分け方、ウロコ、歯、エラ、卵等、 サメを手に取りよく観察する
参加者数	10組24人	
12	タイトル	イカの解剖 頭足類の体を知ろう
	日程	3月1日(土)
	内容	口、ロウト、吸盤、目、エラ、内臓等、イカの体をよく観察する
参加者数	13組27人	

2008年度(平成20年度)

サマースクール		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月19日(土)～21日(月)、25日(金)、26日(土)、28日(月)、29日(火)、31日(木)、8月1日(金)、3日(日)、6日(水)～11日(月)、19日(火)～21日(木)、23日(土)
	回数	20回
	参加者数	211人
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月19日(土)～21日(月)、25日(金)、26日(土)、28日(月)、29日(火)、31日(木)、8月1日(金)、3日(日)、6日(水)～11日(月)、19日(火)～21日(木)、23日(土)
	回数	20回
	参加者数	216人
3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月30日(水)、8月2日(土)・22日(金)
	回数	3回
	参加者数	12人
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	7月18日・19日・25日・26日、8月1日・2日・8日・9日・22日・23日・29日・30日(金・土)
	内容	12回
	参加者数	248人

いきもの教室		
1	タイトル	サメの解剖
	日程	4月12日(土)
	内容	オスとメスの見分け方を学ぶ ウロコ・歯・エラ・卵など、実際にサメを手に取り観察する
参加者数	13組27人	
2	タイトル	メダカの産卵を見よう
	日程	5月17日(土)
	内容	オスとメスの見分け方を学ぶ 産卵の様子を観察する
参加者数	12組27人	
3	タイトル	海藻の押し葉づくり
	日程	6月14日(土)
	内容	水族館前の海岸に生育している海藻をつかって、押し葉を作る
参加者数	8組19人	

4	タイトル	イカの解剖
	日程	7月12日(土)
	内容	イカの口、ロウト、吸盤、目、エラ、内臓など、体のつくりや形を観察する
参加者数	10組24人	
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月30日(土)
	内容	海岸で貝を採集し、標本にする
参加者数	10組25人	
6	タイトル	ヤドカリのお引っ越しを見よう
	日程	9月20日(土)
	内容	ヤドカリの体や引っ越しの仕方を観察する
参加者数	10組27人	
7	タイトル	ウニ・ヒトデの体を見よう
	日程	10月18日(土)
	内容	ウニとヒトデの似たところを探す 動き方や餌の食べ方を観察する
参加者数	8組19人	
8	タイトル	クラゲの話と標本づくり
	日程	11月15日(土)
	内容	新潟の海で見られるクラゲの話や、クラゲの飼育の話を聞く クラゲの標本を作る
参加者数	9組19人	
9	タイトル	水族館カルタをつくろう
	日程	12月6日(土)
	内容	マリニピアで飼育している生き物をテーマにオリジナルカルタを作る
参加者数	11組26人	
10	タイトル	魚拓をつくろう
	日程	1月17日(土)
	内容	魚の形を観察し、その後に魚拓を作る
参加者数	11組27人	
11	タイトル	ウニの発生を見よう
	日程	2月14日(土)
	内容	バフンウニをつかって人工授精を行い、ウニが育つ様子を観察する
参加者数	5組11人	
12	タイトル	水族館クイズラリー
	日程	3月14日(土)
	内容	マリニピアの生き物に関するクイズに答え、水族館博士を目指す
参加者数	11組25人	

親子自然観察会～絶滅のおそれがある淡水魚	
日程	9月27日(土)
場所	田上町・五泉市
内容	メダカとイバラトミヨの生息地を観察し、そこにすむ絶滅危惧種、外来種、植物などについて学ぶ 県内の絶滅危惧種の保護の現状を学び、それぞれの生物に適した環境の違い等にも目を向けてもらう
参加者数	8組21人
備考	新潟県立自然科学館と共催 田上町のメダカ保護グループ「サークルうるめっちょ」及び五泉市のイバラトミヨ保護グループ「五泉トゲソの会」の協力により実施

ウインターナイトツアー	
日程	12月19日(金)・20日(土)
回数	2回
参加者数	39人

2009年度(平成21年度)

サマースクール		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月25日(土)・26日(日)・28日(火)・30日(木)・31日(金)、8月2日(日)、4日(火)～7日(金)、9日(日)～11日(火)、19日(水)・20日(木)・22日(土)
	回数	16回
	参加者数	164人
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月25日(土)・26日(日)・28日(火)・30日(木)・31日(金)、8月2日(日)、4日(火)～7日(金)、9日(日)～11日(火)、19日(水)・20日(木)・22日(土)
	回数	16回
	参加者数	164人
3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月29日(水)、8月1日(土)・21日(金)
	回数	3回
	参加者数	10人
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	7月25日(土)・26日(日)・31日(金)、8月1日(土)・4日(火)・6日(木)・21日(金)・22日(土)
	回数	8回
	参加者数	151人

いきもの教室		
1	タイトル	水族館ガイドツアー
	日程	4月18日(土)
	内容	マリニピアの生き物をガイド付きで観覧し、バックヤードも見学する
参加者数	6組8人	
2	タイトル	水族館クイズラリー
	日程	5月16日(土)
	内容	マリニピアの生き物に関するクイズに挑戦しながら館内を回る スタッフによる解説を聞きながら答え合わせを行う
参加者数	8組23人	
3	タイトル	アメリカザリガニ釣り観察
	日程	6月13日(土)
	内容	アメリカザリガニを釣ってつかまえて、体の形やつくりなどを観察する
参加者数	13組32人	
4	タイトル	ウニ・ヒトデ・ナマコの観察
	日程	7月11日(土)
	内容	同じ仲間の動物であるウニ・ヒトデ・ナマコについて、体の似ているところや動き方を観察する
参加者数	7組18人	

2010年度(平成22年度)

5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月23日(日)
	内容	海岸で貝を採集し、標本にする
参加者数 12組29人		
6	タイトル	ヤドカリの体を見よう
	日程	9月12日(土)
	内容	ヤドカリの脚や貝殻に入っている体の形など、普段かくれている部分を観察する
参加者数 10組22人		
7	タイトル	魚の体をみよう
	日程	10月17日(土)
	内容	魚の心臓、エラ、歯のつくりなど、解剖を通して魚を外から中まで観察する
参加者数 10組25人		
8	タイトル	水族館カルタをつくろう
	日程	12月5日(土)
	内容	マリンピアで飼育している生き物をテーマにオリジナルカルタを作る
参加者数 8組20人		
9	タイトル	魚拓をつくろう
	日程	1月16日(土)
	内容	魚の形を観察し、その後に魚拓を作る
参加者数 8組19人		
10	タイトル	トラザメの解剖
	日程	2月13日(土)
	内容	解剖や顕微鏡での観察を通し、サメの肌の様子、歯の生え方、雌雄の見分け方等を学ぶ
参加者数 7組12人		
11	タイトル	スルメイカの解剖
	日程	2月28日(日)
	内容	解剖や顕微鏡での観察を通し、イカの血液の色、心臓の数、口の中のつくり等を学ぶ
参加者数 14組26人		
12	タイトル	メダカの産卵と卵を見よう
	日程	3月13日(土)
	内容	メダカの雌雄を見分け、産卵シーンを観察する卵の中で育つ様子を顕微鏡を用いて観察する
参加者数 10組22人		

サマースクール		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月24日(土)・25日(日)・27日(火)~29日(木)、8月1日(日)・2日(月)・5日(木)・6日(金)・9日(月)~12日(木)、19日(木)・21日(土)・24日(火)・25日(水)
	回数	17回
参加者数 191人		
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月25日(土)・26日(日)・28日(火)・30日(木)・31日(金)、7月24日(土)・25日(日)・27日(火)~29日(木)、8月1日(日)・2日(月)・5日(木)・6日(金)・9日(月)~11日(水)、19日(木)・21日(土)・24日(火)・25日(水)・19日(水)・20日(木)・22日(土)
	回数	16回
参加者数 177人		
3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月31日(土)、8月3日(火)・7日(土)
	回数	3回
参加者数 12人		
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	8月3日(火)・4日(水)・18日(水)・19日(木)・21日(土)・23日(月)・27日(金)・28日(土)
	回数	8回
参加者数 177人		

いきもの教室		
1	タイトル	水族館クイズラリー
	日程	4月17日(土)
	内容	マリンピアの生き物に関するクイズに挑戦しながら館内を回るスタッフによる解説を聞きながら答え合わせを行う
参加者数 10組27人		
2	タイトル	ヤドカリの体を見よう
	日程	5月15日(土)
	内容	ヤドカリの体の形や足など、普段隠れて見えないところも観察する
参加者数 10組24人		
3	タイトル	海藻押し葉で絵をかこう
	日程	6月13日(日)
	内容	海藻の色や形を活かしながら、海藻押し葉を作る
参加者数 7組16人		

4	タイトル	動物の派生(はせい)物??を観察しよう
	日程	7月10日(土)
	内容	ペンギンの羽、ラッコの毛、ウニの殻、サメの卵の殻など、水族館ならではの派生物を観察する
参加者数 7組16人		
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月22日(日)
	内容	海岸で貝を採集し、標本にする
参加者数 14組29人		
6	タイトル	アマガエルの体を見よう
	日程	9月12日(日)
	内容	アマガエルの手や足を調べたり、体の色が変わる様子や餌の取り方を観察したりする
参加者数 8組17人		
7	タイトル	魚の体を調べよう
	日程	10月16日(土)
	内容	魚の心臓の位置、エラのつくり、ウロコの様子などを観察する
参加者数 9組17人		
8	タイトル	クラゲの話と標本作り
	日程	11月14日(日)
	内容	クラゲ類の一生や毒針を発射する仕組みを紹介するミズクラゲの標本を作る
参加者数 16組30人		
9	タイトル	年賀状を作ろう
	日程	12月4日(土)
	内容	館内の生き物をスケッチし、その絵をもとにオリジナル年賀状を作成する
参加者数 9組24人		
10	タイトル	ウンチに注目!!
	日程	1月23日(日)
	内容	生き物のウンチに注目しながら館内を観察するビーバーのウンチを用いて紙を作る
参加者数 12組25人		
11	タイトル	魚拓をつくろう
	日程	2月19日(土)
	内容	魚を観察した後、魚拓を作る
参加者数 12組24人		
12	タイトル	サメの体を調べよう ※3/11に発生した東日本大震災のため中止
	日程	【中止】3月13日(日)
	内容	サメの肌、歯の生え方、オス・メスの区別の仕方などを調べる

大人向け水族館講座 ※原則、全3回参加		
1	タイトル	水族館って何?
	日程	2月18日(金)
	内容	館長講義、グループディスカッション等
参加者数 24人		
2	タイトル	展示とバックヤードの見学・解説
	日程	3月5日(土)
	内容	本館、別館、イルカプールの展示とバックヤードの見学、解説、質問
参加者数 23人		
3	タイトル	これからの水族館を考える ※3/11に発生した東日本大震災のため中止
	日程	【中止】3月19日(土)
	内容	水族館業界及び当館についての現状及び近未来についての解説、グループディスカッション等

20周年(2010年度)関連イベント		
1	タイトル	開館記念プレゼント
	日程	7月26日(月)~28日(水)
	時間	午前9時から
定員 各日先着300組		
内容 開館20周年記念のロゴが入った20周年オリジナルブックカバーをプレゼントする		
2	タイトル	イルカと記念撮影
	日程	①7月26日(月)~31日(土)、②8月1日(日)
	時間	①正午から、②午後2時半から
対象 ①各日先着10組、②先着20組		
内容 アクリルごしにイルカと並んで記念撮影をする		
3	タイトル	開館20周年セレモニー
	日程	7月27日(火)
	時間	午前11時~11時10分
内容 市長あいさつ 市長と来館者の代表(開館日と生年月日が同一の市民)がイルカと握手する		
4	タイトル	20歳の誕生日記念プレゼント
	日程	7月27日(火)
	時間	午前9時から
対象 7月27日生まれの20歳の入館者		
内容 開館日と生年月日が同一の入館者(1990年7月27日生まれの20歳)に、オリジナルグッズをプレゼントする		

5	タイトル	7月27日誕生日記念プレゼント
	日程	7月27日(火)
	時間	午前9時から
	対象	7月27日生まれの入館者
内容	開館記念日と誕生日が同一の入館者(7月27日生まれ)に、オリジナルポスター及びオリジナルエコバックをプレゼントする	
6	タイトル	日本海大水槽給餌タイム
	日程	8月2日(月)～8日(日)
	時間	午後2時半から
	内容	日本海大水槽で魚にエサを与えることで、魚が予測のつかない動きをみせてくれる状態を楽しんでもらう
7	タイトル	マリンサファリ給餌体験
	日程	8月16日(月)～22日(日)
	時間	午後1時～1時15分
	対象	各日先着10人 ※小学3年生以下は保護者同伴、未就学児は不可
内容	マリンサファリのキーパーエリア側から柵越しに手渡しでトドに餌を与える	
参加者数	68人	
8	タイトル	アスカと記念撮影
	日程	8月23日(月)～29日(日)
	時間	午後1時～1時15分
	対象	各日先着5組
内容	カリフォルニアアスカの横に並んで記念撮影し、写真をプレゼント	
参加者数	35組116人	
9	タイトル	日本海大水槽を上から見よう
	日程	8月2日(月)～10日(火)、8月18日(水)～29日(日)
	時間	①午後1時から、②午後1時15分から、 ③午後1時半から、④午後1時45分から(各回約10分)
	対象	各日各回先着10人
内容	日本海大水槽の上に行って、真上から日本海大水槽を観察する	
10	タイトル	日本海大水槽へエサをやろう!
	日程	8月2日(月)～10日(火)、8月23日(月)～29日(日)
	時間	午後4時から(約10分)
	対象	各日先着10人
内容	日本海大水槽の上から、日本海大水槽で飼育している魚に餌を与える	
11	タイトル	日本海大水槽飼育体験
	日程	8月18日(水)～22日(日)
	時間	①午前11時50分から、②午後2時20分から
	対象	各日各回先着10人
内容	メバルやマアジを日本海大水槽に放流する 日本海大水槽の上から、魚に餌を与える	

12	タイトル	ダイバー給餌でイワシのトルネード
	日程	8月18日(水)～22日(日)
	時間	①午前11時半、②午後3時
内容	ダイバーが日本海大水槽に潜り、イワシに餌を与えることで、イワシの群れが竜巻状になる様子を楽しんでもらう	
13	タイトル	水の生きもの相談室
	日程	8月21日(土)～29日(日)
	時間	午後3時～午後6時
	対象	当日直接館内特設会場(レクチャールーム)へ ※入館者対象
内容	水生生物についての疑問・質問に展示課職員が回答する	
14	タイトル	20周年ペンギンガイド
	日程	7月27日(火)(終日)
	内容	ペンギンガイドツアー、ヒナとのふれあいなど
15	タイトル	20周年別館ガイド
	日程	7月27日(火)(終日)
	内容	バイカルアザラシの飼育日誌やラッコの毛皮などを展示し解説する

20周年記念イベント(新潟市が事業主体として実施したもの)		
1	タイトル	おりがみ大作戦!
	日程	7月17日(土)～8月31日(火)
内容	小学校・幼稚園・保育園・公民館・図書館で配布した特製チラシ及び、館内に設置した特製チラシと折り紙で魚を折ってもらい、館内特設スペースに貼ってもらう	
2	タイトル	20周年記念シールラリーキャンペーン
	日程	7月23日(金)～10月24日(日) ※各シールともなくなり次第終了
	対象	小学生以下の入館者
内容	「海のなかまたちものしりミニブック」と期間ごとに絵柄が変わるシールをプレゼントする また、シールを全種類集めた人には、マリンピアオリジナルステッカーをプレゼントする	
3	タイトル	まちなか情報ひろば1周年祭「ミニミニ水族館」[タッチ水槽]
	日程	8月1日(日)
	時間	午前10時～午後4時、 タッチ水槽時間①午前11時～11時半 ②午後2時～2時半
内容	1周年を迎える西堀ローサ内の「まちなか情報ひろば」に、ミズクラゲやクマノミなど3つの水槽を持ち込み「ミニミニ水族館」として展示する また、特設タッチ水槽を設置し、ヒトデやウニなどに触れてもらう	
4	タイトル	似顔絵を描いてもらおう!
	日程	9月18日(土)～20日(月・祝)・23日(木・祝)・25日(土)・26日(日)
	時間	午前11時～午後3時半
	内容	日本アニメ・マンガ専門学校の生徒から似顔絵(有料)を描いてもらう

お泊り水族館	
日程	9月24日(金)・25日(土)
時間	午後7時～翌朝午前8時
対象	小学生以上20人(小・中学生は保護者も参加)
内容	職員の案内で夜の水族館探検をした後、日本海大水槽の前で就寝 早朝、屋外で飼育している生物(ペンギン、イルカ、トド)等を観察する

さかなクントークショー「きみもお魚博士になろう!!」	
日程	11月6日(土)
時間	①午前11時～11時45分、②午後2時半～3時15分
会場	イルカショースタンド

■ 2011年度(平成23年度)

サマースクール		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月23日(土)～28日(木)、8月1日(月)・2日(火)・4日(木)・5日(金)、8日(月)～11日(木)、18日(木)・19日(金)
	回数	16回
参加者数	58組155人	
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月23日(土)～28日(木)、8月1日(月)・2日(火)・4日(木)・5日(金)、8日(月)～11日(木)、18日(木)・19日(金)
	回数	16回
参加者数	68組139人	
3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月30日(土)・31日(日)、8月7日(日)・20日(土)
	回数	4回
参加者数	14組16人	
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	9月24日(土)・30日(金)、10月7日(金)・8日(土)・14日(金)・15日(土)
	回数	6回
参加者数	40組112人	

いきもの教室		
1	タイトル	メダカの産卵と卵を見よう
	日程	4月17日(日)
	内容	メダカの産卵シーンの観察や顕微鏡での卵の観察などを行う
参加者数	11組24人	
2	タイトル	海藻押し葉で絵をかこう
	日程	5月22日(日)
	内容	地先海岸に生えている海藻を用い、海藻の色や形を生かしながら押し葉アートを作る
参加者数	11組22人	
3	タイトル	ウンチに注目!
	日程	6月19日(日)
	内容	生き物のウンチに注目して観察する ビーバーのウンチを用いて紙を作る
参加者数	10組24人	
4	タイトル	ペンギンもつと知ろう!
	日程	7月10日(日)
	内容	ペンギンはどんな生き物? 体のつくりや動きを観察する
参加者数	9組22人	
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月21日(日)
	内容	海岸で貝を採集し、標本にする
参加者数	13組27人	
6	タイトル	ウミホタルの観察
	日程	9月11日(日)
	内容	ウミホタルの採集の仕方や発光の仕組みを紹介する
参加者数	10組19人	
7	タイトル	ヤドカリの観察
	日程	10月16日(日)
	内容	ヤドカリの体のつくりや引っ越しの様子等を観察する
参加者数	10組22人	
8	タイトル	クラゲの話と標本作り
	日程	11月13日(日)
	内容	クラゲの体や刺す仕組み等紹介 ミズクラゲの浮遊標本の作成
参加者数	9組21人	
9	タイトル	カレンダーを作ろう
	日程	12月4日(日)
	内容	館内で生物をスケッチして、オリジナルカレンダーを作る
参加者数	10組23人	

10	タイトル	水生生物でリサイクルアート!?
	日程	1月22日(日)
	内容	貝殻やいらなくなった布などを再利用して小物を作る
参加者数 5組9人		
11	タイトル	ウニの観察
	日程	2月19日(日)
	内容	ウニの殻や口など詳しく観察する
参加者数 11組25人		
12	タイトル	水槽写真入門
	日程	3月11日(日)
	内容	水槽内の生物をうまく撮影するコツを学び、実際に撮影する
参加者数 11組18人		

大人のための水族館講座 ※全5回参加

1	タイトル	講演会「水族館とは 水族館の歴史 世界の水族館」
	日程	10月2日(日)
	内容	西 源二郎氏(葛西臨海水族園 園長)による講演
参加者数 22人		
2	タイトル	マリンピア日本海について
	日程	11月6日(日)
	内容	マリンピア日本海についての講義、館内見学
参加者数 20人		
3	タイトル	本館とマリンサファリのバックヤード見学
	日程	12月4日(日)
	内容	バックヤード見学、飼育や展示についての説明
参加者数 21人		
4	タイトル	ペンギン・イルカ・別館のバックヤード見学
	日程	1月15日(日)
	内容	バックヤード見学、飼育やトレーニングについての説明
参加者数 16人		
5	タイトル	企画展見学、大人が楽しめる水族館について
	日程	2月12日(日)
	内容	大人が楽しめる水族館について、参加者によるディスカッション
参加者数 16人		

イルカのスプラッシュ	
日程	8月1日～8月31日の期間の平日(全20回) ※ 8月12～16日の平日を除く
時間	午後2時45分～(約5分間)
内容	イルカのジャンプによるスプラッシュ(大量の海水しぶき)を浴びてもらふ体験型企画
参加者数	192人(平均約10人/日)

イワシの月光トルネード	
日程	7月30日～8月28日の期間の土日(全12回) ※ 8月15,16日も実施
時間	午後5時～6時 ※ 解説は、午後5時から5分間程度
内容	営業時間延長日の午後5時から1時間、日本海大水槽真上のライトを2灯だけにし、「月夜の海中」のような光景を造り出し、「約5,000尾のイワシが次第に渦巻き状に回遊していく光景」を解説付きで見てもらう観賞型企画

トドの給餌体験	
日程	9月24日～10月29日の土曜日のみ(全6回)
時間	午前11時～(約15分間)
内容	体重約1トンのトド(愛称タケ)に参加者が直接手渡しで餌を与える体験型企画
参加者数	62人(約10人/日)

2012年度(平成24年度) ※9月1日からリニューアル工事のため休館

サマースクール		
1	タイトル	ふれあい探検
	日程	7月23日(月)～25日(水)・27日(金)・31日(火)、 8月1日(水)～3日(金)・6日(月)～9日(木)・21日(火)～23日(木)
	回数	15回
参加者数 61組153人		
2	タイトル	ドルフィンスクール
	日程	7月23日(月)・25日(水)・27日(金)・31日(火)、 8月1日(水)・2日(木)・7日(火)～9日(木)・21日(火)～23日(木)
	回数	12回
参加者数 54組112人		

3	タイトル	イルカトレーナー体験
	日程	7月21日(土)・22日(日)、8月25日(土)
	回数	3回
参加者数 11人		
4	タイトル	ナイトツアー
	日程	6月22日(金)・23日(土)・29日(金)・30日(土)
	回数	4回
参加者数 26組83人		

いきもの教室		
1	タイトル	ウチに注目!
	日程	4月21日(土)
	内容	生きもののウチに注目して観察する また、ビーバーのウチを使って紙を作る
参加者数 6組16人		
2	タイトル	スルメイカを調べよう
	日程	5月20日(日)
	内容	スルメイカのオス・メスを調べたり、口やエラなど 体のつくりを解剖しながら観察したりする
参加者数 9組21人		
3	タイトル	魚のうろこを観察しよう
	日程	6月16日(土)
	内容	魚のうろこの形や役割・種類などを顕微鏡で観察しながら、解説をおこなう
参加者数 10組22人		
4	タイトル	魚拓をつくろう
	日程	7月8日(日)
	内容	魚をじっくり観察して、魚拓を作る
参加者数 11組24人		
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月18日(土)
	内容	海岸で貝を採集し、標本にする
参加者数 12組27人		

2013年度(平成25年度) ※7月14日までリニューアル工事のため休館

いきもの教室		
1	タイトル	スルメイカの解剖
	日程	9月29日(日)
	内容	スルメイカのオス・メスを調べたり、口やエラなど 体のつくりを解剖しながら観察したりする
参加者数 12組24人		
2	タイトル	カレンダーをつくろう
	日程	12月1日(日)
	内容	ステンシル技法にて生物のカレンダーを作成する 生物を観察することで、生物の多様な形態を知ってもらい、生物への 関心を高める
参加者数 11組24人		
3	タイトル	ヤドカリの観察
	日程	1月19日(日)
	内容	ヤドカリの脚や貝殻の中に入っている体などじっくり観察する
参加者数 7組20人		
4	タイトル	クラゲの標本をつくろう
	日程	2月16日(日)
	内容	クラゲの解説とミスクラゲが浮いているような標本を制作する
参加者数 12組27人		
5	タイトル	サメの解剖
	日程	3月16日(日)
	内容	サメのオス・メスを調べたり、歯やウロコのつくりを顕微鏡で見る など、体のつくりを解剖しながら観察したりする
参加者数 10組24人		

「ハンズオン」ガイド	
日程	2月11日(祝)、16日(日)、23日(日)、3月2日(日)
回数	4回
内容	ハンズオン展示についてガイドしながら、 それに関係する展示についても解説する
参加者数	26人

育成室ガイド	
日程	3月8日(土)、9日(日)、15日(土)、16日(日)
回数	4回
内容	育成室内部を解説しながら、見学する
参加者数	52人

骨格標本ガイド「骨から学ぶイルカのあれこれ」	
日程	3月25日(火)、26日(水)、27日(木)、28日(金)
回数	4回
内容	展示中の骨格標本や飼育中の生体観察、ハンズオンや解説パネルを使い、イルカの体のつくりについて紹介する
参加者数	22人

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り、稲架がけ、脱穀の体験
日程	田植え:6月2日(日) 稲刈り・稲架がけ:9月28日(日) 脱穀:10月14日(月祝)
参加者数	10組21人

ナイトツアー	
日程	3月21日(祝)、22日(土)、29日(土)
回数	3回
参加者数	24組64人

2014年度(平成26年度)

いきもの教室		
1	タイトル	カワウソのおはなし
	日程	4月26日(土)
	内容	カワウソについて観察をまじえながら学ぶ
参加者数	9組18人	
2	タイトル	海藻をつかって絵をかこう
	日程	5月18日(日)
	内容	水族館の前に生息している海藻を使って自由に絵を描く
参加者数	5組12人	
3	タイトル	にいがたフィールドで魚を調べよう
	日程	6月15日(日)
	内容	にいがたフィールドで飼育されている魚を採集し、種類や個体数を調査・観察する
参加者数	7組15人	
4	タイトル	ペンギンをよく見よう
	日程	7月13日(日)
	内容	ペンギンを見ながら解説
参加者数	10組24人	
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月20日(水)
	内容	生きている貝から、貝の標本を制作
参加者数	13組27人	
6	タイトル	スルメイカを調べよう
	日程	9月28日(日)
	内容	スルメイカを解剖して、体のしくみを観察する
参加者数	11組25人	
7	タイトル	魚のからだを観察しよう
	日程	10月19日(日)
	内容	魚の外側と、解剖しながら内側を観察する
参加者数	6組14人	
8	タイトル	クラゲの標本づくり
	日程	11月16日(日)
	内容	クラゲの解説をまじえながら、ミズクラゲの浮遊標本を制作
参加者数	11組27人	
9	タイトル	動物の排泄物に注目しよう
	日程	12月14日(日)
	内容	ウンチやオシッコを観察しながら学ぶ ピーパーのウンチを使って紙を作る
参加者数	10組24人	

10	タイトル	イルカの歯の観察
	日程	1月18日(日)
	内容	標本を観察し、ハンドウイルカの歯のレプリカを作る
参加者数	10組22人	
11	タイトル	魚の年齢しらべ
	日程	2月15日(日)
	内容	耳石を使って年齢を調べる
参加者数	10組22人	
12	タイトル	イルカの体を調べよう
	日程	3月15日(日)
	内容	イルカの体や骨格を観察し、イラストを描いてパズルを作る
参加者数	9組22人	

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り、稲架がけ、脱穀の体験
日程	田植え:6月1日(日) 稲刈り・稲架がけ:9月27日(土) 脱穀:10月11日(土)
参加者数	10組21人

夏期体験型プログラム	
タイトル	どんないきもの? イルカに注目
日程	7月26日(土)~31日(木)、 8月3日(日)、4日(月)、6日(水)、7日(木)
回数	10回
内容	イルカの体の観察を通し、どのようないきものであるか、知識を深めてもらう
参加者数	55人

水族館写真教室	
日程	9月21日(日)
内容	水族館での写真撮影について撮影の方法や工夫などを伝えることで水族館での楽しみ方のひとつを提案する
参加者数	20人

大人のための水族館講座 ※全4回参加		
1	タイトル	水族館を知ろう
	日程	10月5日(日)
	内容	水族館概論の講義と館内見学
参加者数	16人	
2	タイトル	飼育と展示
	日程	10月26日(日)
	内容	飼育と展示についての講義とバックヤード見学
参加者数	15人	
3	タイトル	生きものを観察する
	日程	11月30日(日)
	回数	トレーニングや行動観察についての講義と動物観察
参加者数	15人	
4	タイトル	ミニシンポジウム「地方の水族館のこれから」
	日程	12月20日(土)
	内容	アクアマリンふくしま館長とマリンピア日本海館長による話題提供と2人による対談
講師	安倍義孝(ふくしま海洋科学館 館長)	
参加者数	15人	

「ハンズオン」ガイド	
日程	2月8日(日)、11日(祝)、15日(日)、22日(日)
回数	4回
内容	ハンズオン展示についてガイドしながら、それに関する展示についても解説する
参加者数	12人

育成室ガイド	
日程	2月28日(土)、3月1日(日)、7日(土)、8日(日)
回数	4回
内容	育成室内部を解説しながら、見学する
参加者数	33人

骨格標本ガイド「骨から学ぶイルカのあれこれ」	
日程	3月12日(木)、15日(日)、18日(水)、21日(祝)
回数	4回
内容	展示中の骨格標本や飼育中の生体観察、ハンズオンや解説パネルを使い、イルカの体のつくりについて紹介する
参加者数	19人

ナイトツアー	
日程	3月20日(金)、21日(祝)、27(金)、28日(土)
回数	4回
参加者数	87人

2015年度(平成27年度)

いきもの教室		
1	タイトル	大人も子供もカワウソ教室
	日程	4月26日(日)
	内容	カワウソについて観察をまじえながら学ぶ
	参加者数	11組23人
2	タイトル	スルメイカを調べよう
	日程	5月24日(日)
	内容	スルメイカを解剖して体のしくみを観察する
	参加者数	9組23人
3	タイトル	調べてみよう、イルカのあれこれ
	日程	6月21日(日)
	内容	イルカについていろいろ調べる
	参加者数	9組23人
4	タイトル	ペンギンをよく見よう
	日程	7月12日(日)
	内容	ペンギンを見ながら話しをする
	参加者数	8組21人
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月19日(水)
	内容	生きている貝から、貝の標本を作る
	参加者数	13組24人
6	タイトル	ウミホタルの観察
	日程	9月13日(日)
	内容	ウミホタルの観察と発光実験を行なう
	参加者数	8組22人
7	タイトル	イルカの歯の観察
	日程	10月25日(日)
	内容	標本を観察し、ハンドウイルカの歯のレプリカを作る
	参加者数	7組20人
8	タイトル	サメの解剖
	日程	11月15日(日)
	内容	サメの解剖と軟骨魚類の話をする
	参加者数	13組25人
9	タイトル	稲わらを使ってオーナメントを作ろう
	日程	12月13日(日)
	内容	館内で育てた稲わらなどを使って飾り物を作る
	参加者数	9組21人

10	タイトル	アシカトレーナー体験
	日程	1月24日(日)
	内容	動物のトレーニングはどのように行なうのか、体験をしながら学ぶ
	参加者数	11組23人
11	タイトル	動物の排泄物に注目しよう
	日程	2月14日(日)
	内容	ウンチやおシッコを観察しながら学ぶ ピーパーのウンチを使って紙を作る
	参加者数	8組18人
12	タイトル	魚拓を作ろう
	日程	3月13日(日)
	内容	魚を手に持ち、よく観察してから魚拓を作る
	参加者数	11組23人

にいがたフィールドガイド	
日程	7月23日(木)～8月12日(水)、9月19日(土)～9月23日(水)
内容	にいがたフィールドの紹介とそこで見られる動植物を解説
参加者数	336人

にいがたフィールド観察会	
日程	8月8日(土)・22日(土)・29日(土)
内容	にいがたフィールドの紹介とそこに生息する魚類を採集、解説
参加者数	67人

水族館写真教室	
内容	水族館での写真撮影について撮影の方法や工夫などを伝えることで水族館での楽しみ方のひとつを提案する
日程	9月19日(土)
参加者数	25人

水族館裏側探検「イルカ編」	
日程	10月24日(土)、11月1日(日)、3(火・祝)、7日(土)
内容	飼育施設、骨格標本、生体等を見ながら飼育の裏側に重点を置いて解説を行なう
参加者数	25組30人

田んぼ体験	
内容	田植え、稲刈り、稲架がけ、脱穀の体験
日程	田植え:5月31日(日) 稲刈り・稲架がけ:10月4日(日) 脱穀:10月17日(土)
参加者数	9組24人

大人の女性限定「お泊まりナイトツアー」	
日程	11月7日(土)～8日(日)
内容	普段見られない水槽の清掃や職員による生物の説明 水槽の前で就寝する体験
参加者数	20人

ナイトツアー	
日程	3月11日(金)、12日(土)、18(金)、19日(土)
回数	4回
参加者数	99人(40組)

大人のための水族館講座		
1	タイトル	館長トーク
	日程	12月5日(土)
	参加者数	14人
2	タイトル	水族館の獣医の仕事
	日程	2月6日(土)
	参加者数	22人
3	タイトル	日本海の生きものを調査する
	日程	3月26日(土)
	講師・内容	飯田真也(国立研究開発法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所) 「バーコード標識が明らかにするサケの生態～ 海洋回遊から産卵遡上まで～」 八木 佑太(国立研究開発法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所) 「日本海の魚の生活を調べる～アカムツ(ノドグロ)を例として～」 新潟市水族館マリンピア日本海展示課 「水中探査機で見た水深100mの日本海」
	参加者数	23人

ハンズオンガイド	
日程	2月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)
回数	4回
内容	ハンズオン展示についてガイドしながら、それに関する展示についても解説する
参加者数	15人

育成室ガイド	
日程	3月20日(日)、21日(月・祝)、26日(土)、27日(日)
回数	4回
内容	育成室内部を解説しながら、見学する
参加者数	36人

骨格標本ガイド「骨から学ぶイルカのあれこれ」	
日程	3月5日(土)、6日(日)、13日(日)、14日(月)
回数	4回
内容	展示中の骨格標本や飼育中の生体観察、ハンズオンや解説パネルを使い、イルカの体のつくりについて紹介する
参加者数	18人

2016年度(平成28年度)

いきもの教室		
1	タイトル	ラッコってどんな生き物
	日程	4月17日(日)
	内容	ラッコの動きや骨の観察と飼育の裏側の見学
	参加者数	10組23人
2	タイトル	水族館の水
	日程	5月22日(日)
	内容	水族館の海水、淡水について学ぶ
	参加者数	3組6人
3	タイトル	調べてみよう、イルカのあれこれ
	日程	6月19日(日)
	内容	イルカについていろいろ調べる
	参加者数	9組21人
4	タイトル	ペンギンをよく見よう
	日程	7月10日(日)
	内容	ペンギンを見ながら話しをする
	参加者数	9組22人
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月24日(水)
	内容	生きている貝から、貝の標本を作る
	参加者数	11組24人
6	タイトル	ウミホタルの観察
	日程	9月11日(日)
	内容	ウミホタルの観察と発光実験を行なう
	参加者数	9組23人
7	タイトル	イルカの歯の観察
	日程	10月23日(日)
	内容	標本を観察し、ハンドウイルカの歯のレプリカを作る
	参加者数	10組20人
8	タイトル	魚の解剖
	日程	11月20日(日)
	内容	魚の体のつくりを外側と内側から観察する
	参加者数	12組24人
9	タイトル	ゆったりクラゲ観察
	日程	12月18日(日)
	内容	手元のクラゲをゆっくり観察する
	参加者数	8組19人

10	タイトル	写真教室
	日程	1月22日(日)
	内容	水槽の中の生物を上手に撮影する方法を学ぶ
	参加者数	6組6人
11	タイトル	動物の排泄物に注目しよう
	日程	2月19日(日)
	内容	ウンチやオシッコを観察しながら学ぶ ピーバーのウンチを使って紙を作る
	参加者数	5組13人
12	タイトル	「かたち」に注目
	日程	3月12日(日)
	内容	生き物の色々な「かたち」を観察やパズルで学ぶ
	参加者数	5組11人

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り・稲架がけ、脱穀、わら細工体験
日程	田植え:6月5日(日) 稲刈り・稲架がけ:10月2日(日) 脱穀:10月16日(日) わら細工:11月6日(日)
参加者数	9組24人

にいがたフィールド解説	
日程	6月11日(土)・12日(日)・18日(土)・19日(日)、 7月16日(土)・23日(土)・30日(土)、8月6日(日)・ 11日(木・祝)～16(火)・20日(土)
参加者数	222人

佐渡自然観察会	
日程	7月25日(月)～26日(火)1泊2日
会場	新潟大学理学部佐渡臨海実験所・揚島水族館 等
参加者数	14人

イルカバックヤードミニガイド	
日程	8月1日(月)～5日(金)、18日(木)、19日(金)、 22日(月)～26日(金)、29日(月)～31日(水)
参加者数	144人

デジカメ教室	
日程	10月2日(日)
参加者数	25人

水族館裏側探検「イルカ編」	
日程	11月5日(土)・12日(土)・13日(日)・20日(日)
内容	飼育施設、骨格標本、生体等を見ながら飼育の裏側に 重点を置いて解説を行なう
参加者数	20組36人

大人のための水族館講座		
1	タイトル	日本海のズワイガニ・ベニズワイガニ
	日程	2月17日(金)
	講師・内容	養松郁子(国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所) 「外見は似てるのにこんなに違う ～ズワイガニとベニズワイの生態について～」 上田祐司(国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所) 「海の中のカニを数える ～日本海でズワイガニの雌を漁獲する理由～」
	参加者数	31人
2	タイトル	水族館を楽しもう
	日程	3月5日(日)
	講師	高田浩二(福山大学教授)
	参加者数	27人

幼児・親子向けプログラム	
日程	12月5日(月)
内容	新潟こども医療専門学校の学生が企画した 幼児・親子向けプログラムを実施
参加者数	約100人

育成室開放	
日程	3月13日(月)、14日(火)、17日(金)、18日(土)
回数	4回
参加者数	147人

ナイトツアー	
日程	3月17日(金)、18日(土)、24日(金)、25日(土)
回数	4回
参加者数	83人

2017年度(平成29年度)

いきもの教室		
1	タイトル	みてみてクラゲ
	日程	4月16日(日)
	内容	クラゲの体を観察する
参加者数	8組20人	
2	タイトル	ビーバーを知ろう
	日程	5月21日(日)
	内容	ビーバーの食べているもの、体のつくりを知り、ウンチを使って紙を作る
参加者数	8組18人	
3	タイトル	調べてみよう、イルカのあれこれ
	日程	6月18日(日)
	内容	イルカについていろいろ調べる
参加者数	7組18人	
4	タイトル	ペンギンについてもっと知ろう
	日程	7月9日(日)
	内容	ペンギンの体について学び、卵のレプリカを作る
参加者数	9組23人	
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	7月26日(水)
	内容	生きている貝を観察し、貝の標本を作る
参加者数	12組22人	
6	タイトル	ウミホタルの観察
	日程	8月23日(水)
	内容	顕微鏡で体を観察したり、発光実験を行ったりする
参加者数	10組25人	
7	タイトル	歯を観察しよう
	日程	9月10日(日)
	内容	様々な動物の歯を観察し、特徴について学ぶ
参加者数	5組11人	
8	タイトル	サメの解剖
	日程	10月22日(日)
	内容	サメの外側と、解剖して内側の体のつくりを観察する
参加者数	10組22人	
9	タイトル	水族館でつかうエサ
	日程	11月19日(日)
	内容	水族館で飼育している生きものに与えているエサについて学ぶ
参加者数	7組17人	

10	タイトル	かたちのふしぎ
	日程	12月17日(日)
	内容	「かたち」からわかる、いろいろなことについて学ぶ
参加者数	5組13人	
11	タイトル	魚拓をつくろう
	日程	1月21日(日)
	内容	魚のかたちを観察して、魚拓を作る
参加者数	9組20人	
12	タイトル	アシカトレーナー体験(初級編)
	日程	2月4日(日)
	内容	アシカについていろいろ学び、実際にトレーニングを行う
参加者数	12組23人	
13	タイトル	ひれあし類ってどんな生きもの?
	日程	3月11日(日)
	内容	アシカ・アザランの給餌の様子を観察し、からだのつくり等を学ぶ
参加者数	4組8人	

にいがたフィールドガイド	
日程	各月第3土曜日(12月~2月を除く)
参加者数	58人

世界カワウソの日イベント	
日程	5月27日(土)・28日(日)
参加者数	アクアラボ

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り・稲架がけ、脱穀体験、わら細工体験
日程	田植え:6月4日(日) 稲刈り・稲架がけ:10月1日(日) 脱穀:10月15日(日) わら細工:11月5日(日)
参加者数	12組27人

育成室開放	
日程	7月18日(火)~21日(金)
回数	4回
参加者数	130人

イルカバックヤードミニガイド	
日程	8月21日(月)~30日(水)
回数	10回
参加者数	124人

ナイトツアー	
日程	9月15日(金)、16日(土)、22日(金)、23日(土)
回数	4回
参加者数	84人

大人向け写真教室教室	
日程	10月8日(日)
参加者数	22人

水族館裏側探検「イルカ編」	
日程	12月8日(金)・9日(土)・26日(火)・27日(水)、 2月16日(金)・17日(土)・24日(土)・25日(日)
回数	8回
参加者数	52組89人

講演会	
タイトル	知ってる?知らない?研究者が語るイルカの話
日程	3月10日(土)
講師	中原史生(常磐大学)、鈴木美和(日本大学)、 中東明佳(前勇魚会会長)、一島啓人(福井県立恐竜博物館)
参加者数	47人

大人のための水族館講座	
タイトル	水産資源を支えるプランクトン
日程	3月17日(土)
講師	森本晴之(国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所)
参加者数	19人

開館50周年イベント	
日程及び内容	10月14日(土)活魚輸送車一般公開
	10月14日(土)～22日(日) 特設パネル展「ファンボルトペンギン飼育史」
	10月15日(日)～21日(土) 参加型イベント「ファンボルトペンギン飼育の工夫」
	10月22日(日)特別講演会 「日本の水族館135年のあゆみ」[対談新潟水族館History]

2018年度(平成30年度)

いきもの教室		
1	タイトル	プランクトンの観察
	日程	4月15日(日)
	内容	プランクトンネットでプランクトンを採集し、顕微鏡を使って観察
参加者数	9組17人	
2	タイトル	ペンギンについてもっと知ろう
	日程	7月8日(日)
	内容	ペンギンの体について学び、卵のレプリカを作る
参加者数	14組26人	
3	タイトル	貝の標本づくり
	日程	7月25日(水)
	内容	生きている貝を観察し、貝の標本を作る
参加者数	10組24人	
4	タイトル	ウミホタルの観察
	日程	8月22日(水)
	内容	顕微鏡で体を観察したり、発光実験を行ったりする
参加者数	9組22人	
5	タイトル	ビーバーに注目
	日程	9月9日(日)
	内容	ビーバーの食べ物や体のつくりを知り、ウンチを使って紙を作る
参加者数	10組18人	
6	タイトル	スルメイカを調べよう
	日程	10月14日(日)
	内容	スルメイカの外側を観察しながら、餌の取り方やクラゲの一生を紹介する
参加者数	7組16人	
7	タイトル	みてみてクラゲ
	日程	11月11日(日)
	内容	クラゲの体を観察しながら、餌の取り方やクラゲの一生を紹介する
参加者数	11組26人	

8	タイトル	いきものの歯をみよう
	日程	12月16日(日)
	内容	様々な動物の歯を観察し、特徴について学ぶ
参加者数	10組23人	
9	タイトル	アシカとアザラシの観察
	日程	1月20日(日)
	内容	アシカ・アザラシの違いについてクイズを行い、実際にゴマフアザラシやトドを間近で観察する
参加者数	9組15人	
10	タイトル	かたちのふしぎ～いきものかたちを見よう～
	日程	2月17日(日)
	内容	「かたち」からわかる色々なことについてクイズをまじえて学ぶ
参加者数	7組18人	
11	タイトル	サメの解剖
	日程	3月17日(日)
	内容	魚の外側と、解剖して内側の体のつくりを観察
参加者数	12組24人	

にいがたフィールドガイド	
日程	各月第3土曜日(12月～2月を除く)
回数	9回
参加者数	78人

おやこいきもの体験	
日程	5月20日(日)
参加者数	11組26人

世界カワウソの日イベント	
日程	5月27日(日)
会場	アクアラボ

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り・稲架がけ、脱穀体験、わら細工体験
日程	田植え:6月3日(日) 稲刈り・稲架がけ:9月30日(日) 脱穀:10月14日(日) わら細工:11月4日(日)
参加者数	11組28人

海辺のいきもの観察	
日程	6月9日(土)
参加者数	4組12人

おやこですいぞくかん	
日程	6月23日(土)
参加者数	13組30人

イルカバックヤードミニガイド	
日程	7月～11月の第2,4土曜日
回数	10回
参加者数	121人

ナイトツアー	
日程	8月24日(金)、25日(土)、31日(金)、9月1日(土)
回数	4回
参加者数	33組88人

大人向け写真教室	
日程	9月30日(日)
参加者数	20組22人

育成室開放	
日程	12月19日(水)、1月19日(土)、2月19日(火)
回数	3回
参加者数	118人

講演会		
1	タイトル	参入する外来生物ー変貌する水中世界ー
	日程	8月18日(土)
	講師	井上信夫(生物多様性保全ネットワーク新潟)
参加者数	47人	
2	タイトル	日本海北部における海洋環境と生物資源調査
	日程	12月8日(土)
	講師	八木佑太(国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所)
参加者数	41人	
3	タイトル	研究者が語るイルカの話～イルカの体のつくりについて～
	日程	3月9日(土)
	講師	伊藤春香(鯨類研究者)、植田啓一(沖縄美ら海水族館)
参加者数	51人	
4	タイトル	さかなの家系図から探る日本海の歴史
	日程	3月24日(日)
	講師	佐久間 啓(国立研究開発法人 水産研究・教育機構 日本海区水産研究所)
参加者数	24人	

■ 2019年度(令和元年度)

いきもの教室		
1	タイトル	イルカを調べてみよう
	日程	4月6日(土)
	内容	イルカの生体と体の部位を観察し、正しい情報、知識と視点を養うことを目的とする
	参加者数	12組20人
2	タイトル	みてみてクラゲ
	日程	5月11日(土)
	内容	クラゲを間近で観察しながら、一生や体のつくりについて学ぶ
参加者数	6組17人	
3	タイトル	カワウソになってみよう
	日程	6月8日(土)
	内容	クイズやプロジェクトワイルドを用いたゲームを行う 参加者はカワウソになりきり、生き残るために何が必要か体験する
	参加者数	12組27人
4	タイトル	ペンギンの羽根とたまご
	日程	7月7日(日)
	内容	フンボルトペンギンの羽根と卵に注目しながら観察を行う その後、卵のレプリカを作製し繁殖や生態について解説する
参加者数	10組23人	
5	タイトル	貝の標本づくり
	日程	7月24日(水)
	内容	水族館地先の海岸にて実際に貝の採集を行い、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作製の手順を学び実践する
	参加者数	8組17人
6	タイトル	プランクトンの観察
	日程	9月8日(日)
	内容	簡易顕微鏡と実体顕微鏡を用いて観察し、観察した生物の分類や体のつくり、食物連鎖について観察する
	参加者数	6組15人
7	タイトル	アシカとアザラシを知ろう
	日程	10月12日(土)
	内容	解説を聞きながら、毛皮などを見て・触って体のつくりを学ぶ
参加者数	9組23人	
8	タイトル	カエルの解剖
	日程	11月9日(土)
	内容	カエルの解剖を通じて、脊椎動物の基本的な体のつくり、カエルの体の特徴や生態を学んでもらう
	参加者数	9組18人

9	タイトル	魚拓を作ろう
	日程	1月18日(土)
	内容	魚を観察し、絵を描いたり触ったりする 各部をよく観察して形態や機能を確認したのち、魚拓を作成する
参加者数	7組18人	
10	タイトル	生きものホネホネ観察(新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
	日程	3月21日(土)
	内容	様々な生き物の骨を観察して、それぞれの形を見比べる

にいがたフィールドガイド	
日程	4~11月の第3土曜日
回数	8回
参加者数	85人

ペンギンの日イベント	
日程	4月20日(土)・21日(日)
会場	アクアラボ

世界カワウソの日イベント	
日程	5月25日(土)・26日(日)
会場	アクアラボ

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り・稲架がけ、脱穀体験、わら細工体験
日程	田植え:6月2日(日) 稲刈り:9月29日(日)(荒天のため中止) 脱穀:10月13日(日) わら細工:11月10日(日)
参加者数	9組27人

野外体験教室		
1	タイトル	スナガニ野外観察会
	日程	6月15日(土)、9月14日(土)
	会場	団体休憩室及び地先海岸
	参加者数	(6/15) 9組21人 (9/14) 6組11人
2	タイトル	川の生き物観察
	日程	9月7日(土)
	内容	新発田市荒川川での生きもの採集と観察
参加者数	8組16人	

ナイトツアー	
日程	8月23日(金)、24日(土)、30日(金)、31日(土)
参加者数	36組83人

スナガニ調査	
日程	9月21日(土)、9月28日(土)、10月2日(水)
会場	地先海岸
参加者数	20人

イルカバックヤードミニガイド	
日程	10月~11月の第2,4土曜日
回数	4回
参加者数	85人

いきもの絵本読み聞かせ会	
日程	12月13日(金)、1月10日(金)、2月14日(金)、3月13日(金) ※3月13日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
会場	くつろぎライブラリー
参加者数	12月13日8組18人、1月10日13組28人、2月14日10組20人

育成室開放	
日程	12月~3月の第3土曜日 ※3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
回数	3回
参加者数	262人

講演会		
1	タイトル	こっそりのんびり回遊魚ハタハタの生態と漁業
	日程	12月6日(金)
	講師	藤原邦浩(国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所)
参加者数	18人	
2	タイトル	研究者が語るイルカの話
	日程	3月15日(日) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

2020年度(令和2年度)

30周年記念事業 参加型イベント		
1	タイトル	館内探検スタンプラリー
	日程	9月1日(火)～10月18日(日)
	内容	館内14か所に30周年特別解説ブースを設け、そのうち9か所にスタンプを設置 参加者には、抽選で記念品を贈呈
応募者数	15,040人	
2	タイトル	大水槽の給餌体験
	日程	8月30日(日)、9月27日(日)、12月6日(日)、12月13日(日)、12月20日(日)、12月27日(日)、3月7日(日)、3月21日(日)
	回数	8回
	内容	大水槽の生物に与えている餌の解説をし、給餌してもらう
参加者数	32組80人	
3	タイトル	イルカの健康チェック解説
	日程	10月3日～10月25日の土曜、日曜
	回数	8回
	内容	夕方のボディチェック時に解説を行う 体温測定や傷チェックの解説をスタンドで聞いてもらう
参加者数	425人	
4	タイトル	バイカルアザラシの給餌解説
	日程	11月7日～11月29日の土曜、日曜
	回数	8回
	内容	餌を与えながら、生息域や他のアザラシとの違い、繁殖について解説を行う
参加者数	180人	
5	タイトル	ビーバーの餌採集体験
	日程	9月5日～9月26日の土曜
	回数	4回
	内容	館内に植えてあるヤナギを採集してもらい、採集したヤナギをビーバーが食べている様子を観察してもらう ビーバーの生態について解説を行う
参加者数	15人	
6	タイトル	日本海大水槽バックヤードツアー
	日程	1月23日～2月14日の土曜、日曜
	回数	8回
	内容	日本海大水槽、調餌室、活魚輸送車に焦点を当て、展示の工夫や飼育設備、生物の収集方法を伝え、水族館の努力や工夫に関心を向けてもらう
参加者数	32組83人	

7	タイトル	ペンギンバックヤードツアー
	日程	1月23日～2月14日の土曜、日曜
	回数	8回
	内容	ペンギンの巣の見学、繁殖や卵について解説を行う
参加者数	32組90人	
8	タイトル	イルカバックヤードツアー
	日程	1月23日～2月14日の土曜、日曜
	回数	8回
	内容	治療プールや音響室などを見学しながら、イルカの健康管理やショーの裏側を紹介する
参加者数	88人	

いきもの教室		
1	タイトル	貝の標本づくり
	日程	8月22日(土)
	内容	水族館地先の海岸にて実際に貝の採集を行い、採集した貝を用いて種の同定方法と標本作製の手順を学び実践する
参加者数	8組18人	
2	タイトル	いきもの"コレ"なんであるの?
	日程	1月16日(土)
	内容	魚、サメ、イルカなどの標本や実物を間近でみて、触って何に使っているのか説明する
参加者数	8組21人	
3	タイトル	みんなおやこ
	日程	2月27日(土)
	内容	ペンギンやイルカ、ネプツダイやタソノオトシゴ等水族館で飼育している生物の出産(産卵抱卵)育児などの映像や写真を使用して親と子それぞれの立場のクイズを投げかけながら紹介あわせて体を使って真似をしてみるなど、親子のふれあいの場も提供する 4～6歳とその保護者対象
	参加者数	6組18人
4	タイトル	サメの解剖
	日程	3月20日(土)
	内容	サメの外側と、解剖して内側のからだのつくりを観察する また、生体の観察も行う
参加者数	8組20人	

にいがたフィールドガイド	
日程	6～10月の第3土曜日(9月のみ第4土曜日)
回数	4回
参加者数	52人

ペンギンについて知ろう	
日程	8月14日(金)～9月30日(水)
会場	アクアラボ
内容	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い「ペンギンの日」のプログラムは中止、代替えとしてポスター展を行う

カワウソについて知ろう	
日程	8月1日(金)～8月13日(木)
会場	アクアラボ
内容	新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い「世界カワウソの日」のプログラムは中止、代替えとしてポスター展を行う

田んぼ体験	
概要	田植え、稲刈り、脱穀、わら細工体験
日程	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

野外体験教室		
1	タイトル	潟のいきもの観察会
	日程	6月21日(日) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
	会場	上堰潟公園
参加者数	—	
2	タイトル	スナガニ野外観察会
	日程	9月13日(日)
	会場	団体休憩室及び地先海岸
参加者数	6組16人	

ナイトツアー	
日程	8月28日(金)、8月29日(土)、9月4日(金)、9月5日(土)
回数	4回
参加者数	26組64人

大人向け写真教室	
日程	10月25日(日) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
参加者数	—

大人のための水族館講座 ※全4回参加(年パス保有者向け)		
1	タイトル	水族館を楽しむ
	日程	11月7日(土)
	内容	開館30年の振り返りと館内見学
参加者数	16人	
2	タイトル	水族館を学ぶ①
	日程	11月21日(土)
	内容	水族館の基礎・歴史・役割などについてとペンギンの飼育・保全についてのレクチャー
参加者数	18人	
3	タイトル	水族館を学ぶ②
	日程	12月5日(土)
	内容	淡水魚の保全についてとカマイルカの繁殖についてのレクチャー
参加者数	18人	
4	タイトル	水族館のこれから
	日程	12月19日(土)
	内容	鶴岡市立加茂水族館の奥泉館長による講演 奥泉館長と当館副館長による座談会
	講師	奥泉和也(鶴岡市立加茂水族館 館長)
参加者数	15人	

「種の保存」の取り組み

「種の保存」とは、絶滅の危機に瀕している種を保存する取り組みです。
保存する場所により次の2つの方法があります。

1 生息地での保存(生息域内保全)

絶滅危惧種の本来の生息地での保存の取り組みです。該当する種だけを保存するだけでなく、生息地の自然環境や生態系全体を保全するため、地域との連携などが重要となります。

2 生息地外での保存(生息域外保全)

本来の生息地ではない場所での保存の取り組みです。水族館や動物園・植物園などの飼育施設での保存は生息域外保全の代表的な取り組みです。

新潟市水族館マリニピア日本海での取り組み

水族館の機能として種の保存がありますが、新潟市水族館マリニピア日本海では開館以来、種の保存を重要な取り組みとして実施してきました。水族館内にある飼育水槽での保護・保存が主な取り組みですが、生息地での継続した調査や地域のNPOなどと協力した観察会などの普及啓発にも取り組んでいます。

種の保存は1つの水族館の取り組みだけでは効果が限定的になるため、業界団体や他の施設と協力しながら共通の枠組みで推進することが必要です。また、環境省からの許可や支援を受けて取り組んでいる種もあります。以下に、当館が取り組んでいる種の保存事業を紹介します。

(1) 公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)との取り組み

JAZA生物多様性委員会(2011年までは種の保存委員会)が事業主体となって行っている血統登録と繁殖計画について、JAZAのホームページから引用します。

● 血統登録と繁殖計画

国内で飼育している希少動物を11の群に分け、保護が必要な動物を約150種選んで、動物の戸籍簿を作っています。これを血統登録といいます。この動物の戸籍簿は、世界的な戸籍簿とつながっていて、世界の動物園・水族館の動物の飼育状況や遺伝的つながりが記録されていて、動物たちのよい結婚相手を探すのに役立ちます。血統登録の対象種はすべて、種ごとに繁殖計画を作り、動物園・水族館での増殖に取り組んでいます。

新潟市水族館マリニピア日本海では、2020年時点における約150種の血統登録種の内、当館で飼育している12種について登録に参加しています。また、管理種として認定されている日本産希少淡水魚17種の内、新潟県内に生息地がある2種について飼育下での管理計画への参加および生息地調査などを継続的に実施しています。

これらの血統登録種や管理種には種ごとに調整担当者や担当園館が選任されていますが、当館の職員も担当者として選任されており、種の保存事業の中心的な役割を担っています。

以下は、当館が参加している血統登録種のリストおよび当館が担当館として役割を担っている種の概要です。

■ 当館で飼育している血統登録種12種 (2020年)

ユーラシアカワウソ	コツメカワウソ	ラッコ (2020年3月死亡)
カリフォルニアアシカ	トド	ゴマフアザラシ
ハンドウイルカ	カマイルカ	アメリカビーバー
フンボルトペンギン	ミナミイワトビペンギン	ハクバサンショウウオ

■ 当館が役割を担っている種の概要 (委嘱業務の名称は2020年時点でJAZAが使用している名称を記載しています)

1 シナイモツゴ

- 分類: 脊索動物門 硬骨魚綱 コイ目 コイ科 ● 学名: *Pseudorasbora pumila*
- 保護・規制状況: 環境省レッドリスト: 絶滅危惧ⅠA類、新潟県レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類
- JAZAからの委嘱業務: 生物多様性委員会魚類作業部会 シナイモツゴ種別計画管理者
当館はシナイモツゴが種別調整種になった当初(1995年)より計画に参加し、1998年からは種別調整者(現在は種別計画管理者)を担っています。



2 ホトケドジョウ

- 分類: 脊索動物門 硬骨魚綱 コイ目 ドジョウ科 ● 学名: *Lefua echigonia*
- 保護・規制状況: 環境省レッドリスト: 絶滅危惧ⅠB類、新潟県レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類
新潟市レッドリスト: 絶滅危惧Ⅱ類
- JAZAからの委嘱業務: 生物多様性委員会魚類部会 ホトケドジョウ繁殖担当館(2011年より)



3 ハクバサンショウウオ

- 分類: 脊索動物門 両生綱 有尾目 サンショウウオ科 ● 学名: *Hynobius hidamontanus*
- 保護・規制情報: 環境省: 絶滅危惧ⅠB類、新潟県: 絶滅危惧Ⅰ類
- JAZAからの委嘱業務: 生物多様性委員会両生爬虫類作業部会 ハクバサンショウウオ種別計画管理者
当館はハクバサンショウウオが種別調整種になった当初(1998年)から計画に参加し、1999年から種別調整者(現在は種別計画管理者)を担っています。



4 フンボルトペンギン

- 分類: 脊索動物門 鳥綱 ペンギン目 ペンギン科 ● 学名: *Spheniscus humboldti*
- 保護・規制情報: IUCN: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)、CITES(ワシントン条約): 附属書Ⅰ
- JAZAからの委嘱業務: 生物多様性委員会ペンギン類作業部会 種別事業調整者
ペンギン類の種別事業調整者はフンボルトペンギン以外のペンギンも含めた全体を調整する役割を担っています。2020年での調整対象種は11種のペンギン類と2種のチドリ類(ウミガラスとエトピアカ)です。
フンボルトペンギンは1993年に繁殖計画推進種に指定されました。当館は当初より種別繁殖検討委員、2013年からフンボルトペンギン専門技術員、2014年から種別事業調整者を担っています。
また、2017年からマカロニペンギン個体群管理者も担っています。



5 ラッコ

- 分類: 脊索動物門 哺乳綱 食肉目 イタチ科 ● 学名: *Enhydra lutris*
- 保護・規制情報: IUCN: 絶滅危惧ⅠB類(EN)、環境省: 絶滅危惧ⅠA類
- JAZAからの委託業務: 生物多様性委員会海獣作業部会 ラッコ専門技術員2013年~2016年



(2) 環境省による許可事業

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」で指定されている国内希少野生動植物(緊急指定種)であるコシノハゼについて、2019年より新潟県内の生息地の把握と生態の解明、飼育下繁殖、啓発等を目的に、環境省より許可を得て捕獲や飼育、展示をしています。

コシノハゼ

- 分類: 脊索動物門 硬骨魚綱 スズキ目 ハゼ科
- 学名: *Gymnogobius nakamurae*
- 保護・規制情報: 種の保存法: 国内希少野生動植物種(緊急指定種)、環境省: 絶滅危惧ⅠA類、新潟県: 絶滅危惧Ⅰ類



研究発表

年	研究会名	演題	発表者
1992	第37回水族館技術者研究会	佐渡周辺での冷水系生物の収集、及び水中ロボットによる海底調査について	長谷川順二
1993	第19回海獣技術者研究会	自作アイカップ作製について	田原正義 他
1995	第40回水族館技術者研究会	新潟市水族館の役割としてのシナイモツゴの分布調査	加藤治彦
1996	第41回水族館技術者研究会	新潟県産モツゴ属のアイソザイムパターン	加藤治彦 他
1996	フンボルトペンギン保護国際会議	Identification of interspecific hybrids among Spheniscus species using isozyme analyses (アイソザイム分析によるSpheniscus属の種間雑種の同定)	大和淳 他
1998	第24回海獣技術者研究会	座礁したハナゴンドウの保護、治療について	田村広野 他
1999	第25回海獣技術者研究会	イルカのランディング行動の応用と有用性	平野訓子 他
2001	第27回海獣技術者研究会	ハンドウイルカの採尿訓練概要と尿比重	吉田直幸 他
2001	関東東北ブロック動物園技術者研究会	フンボルトペンギンの精液性状について	進藤順治 他
2002	第47回水族館技術者研究会	シナイモツゴの遺伝的変異個体群と飼育下保存	加藤治彦 他
2002	第28回海獣技術者研究会	飼育下ハンドウイルカの尿性状	新田誠 他
2003	第29回海獣技術者研究会	血尿を呈したハンドウイルカの1症例	栗城智香 他
2003	関東東北ブロック水族館技術者研究会	アメリカビーバーの歯科疾患について	新原扶美佳
2003	関東東北ブロック水族館技術者研究会	小型サンショウウオ類の飼育展示	松本輝代 他
2004	第30回海獣技術者研究会	飼育下カマイルカの尿性状	加藤治彦 他
2005	第31回海獣技術者研究会	飼育下雄のカマイルカの血液中テストステロン値の増加と尿沈渣精子数の年変動	新田誠 他
2006	第32回海獣技術者研究会	飼育下雄のカマイルカの体温変化と発情期との関係	新田誠 他
2006	第32回海獣技術者研究会	バイカルアザラシの人工哺育	栗城智香 他
2007	関東東北ブロック水族館技術者研究会	新潟市水族館におけるクラゲ類の採集記録	大和淳
2007	第33回海獣技術者研究会	座礁したオガワコマッコウの保護例	村井扶美佳 他
2008	第53回水族館技術者研究会	アシナガスジエビの育成と幼期の形態	新田誠
2008	日本野生動物医学会	飼育下バイカルアザラシ (<i>Phoca sibirica</i>) の胎仔成長	岩尾一 他
2009	第35回海獣技術者研究会	ハンドウイルカの胴周囲長と体重との相関	小林稔 他
2009	関東東北ブロック水族館技術者研究会	ゴマフアザラシ新生仔の腸炎および後天性膈ヘルニア治療例	田村広野 他
2010	第54回水族館技術者研究会	ハマクマノミを用いて検討した海産仔稚魚展示の試み	新田誠
2010	第20回ペンギン会議全国大会	ビタミンE欠乏症を疑ったフンボルトペンギン雛の連続死	岩尾一 他
2010	第20回ペンギン会議全国大会	フンボルトペンギンの人為的なペア組み換え	山田篤
2010	第36回海獣技術者研究会	腸管クロストリジウム症を疑ったハンドウイルカの一例	岩尾一 他
2010	第16回日本野生動物医学会	ゲンタマイシンを筋肉注射したハンドウイルカにおける治療薬物モニタリング	岩尾一 他
2010	第50回日本動物園水族館教育研究会	生物多様性条約と動物園水族館～CEPAの紹介(話題提供・ポスター)	大和淳
2011	関東東北ブロック水族館技術者研究会	トノサマガエル白化個体の上皮小体機能亢進症の発症と治療	岩尾一 他
2011	第17回日本野生動物医学会	鯨類における腎機能マーカーとしての尿中N-アセチルβ-D-グルコサミナーゼの有用性	岩尾一 他
2011	東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会	水族館と環境コミュニケーション	大和淳
2011	第37回海獣技術者研究会	カマイルカの精液中精子数の年変動	鶴巻博之 他
2011	第55回水族館技術者研究会	カプトクラゲの繁殖	石川訓子
2012	第38回海獣技術者研究会	ハンドウイルカにおけるポリコナゾールの治療薬物濃度モニタリングの1例	岩尾一 他
2012	第18回日本野生動物医学会	アオウミガメ <i>Chelonia mydas</i> のビタミンD欠乏症の一例	岩尾一 他

年	研究会名	演題	発表者
2012	第56回水族館技術者研究会	アカムツの人工授精と仔魚の初期飼育について	新田誠
2013	東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会	シナイモツゴの系統保存について	石川訓子 他
2013	第58回水族館技術者研究会	シナイモツゴの遺伝的系統解析	石川訓子 他
2013	関東東北ブロック水族館技術者研究会	アカムツ人工授精卵のふ化条件と仔魚の育成温度について	新田誠
2013	第39回海獣技術者研究会	左後肢基部が腫脹したゴマフアザラシ	田村広野 他
2013	両生類爬虫類会議	アオウミガメの甲羅壊死症の治療	岩尾一 他
2013	第19回日本野生動物医学会	バイカルアザラシ <i>Pusa sibirica</i> における血中性ステロイドホルモンの濃度変化と繁殖成否の関連性	岩尾一 他
2013	動物園水族館獣医師臨床研究会	ハンドウイルカの肺アクトノマイセス症疑い2例	岩尾一 他
2014	第24回動物園水族館設備会議	水槽照明のLED採用について	渡辺亨
2014	関東東北ブロック水族館技術者研究会	アカテガニの飼育下繁殖について	原田彩知子
2014	関東東北ブロック水族館技術者研究会	リニューアルに伴う新規展示水槽の工夫とLED照明の活用について	新田誠
2014	第40回海獣技術者研究会	カマイルカの連続射精における精液性状の変化について	加藤結
2014	第59回水族館技術者研究会	宿題調査 屋外水族展示施設について	
2014	第59回水族館技術者研究会	アカムツの人工採卵と育成	新田誠 他
2015	第41回海獣技術者研究会	バンドウイルカにおけるクラリスロマイシンによる薬剤性腎障害の1例	岩尾一 他
2015	第60回水族館技術者研究会	飼育下におけるロクセンズメダイの育成	西村祐加里 他
2015	第60回水族館技術者研究会	キダイの人工授精と育成の試み	新田誠 他
2015	第56回日本動物園水族館教育研究会	新潟市水族館における「地域に根ざした教育」の実践 ～田んぼ体験を例に～	大和淳
2016	第42回海獣技術者研究会	受診動作によるバンドウイルカの抜歯	大越智香 他
2016	第57回日本動物園水族館教育研究会	安全管理等に配慮した自然観察会の試み	西村祐加里 他
2016	シナイモツゴ発見100周年シンポジウム「里山・里地水辺のゆたかな自然を次世代へ」	水族館での保存活動	田村広野 他
2017	東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会	人工授精によるアカムツの育成	新田誠 他
2017	関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会	キタノアカヒレタビラの人工授精による繁殖	田村広野 他
2017	関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会	クロベンケイガニの飼育下繁殖について～アカテガニとの種間比較～	原田彩知子
2018	第20回種保存会議	シナイモツゴの遺伝的系統解析と保全活動(ポスター)	石川訓子 他
2018	関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会	新潟市近郊の陸水環境を模した「にいがたフィールド」とその活用について	平山結 他
2018	第63回水族館技術者研究会	アカイサキの産卵行動と仔魚の形態	新田誠
2018	第59回日本動物園水族館教育研究会	SDGs目標14(海の豊かさを守ろう)とESDを念頭においたワークショップの実施例	大和淳
2018	第10回世界水族館会議(アクアマリン・ふくしま)	Genetic strain analysis and conservation activities in <i>Pseudorasbora pumila</i> (シナイモツゴの遺伝的系統と保全活動) (ポスター)	石川訓子
2019	第64回水族館技術者研究会	人工育成したアカムツの親魚養成技術開発への取り組み	新田誠 他
2019	第45回海獣技術者研究会	JAZA水族館部の支援を受けたカマイルカの飼育下繁殖例	大越智香 他
2019	第60回日本動物園水族館教育研究会	マスメディアを介した情報発信に教育普及効果はあるか	石川訓子 他
2019	東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会	学びのデザイン室×SDGs×人材育成	大和淳
2019	JACRE第2回水族館研究会	屋外展示施設「にいがたフィールド」の概要と生物について(ポスター)	田村広野 他
2020	日本水族館協会第1回水族館研究会	鮮魚を用いたヤナギムシガレイの人工授精	新田誠 他

論文投稿

年	研究掲載雑誌	タイトル	執筆者
1991	動物園水族館雑誌Vol.33 No.4	フンボルトペンギン用保定器具の開発による性別の試み	山崎幸雄 他
1997	動物園水族館雑誌Vol.38 No.3	水槽飼育のウケクチウグイに見られた単性類フタゴムシの一種の寄生	進藤順治
2000	動物園水族館雑誌Vol.41 No.2	血液更新のためのフンボルトペンギン受精卵の移動	山崎幸雄 他 (他園館職員との共著)
2007	Journal of Comparative Physiology. Part B, Biochemical, Systemic, and Environmental Physiology. (2008) 178	Localization of aquaporin-2, renal morphology and urine composition in the bottlenose dolphin and the Baird's beaked whale	加藤治彦 他
2015	魚類学雑誌 62巻2号	アカムツの卵発生と仔魚の形態	新田誠(第2著者) 他 (他所属の研究者との共著)

繁殖賞・技術研究表彰

JAZA「繁殖賞」「初繁殖認定」

繁殖賞は、種の保存に関連する賞です。

公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)加盟の動物園・水族館で飼育している動物で、国内で初めての繁殖に成功し、6ヵ月以上生存した場合に授与されます。技術をたたえ、公開することにより、繁殖技術の向上と希少動物の保存に資することを目的とした賞です。

1956年に制定されて以来、2017年までに1,777種の動物について、繁殖表彰がなされています。

繁殖賞は2017年度で制度見直しのため終了し、2020年度から「初繁殖認定」となりました。

●JAZA繁殖賞受賞実績

生物名	区分	繁殖年月日
トウホクサンショウウオ	自然	1996/3/23
バイカルアザラン	人工	2006/4/18
アシナガスジエビ	自然	2006/4/14
カブトクラゲ	自然	2010/5/8
コウイカ	自然	2011/1/20 2011/2/20
<i>Lysmata boggei</i>	自然	2012/8/20
アカテガニ	自然	2014/7/23
ロクセンスズメダイ	自然	2015/8/25
クロベンケイガニ	自然	2016/2/24

●JAZA初繁殖認定(2020年度認定)

スザクサラサエビ	—	2008/10/17
アカムツ	—	2013/9/19

JAZA「技術研究表彰」

JAZA発行の動物園水族館雑誌に掲載された論文の中から、動物園水族館事業の発展に特に寄与する優れた研究発表に対して贈られる表彰です。

●実績

年	論文タイトル	受賞者
1991	フンボルトペンギン用保定器具の開発による性別の試み	山崎幸雄 大和淳 山田篤 西脇功一
2000	血液更新のためのフンボルトペンギン受精卵の移動	東京都葛西臨海水族園 福田道雄、鈴木仁 新潟市水族館 山崎幸雄 川崎市夢見ヶ崎動物公園 湯沢満 江戸川区自然動物公園 河村早苗

研究会発表 抄録集 (ホームページの抄録集より11編を掲載 https://www.marinepia.or.jp/study)

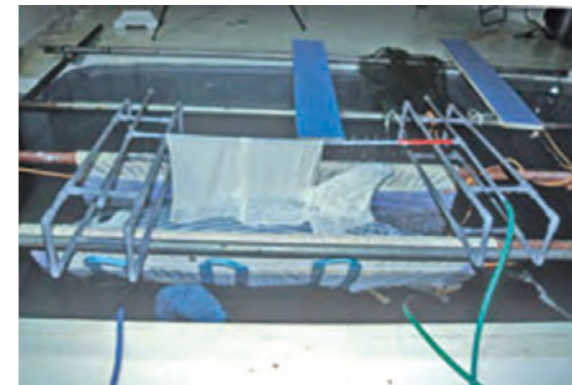
座礁したハナゴンドウの保護、治療について

1998年 第24回 海獣技術者研究会

【展示課】 加藤治彦、進藤順治、野村卓之、大和淳、平野訓子、○田村広野

1998年10月6日、新潟県村上市の三面川河口南側の海岸に、1頭のハナゴンドウ(雌、体長269cm)が、生きた状態で打ち上がった。この個体は、村上市から北に位置する山北町脇川周辺で、9月27日以来、数日にわたって陸上から視認されていて、瘦削が著しいため、当館で保護を試みた個体であることが体表の模様から判明した。ハナゴンドウは、座礁時、瀕死の状態であったため、応急処置(補液、副腎皮質ホルモン剤、抗菌剤等の投与)を施した後、当館に輸送した。担架に乗せ水中での姿勢を保持し、24時間体制で監視、治療にあたった。身体検査、血液検査と胃内視鏡検査を定期的に行い、補液、抗菌剤、強肝剤、総合ビタミン剤等を投与し、強制給餌でイカを与えた。

10月10日、胃出血と肺炎が診断されたため、胃粘膜保護剤、呼吸促進剤と気管支拡張剤を投与し、餌料を消化酵素剤を混ぜた流動食に変更した。10月12日からは、長期の吊起による体表のスレや床ずれが顕著になってきたため、1時間半程、介助により遊泳させた。10月14日、肺炎による呼吸不全で死亡した。生存期間は、保護より9日間であった。



治療の様子



漂着時

ハンドウイルカの採尿訓練概要と尿比重

2001年 第27回海獣技術者研究会

【展示課】 鈴木倫明、加藤治彦、野村卓之、進藤順治、○吉田直幸、松本輝代
石川訓子、新田誠、山際紀子、長谷川泉、長谷川直美、武者美奈絵

動物の尿は、当該個体の健康や生理状態の判断に有効な指標となる検体であるが、鯨目では、採取どころか視認すら困難であることが多い。新潟市水族館では、条件付け技術を応用し、飼育展示下の3頭のハンドウイルカ *Tursiops truncatus* に対し、比較的安定的な採尿が可能になっており、尿性状について基礎的なデータを集積しつつある。訓練の概要と尿性状の一部である尿比重について報告する。

尿は、動物を陸上に乗り上げさせて排尿を待ち、採取する。この時、動物は腹部をトレーナー側に向け横臥姿勢をとる (=サイドランディング)。

採尿の為にはいくつかの行動を形成しそれらを連鎖する必要がある。条件付けを行った核となる行動は、

- ①動物に水中で仰臥姿勢を取らせ、体軸をプールデッキに平行に尾鰭を保持する (=ハズバンドリー姿勢)。
- ②通常排尿までの時間は呼吸間隔をこえる為、何度か体を捻転させ呼吸の機会を与えながら、排尿を待つ。
- ③排尿を視認する。
- ④腹部をトレーナー側に向けサイドランディングさせる。
- ⑤排尿の確認と採取。である。

強化子には、笛、餌、トレーナーの手による接触刺激を用いた。2001年6月12日から7月11日にかけて、1日3回の採尿を目標とした集中的な検体採取からは以下の尿比重結果が得られた。(平均,標準偏差,範囲,標本数) = (1.053,0.004,1.045-1.060,54)、(1.039,0.004,1.031-1.050,77)、(1.043,0.003,1.037-1.053,76)。

バイカルアザラシの人工哺育

2006年 第32回海獣技術者研究会

【展示課】 ○栗城智香、新原扶美佳、吉田直幸、野村卓之、進藤順治、山崎幸雄

バイカルアザラシ *Phoca sibirica* が新潟市水族館において、国内で初めて飼育下繁殖し、人工哺育に成功したので報告する。飼育環境は、水槽6×5×1.5(D)m、水量50m³、陸場面積13.8m²の規模で、開放重力式濾過槽を備え、水温9-18℃、室温8-19℃で変化した。母獣は1990年7月2日に推定年齢0歳で搬入された雄1頭と雌2頭の内の1頭。2001年より交尾行動が観察され、2004年に死産の経験がある。出産時16歳で、11月頃より体重増加が見られ、経過を観察した。仔獣は2006年4月18日朝に展示室の陸場で発見された。胎盤は陸場に排出されており、490gだった。育仔行動が見られなかったため隔離し、人工哺育を開始した。授乳はビニールホース(内径5mm, 外径7mm)を使用してミルクを胃内に流し込む方法をとった。母獣より採取した乳汁2mlを初回に与えた。ミルクは4-6回/日、340-1080ml/日、526-3007kcal/日(0日齢-36日齢)を与えた。市販の子犬用ミルクと水生哺乳動物用粉ミルクを用い、段階に応じてマグロ肉、マアジ肉を混合し、その後はマアジを与えた。仔獣飼育室の温度は15-21℃、水温は14-19℃の範囲にあった。

出生時の仔獣の体長は約63cm、体重は3.86kgであったが、15日齢で7.88kg、36日齢(断乳時)には11.9kgに達した。新生仔毛の換毛は10日齢頃から始まり、25日齢頃に終了した。39日齢より自力摂餌が可能となり、52日齢より展示室へ移動した。9月2日現在、体重20.28kgと順調に成育している。



座礁したオガワコマッコウの保護例

2007年 第33回海獣技術者研究会

○村井扶美佳1)、加藤治彦1)、鶴巻博之1)、松本輝代1)、新田誠1)、岩尾一1)
小林稔1)、山際紀子1)、長谷川泉1)、榊原陽子1)、窪寺恒己2)

(1)新潟市水族館マリニピア日本海, 2)国立科学博物館

2007年6月19日、新潟市北区松浜阿賀野川河口(37°57'N, 139°8'E)にコマッコウ科と推定される雌成獣が生存漂着したため、新潟市水族館マリニピア日本海に搬入した。通報から搬入までに要した時間は約3時間であった。プール収容前に、外部形態の計測を行った結果、背鰭が背の中央付近に位置し背鰭高が体長の5%を占めることからオガワコマッコウ *Kogia simus* と同定した。2007年10月1日時点での(財)日本鯨類研究所ストランディングデータベースによると、国内での保護例は3例目である。

収容施設は屋内展示用プール(14.0×7.5×H3.0m)を使用した。飼育水温は22.1°C±0.3°C、飼育水残留塩素濃度は0.2ppm±0.1ppmであった(2007/6/19-2007/6/21)。収容直後、自力遊泳し暗赤褐色の排泄物を出した。また体を倒立し頭部を水底に押し付け、潜行しようとする行動が繰り返し見られた。搬入から一時間半後には、この行動の出現頻度は低下し、水面に浮遊した状態で止まった。搬入翌日も水面浮遊状態を維持していた。補液等の治療を行うため陸上取り上げを試みたが、水中で保定する際、激しく暴れたため中止した。この際暗赤褐色の排泄物を出し、プールの視界は完全に得られなくなった。搬入3日目も水面浮遊状態が続いた。スルメイカを口元に差し出し、給餌を試みたが反応は無く、昼から嘔吐や吐血が続いた。夕方になり突然暴れ、高速遊泳や頭部を壁面に強打するなど異常行動を起こした。直後に取り上げたが、呼吸は確認されず死亡した。死亡時の体長と体重は、216cm、147kgであった。剖検の結果、右肺出血、心内膜内出血、解離性動脈瘤が確認され、直接の死因は出血による窒息および循環機能不全と考えられた。胃内容物から少なくとも4種の頭足綱の下顎板を同定した。



新潟市水族館におけるクラゲ類の採集記録

2007年 関東東北ブロック水族館技術者研究会

【展示課】 ○大和淳

新潟市水族館では1994年より継続してクラゲ類を展示している。1994年から2003年までは主にミズクラゲを常設展示していたが、2004年1月のクラゲコーナー新設にともない現在は8本の水槽を使用したクラゲ類の展示を行っている。常時7-8種のクラゲを展示する必要があるため、2004年4月より新潟県沿岸を対象としたクラゲ類の調査採集を開始した。調査採集開始後3年半が経過し一定の情報が蓄積されたため報告する。

調査採集は2004年4月から2007年10月上旬にかけて新潟県下越地方および中越地方に点在する漁港などで不定期に行い、調査採集地点、クラゲ種、個体数を記録した。調査採集地点は18ヶ所、回数は126回(同日に2ヶ所調査した場合は2回とカウント)。数回の乗船採集および素潜り採集以外は陸上から水ダモを使用して採集した。また、水ダモが届かず採集を断念した個体で種名が確実なものについては「目視確認」として記録した。

記録されたクラゲ種は、刺胞動物門ヒドロ虫綱32種、立方クラゲ綱1種、鉢虫綱4種、有櫛動物門無触手綱1種、有触手綱7種の計45種であった。実際に展示した種は18種で、その内、おおむね1-2ヶ月以上展示した種は9種であった。

採集方法が限定されているにもかかわらず45種ものクラゲが採集され展示の充実に貢献したと考える。今後の課題として、採集方法の多様化、“研究”を念頭に置いた採集計画の策定および実施、採集生物の長期飼育および繁殖、他園館との情報の共有化による広範囲のクラゲカレンダー作成などがあげられる。

フンボルトペンギンの人為的なペア組み替え

2010年 第20回ペンギン会議全国大会

【展示課】 ○山田篤

フンボルトペンギンは、CITESによって国際商取引が禁止されているため、附属書に掲載された1980年代初頭から現在に至るまで野生個体が輸入されていない。そのため、野生由来のファウンダー（創始個体）はすでに死亡しているか、生きていても繁殖不能な年齢に達している。2008年末の血統登録調査により、国内77施設で1675羽の飼育が確認されているが、近親交配を避けるためと、同一家系の子孫が増えすぎるのを防ぐために、繁殖制限を行っている施設が多い。当館では、1977年に川原鳥獣店より12羽を購入して飼育を開始した。そのうちの8羽が繁殖に関与して、現在は74羽に増えている。少ないファウンダーからの繁殖であるため、当館も例に漏れず、近親交配を避けるための繁殖制限を行っている。

2008年末に形成されていた31ペアのうち、近親交配になるものが12ペア、オスが高齢で受精能力がないものが7ペア、どちらか一方が生理的もしくは遺伝的な異状で繁殖できないものが4ペア、メス同士のもので4ペアで、特に問題がなく繁殖可能なものはわずか4ペアであった。フンボルトペンギン繁殖計画では、人為的なペアの解消がストレスを与えたとし、種卵の移動による新たな家系導入を推奨しているが、導入個体が自園館で飼育している個体と子孫を残すと、新たに近親交配となるペアが発生する恐れがある。当館でも、他の園館から種卵の移動による新たな家系導入を行っているが、導入個体と当館ファウンダー血縁個体がペアを形成して繁殖し、その繁殖個体が血縁上の問題で繁殖できない状態に陥っている。

そこで、今後の繁殖個体群の形成を優先し、人為的なペア組み替えの試みを下記の3例実施した。

- 1 2009年3月に、近親個体とペアを形成していたオスとメス各2羽を、ペアを人為的に解消して繁殖用隔離スペースに移動した。しばらくの間は4羽が一緒に行動していたが、3か月後の6月に1ペアが形成された。
- 2 上記の組み替えによって展示スペースに残されたオス1羽のペアリングもできた。この個体はペアを人為的に解消した1か月後に新たにペアを形成したが、相手が当該個体の子であったため、何度か人為的な操作（個体の移動）を行って血縁のない個体とのペアができた。このペアは9月に産卵したが、残念ながら胚の発生が止まって繁殖には至っていない。
- 3 昨年の繁殖個体（オス）がペアの相手を探していて次々と血縁のある個体とペアになった。そのため、2009年9月にメス同士のペアを人為的に解消して一方を隔離し、もう一方の個体と当該個体のペアリングを展示スペースで行った。2週間後に狙い通りにペアを形成したが、未だに巣を確保できないでいる。

以上の結果、全ペア数は29に減ったが、特に問題がなく繁殖可能なペアが7ペアに増加した（①の残りの2個体はペアリング中）。今後の繁殖に期待する。ただし、オスの高齢化が進んでいるため、あと2、3年で繁殖不能な年齢に達してしまうと考えている。その間にできるだけ受精卵を回収して仮親に預けて当館のファウンダー血縁個体を増やし、同時に種卵の移動による新たな家系導入も計画的に行って、当館の飼育個体群をより長く存続させようと考えている。

アカムツの人工授精と仔魚の初期飼育について

2012年 第56回水族館技術者研究会

【展示課】 ○新田誠

アカムツは、生息深度が深く良好な状態での採集が困難な魚種である。この度、育成個体による展示を目的に、刺し網漁で漁獲されたアカムツで人工授精を行い、仔魚育成を試みた。

親魚は、2010年、2011年の2回、性成熟期間に該当する9月下旬～10月上旬に採集した。2010年は船上で受精卵が得られなかったため、親魚を水温13℃で輸送後、ホルモン剤（HCG：ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン）を、雄：50IU/尾（全長197mm、体重100g）、雌：200IU/尾（全長300mm、体重490g）筋注した。8時間後に採精し検鏡で精子活動を確認、同時刻に採卵した卵（卵径0.9mm）が完熟卵と確認されたため、乾導法で受精した。海水（23℃）を満たすと、卵が浮上卵と沈降卵に分離し、浮上卵で受精膜を確認した。2011年は、受精は船上で乾導法を実施し、浮上卵を水温23℃で酸素バック輸送した。浮上卵を別容器に移し、少量の海水（23℃）を注水して保管した結果、受精25時間後にふ化を開始した。ふ化直前に沈降卵が増加し、ふ化数は、2010年が21尾、2011年が165尾であった。ふ化1日後の仔魚（全長1.92mm）は膜鰭を呈し、眼の黒化は見られず、口と肛門は未開口であった。黄色素胞が、眼後方～第7筋節腹面、第12～16筋節背面に見られた。4日後（全長2.97mm）に肛門の形成と開口を確認し、2010年はL型ワムシ（約250μm）を栄養強化して給餌したが、5日齢に大量死し、生存期間は最長で10日齢であった。6日齢の口径を測定すると200μmであった。生存個体は、ふ化した仔ワムシ（約140μm）を摂餌したと推測され、S型の方がより適していると思われた。2011年は、栄養強化したS型ワムシ（約160μm）を給餌した。初期減耗により、7日後に1個体（全長2.72mm、口径192μm）となったが、解剖でワムシの摂餌を確認した。餌料サイズは判明したが、卵管理改善によるふ化率向上と初期減耗を減少させる飼育条件の解明が今後の課題である。

アオウミガメの甲羅壊死症の治療

2013年 両生類爬虫類会議

【展示課】 岩尾一、原田彩知子

【症例1】

2010年1月9日(第1病日)、1頭のアオウミガメの背甲辺縁部で重度の壊死、感染が生じていたため、壊死組織のデブリドマン、経口および筋肉注射での抗生剤投与を行った(ERFX:エンロフロキサシン10mg/kg 筋肉内注射、OFLX:オフロキサシン 20mg/kg イカに入れての経口投与)。第1病日より、継続的に病変部の状態を、グラム染色による細胞診でモニタリングしたところ、大量に出現していたグラム陰性菌および白血球が、抗生剤投与開始翌日から減少、消失していることを確認したが、第10病日より細菌が再出現したため、第11病日に同じ方法でのOFLX投与を実施した。その後、第20病日以降も細菌の出現はなかったため、治療終了とした。

【症例2】

2012年5月15日(第1病日)、同個体が、同居他個体からの咬傷で、背甲の辺縁部に複数の壊死病変を生じたため、前回同様にデブリドマン、抗生剤投与(OFLXはLVFX:レボフロキサシン 20mg/kgに変更)を行った。病変部のグラム染色によるモニタリングも同様に実施したが、グラム陰性大型連鎖球菌と白血球がERFXとLVFXの投与開始後も出現していたため、細菌の染色態度、使用抗生剤のスペクトラムから嫌気性菌関与も疑い、メトロニダゾール投与も第2病日より追加した(10mg/kg PO 2日に1回)。メトロニダゾール開始翌日より、細胞診所見は改善した一方、下痢が発生した。下痢は整腸剤(ビオフェルミンS 5錠 Bid PO)の併用で著しく改善した。ERFXとLVFXの投与は初日のみ、メトロニダゾールは第22病日まで投与して、治療を終了した。

【考察】

アカウミガメでは、イカに入れてERFXを20mg/kgで経口投与すると7-10日間、治療に十分な血中濃度が維持されることが判明している(Jacobson et al, 2005)。今回のアオウミガメの症例で用いた同系統のOFLX、LVFXでも同様の効果があったと考えられた。また、局所の細胞診は治療効果判定に有用であった。

シナイモツゴの系統保存について

2013年 東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会
水族館との共同研究。その現状と、将来展望に期待を込めて

【展示課】 石川訓子
【新潟大学理学部】 坂井雅人、酒泉満

シナイモツゴは、かつて関東から東北地方に広く分布していた種であるが、現在では東北6県および新潟県と長野県でのみ確認されている希少淡水魚(絶滅危惧IA:環境省)である。1995年よりJAZAの種保存事業繁殖対象種に選定され、現在6園館にて保存活動を行っている。新潟市水族館では選定時より種別計画管理者を引き受け、本種の保存に努めてきた。

近年多くの種において遺伝的系統が調査され、系統を重視した保存活動が展開されるようになってきている。しかし本種においては、一部の地域間での調査報告があるのみで、生息地全体にわたる系統は調べられていなかった。そこで新潟大学に協力を得て、本種の保全に資するために遺伝的系統解析を行った。新潟大学の協力を依頼した理由は、1.メダカの遺伝的系統分析の実績があり専門知識と設備がそろっている 2.水族館から近い 3.以前より展示や研究での交流があった の3点である。

まず本研究を行うにあたり当館保存個体を使用し予備実験を行った。予備実験では、調査領域(シトクロームB、16sリボソームRNA)の決定とプライマーの設計、実験方法やサンプリング方法等を試行した。実際にいくつかの系統があることが予想される結果が得られたため、それを踏まえ方針を決定した。同時にJAZAの野生動物保護募金による助成事業に申請、採択され研究費を得た。これにより一年間で研究を完了し活動の報告と公表の義務が生じた。

実際の役割分担は、検体の入手は水族館、実験方法の決定と設備提供・薬品の調合および実験機材の設定は大学、実験と塩基配列の決定は両者、分子系統解析は大学が担当した。なお打ち合わせはすべて大学で行った。助成研究費は、検体保存用のサンプル瓶とエタノール、大学で使用する試薬類に利用した。その他の支出として、検体輸送料やサンプリングにかかる費用は水族館、チップやチューブ等の消耗品や使用量が少ない薬品類は大学側が負担した。

水族館が受ける共同研究のメリットは、研究のデザインについての助言や実験の分担、設備の利用、解析作業など多大で、専門性の高い遺伝的系統解析が行えることであった。一方で、実働の共同研究者が大学院生であったため、課程修了により研究室から離れてしまい、その後の連絡が難しくなった。また、今後追加調査の必要が生じた際の引き継ぎ等が問題となると考えられる。大学側のメリットは、学生が社会と研究の接点を実感しやすい、研究成果の公開と社会への還元の良い機会となることなどがあげられる。また、1年間という期限のため、実験を進める中で必要となった追加実験の時間をつくるのが困難であるという問題にも遭遇した。

本研究の結果、シナイモツゴは太平洋側(A)と日本海側(B)の2系統から成り、さらにBは5つの亜系統(B1~B5)に分けられることが判明した。現在保存している個体群は太平洋側の系統(A)と日本海側の2系統(B3,B5)に含まれ偏りがあった。今後は保存産地を見直すとともに新規の保存園館を募り、系統を重視した保存活動が展開できるよう努めたい。

クロベンケイガニの飼育下繁殖について ～アカテガニとの種間比較～

2017年 関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会

【展示課】 原田彩知子

クロベンケイガニ *Chiromantes dehaani* は十脚目ベンケイガニ科アカテガニ属に分類される陸生のカニで、太平洋側は宮城県以南、日本海側は青森県以南、南西諸島、台湾、中国、韓国に分布する。本種のゾエア幼生から稚ガニにいたる飼育知見は少ない。飼育下繁殖による育成記録を報告する。また、近縁種のアカテガニとの比較も行う。

親個体は2015年6月21日に阿賀野川河口域で採集した。同年10月3日にアクリル水槽に、オス1個体とメス3個体を収容し、展示した。室温25℃、餌は冷凍アカムシ、冷凍アルテミア、エビカニ用配合飼料を週5回の頻度で与えた。2016年2月7日に抱卵を確認し、幼生放出前に海水を4L入れたポリプロピレン製水槽へ移動した。2月24日に放出されたゾエア幼生を発見し、クレーゼル水槽へ収容した。止水下で弱く通気を行った。毎日1/3換水を行い、ワムシと冷凍緑藻類を与えた。メガロバ期で海から河口へ遡上することから、メガロバ幼生を確認後は9日かけて1/4海水まで希釈した。餌は上記に加えて栄養強化したアルテミアノープリウス幼生も与えた。着底後のメガロバ幼生は、1/4海水を2L入れた円形のガラス製容器に移動し、餌は冷凍コペポダに変更した。稚ガニには冷凍コペポダ、冷凍アルテミア、エビカニ用配合飼料を与えた。

クロベンケイガニの抱卵期間は13～16日、アカテガニ19～28日であり、25℃設定下では年中抱卵した。クロベンケイガニの脱皮は水温24.0～26.0℃下にて約3日間隔で観察され、アカテガニは約4日間隔だった。メガロバ幼生は13日齢、稚ガニは23日齢から見られはじめ、アカテガニ（メガロバ期17日齢、稚ガニ28日齢から）に比べて早く変態に至った。アカテガニは513日齢から繁殖を確認した。今後は同条件におけるクロベンケイガニの繁殖開始年齢を確認したい。

新潟市近郊の陸水環境を模した 「にいがたフィールド」とその活用について

2018年 関東東北・北海道ブロック水族館技術者研究会

【展示課】 平山結、田村広野 【管理課】 石川訓子、大和淳

1990年に誕生した新潟市水族館マリンピア日本海は、老朽化及び耐震対策、バリアフリー化、新たな魅力の付加を目的に、2013年にリニューアル工事を実施し、屋外に「にいがたフィールド」を設置した。その概要と活用を紹介する。「にいがたフィールド」はある種のビオトープで、築山・里域の水辺環境・芝生広場から構成される敷地面積3400㎡のゾーンである。里域の水辺環境として、地面を掘削して遮水シートを埋設し、小川・ため池・たんぼ・わき水・砂丘湖の5つの環境を模した。総水量は100㎡で最大水深は90cmである。各水域は小川でつながり、水道水を中和した飼育水と井戸水を供給し、ポンプ循環を施している。水温は、井戸水の供給点である湧水では年間を通して14℃前後と一定であり、その他の場所では気温の影響を受け変動している。「にいがたフィールド」は新潟市近郊の陸水環境を模し、水生植物ではアサザやトチカガミなど、魚類ではシナイモツゴやホトケドジョウ、トミヨ属淡水型など、レッドリスト選定種を含めた在来種を半自然的な環境で育成させている。これらの種の一部は自然に繁殖、定着し、生息域外保全にも資されている。また、学習機会を提供するため、3月から11月までの月1回、各エリアを職員が解説しながら案内するガイドツアーを実施している。ツアーは10名につき1名のスタッフが対応し、多くの質問を受けるなど参加者の反応はよい。ユニークな体験として、同一の20名を対象に6月から11月までの期間に、田植え・稲刈り・脱穀・わら細工の一連の流れを体験してもらい、「米どころ」新潟の水域文化の一部である農業や伝統について伝えている。普段できない体験ができてよかったなどの感想が多く、参加者の満足度は高い。「にいがたフィールド」には導入生物以外の昆虫や鳥類なども来訪し、一部は定着するなど多様化も増している。今後も、健全な展示環境を維持し、希少生物の保全及び教育普及を推進していきたい。

哺乳類

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	1990.09.19	村上市瀬波沖	混獲	鮭定置	死	1
イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	1991.04.23	新潟市太夫浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	1992.03.03	巻町四ツ郷屋	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1992.03.07	中条町笹口浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	1993.02.15	山形県温海町鈴の海岸	漂着	岩場	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	1993.03.03	西頸城郡能生町浜徳合	漂着	砂浜	死	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>		山形県飽海郡遊佐町湯ノ田	漂着	岩場	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	1993.05.19	新潟市五十嵐一の町(コスボの裏)	漂着	砂浜	死	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	1995.01.23	中条町藤塚浜	漂着	砂浜	生	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	1995.02.03	巻町間瀬	漂着	砂浜	生	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1995.02.10	両津市大野亀	漂着	岩場	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1995.02.18	相川町下相川	漂着		死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1995.02.27	相川町小野見	漂着		死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>		山形県温海町	漂着	岩場	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1996.02.01	山形県鶴岡市油戸の入り江海岸	漂着		死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1996.04.08	能生町浜徳合	漂着		死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	1997.03.09	山北町鳥越山海岸	漂着	岩場が点在する砂浜	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1997.04.02	山形県飽海郡遊佐町西浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	1997.04.30	山北町今川海岸弘法トンネル北口から北へ数百m	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	1998.05.04	柏崎市椎谷	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	1998.06.10	山北町脇川	漂着	脇川漁港	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	1998.09.27	山北町脇川	迷入	岩場	生	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	1999.01.27	刈羽郡西山町石地海岸	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	1999.04.17	西山町	漂着	砂浜	死	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	1999.06.04	新潟市五十嵐2の町浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	1999.06.12	山北町中浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	1999.06.29	山北町今川	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	2001.02.21	巻町角田浜	漂着	砂浜	死	1
ネズミイルカ	<i>Phocoena phocoena</i>	2001.02.26	西山町石地漁港	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	2001.05.05	山北町脇川海洋釣り堀先の小川川岩礁地帯	漂着	岩礁	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	2001.06.09	紫雲寺町藤塚浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	2002.06.17	新潟市島見浜	漂着	消波ブロック	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2003.01.25	新潟市小針浜	漂着	砂浜	死	1
ハシナガイルカ	<i>Stenella longirostris</i>	2003.03.03	中条町荒井浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	2003.04.10	新潟市五十嵐二の町海岸	漂着	砂浜	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2005.01.28	佐渡市沢根小学校下の海岸			生	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	2005.06.06	北蒲原郡聖籠町網代浜	漂着	砂浜	死	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	2006.02.19	出雲崎町久田		砂浜	死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2006.04.28	新潟市五十嵐浜(コスボ近く)	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2006.05.19	新潟市関屋浜	漂着	消波ブロック	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2007.03.04	新潟市五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
オガワコマッコウ	<i>Kogia sima</i>	2007.06.19	新潟市北区松浜(阿賀野川河口右岸)	迷入	河川	生	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2008.01.19	村上市柏尾	漂着	砂浜	生	1
ハンドウイルカ	<i>Tursiops truncatus</i>	2008.04.16	北蒲原郡聖籠町亀塚	漂着	砂浜	死	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	2009.01.22	新潟市北区太夫浜	漂着	砂浜	生	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	2009.03.17	新潟東港、新発田川放水路	迷入	港	生	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2009.03.17	佐渡市小木小木漁港	迷入	港	生	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2009.04.26	新潟市西蒲区角田浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2009.05.05	新潟市西区上新米町海岸	漂着	砂浜	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2009.12.24	村上市今川字宝屋地先	漂着	砂浜	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2009.12.25	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	2010.03.09	新潟市西区四ツ郷屋浜	漂着	砂浜	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2010.03.13	富山県氷見市島尾浜	漂着	砂浜	生	1
ヒゲクジラ属の一種(ミンククジラ?)		2010.04.06	柏崎市観音岬付近	漂着	岩場	死	1
ゴマファザラシ?	<i>Phoca largha</i>	2010.05.01	柏崎市高浜	漂着	砂浜	生	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2011.01.10	村上市瀬波海岸	漂着	砂浜	死	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	2011.03.11	柏崎市椎谷海岸	漂着		死	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	2011.03.13	新潟市西蒲区五ヶ浜	漂着	岩場	死	1
オウギハクジラ属の一種	<i>Mesoplodon sp.</i>	2011.03.22	山形県鶴岡市小波渡	漂着	砂浜	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2011.04.01	柏崎市中央海岸	漂着		死	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	2011.04.05	柏崎市観音岬	漂着		死	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	2011.04.18	新潟市西蒲区間瀬海岸	漂着	砂浜	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2011.05.04	佐渡市北鶴島		海岸遊歩道	生	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	2011.12.28	佐渡市相川	迷入	港	生	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	2012.01.05	長岡市寺泊金山	打ち上げ	砂浜	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2012.03.14	新潟市中央区万代島	不明	不明	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2012.04.14	新潟東港	迷入	港	生	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2012.04.29	新潟市西蒲区間瀬海岸	漂着	砂浜	死	1
スナメリ	<i>Neophocaena asiaeorientalis</i>	2012.06.03	胎内市村松浜	漂着	砂浜	死	1
アゴヒゲアザラシ	<i>Erignathus barbatus</i>	2012.12.17	新潟市阿賀野川河口	迷入	河川	生	1
ミンククジラ	<i>Balaenoptera acutorostrata</i>	2013.02.11	新潟市西蒲区間瀬	漂着	砂浜	死	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	2013.02.25	佐渡市羽茂	迷入	港	生	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2013.03.28	新潟市西蒲区間瀬田ノ浦海岸	漂着		死	1
カマイルカ?	<i>Lagenorhynchus obliquidens?</i>	2013.04.29	新潟市中央区関屋金衛町浜	漂着	消波ブロック	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2013.05.12	新発田市藤塚浜	漂着	砂浜	死	1
ゴマファザラシ	<i>Phoca largha</i>	2013.05.29	新潟市西区四ツ郷屋	漂着		死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2013.12.29	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2014.01.01	村上市瀬波新田町	打ち上げ	砂浜	死	1
ハナゴンドウ	<i>Grampus griseus</i>	2014.01.03	村上市瀬波海岸	漂着	砂浜	死	1
ハンドウイルカ	<i>Tursiops truncatus</i>	2014.01.07	胎内市笹口浜	漂着	消波ブロック	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2014.01.22	糸魚川市漁港	上陸		生	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2014.02.12	新潟市西船見町(マリンピア日本海 地先)	漂着	消波ブロック	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2014.04.02	新潟市西区五十嵐浜	漂着		死	1
マイルカ	<i>Delphinus delphis</i>	2014.09.06	村上市岩船港内	目撃		生	1
ゴマフアザラシ	<i>Phoca largha</i>	2015.01.13	新潟市中央区西港	目撃		生	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2015.01.25	新潟市北区藤塚浜	漂着		死	1
ザトウクジラ	<i>Megaptera novaeangliae</i>	2015.11.03	胎内市桃崎浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラ	<i>Mesoplodon stejnegeri</i>	2016.03.06	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2016.03.13	村上市芦谷	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2016.03.31	新潟市西区四ツ郷屋浜	漂着	砂浜	死	1
オウギハクジラの種類	<i>Mesoplodon sp.</i>	2016.04.05	新潟市西区五十嵐1の町	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2017.02.24	新潟市西蒲区角海浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2017.05.02	新潟市西蒲区越前浜	漂着	砂浜	死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2017.05.05	新潟市東区船江町浜	目撃		生	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2017.05.20	新潟市北区大夫浜	衰弱上陸	砂浜	生	1
ハンドウイルカ	<i>Tursiops truncatus</i>	2018.12.17	新潟市中央区関屋浜	目撃		生	20～30
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2019.01.25	胎内市村松浜	漂着		死	1
キタオットセイ	<i>Callorhinus ursinus</i>	2019.02.02	新潟市西区青山	漂着	砂浜	死	1
イシイルカ	<i>Phocoenoides dalli</i>	2019.02.27	新潟市東区浜町山の下埠頭沖約40m	漂流	港湾内	死	1
カマイルカ?	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2019.04.27	村上市馬下	漂着		死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2020.01.21	新潟市西蒲区越前浜	漂着		死	1
ハンドウイルカ	<i>Tursiops truncatus</i>	2020.01.22	胎内市桃崎浜	漂着	砂浜	死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2021.01.26	新潟市西蒲区五箇浜	漂着		死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2021.02.23	新潟市中央区日和山浜	漂着		死	1
カマイルカ	<i>Lagenorhynchus obliquidens</i>	2021.03.31	新潟市中央区関屋分水～マリンピア地先	目撃		生	多数



オガワコマッコウ(2007.06.19)



ザトウクジラ(2015.11.03)



オウギハクジラ(2016.03.06)



カマイルカ(2017.05.02)



キタオットセイ(2017.05.20)

爬虫類

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1990.12.30	四ツ郷屋～越前浜	漂着	砂浜	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	1992.09.28	村上市三面川河口沖	混獲	鮭定置	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1993.01.04	聖籠町網代浜	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1994.07.17	新潟市関屋			死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	1994.08.19		-		生	1
セグロウミヘビ	<i>Pelamis platurus</i>	1994.12.08	新潟市小針浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1995.06.20	村上市瀬波海岸沖約1km	混獲	定置網	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	1995.09.09	新潟市西船見町	素手	水族館取水橋脇消波ブロック	生	1
ヒメウミガメ	<i>Lepidochelys olivacea</i>	1995.12.21	巻町五ヶ浜	漂着	砂浜	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	1996.09.17	新潟市新潟大学沖	混獲	中層定置網(幅2000m)水深27m	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1996.11.10	聖籠町	漁獲	定置網	-	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1997.01.22	新潟市関屋浜	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1997.01.24	村上市瀬波温泉	漂着	打ち上げ	死	1
ヒメウミガメ	<i>Lepidochelys olivacea</i>	1997.01.25	紫雲寺町落堀川河口左岸	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1997.01.26	新潟市島見浜	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ×タイマイ	<i>Caretta caretta</i> × <i>Eretmochelys imbricata</i>	1997.01.28	羽茂町素浜海岸	漂着	砂浜	生	1
ヒメウミガメ	<i>Lepidochelys olivacea</i>	1997.02.02	両津市願の海岸			死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1997.02.04	岩室村間瀬海岸	漂着		生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1997.02.26	岩船郡山北町府屋海岸	漂着	打ち上げ	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	1997.03.12	新潟市島見浜	漂着	砂浜	生	1
セグロウミヘビ	<i>Pelamis platurus</i>	1999.12.08	新潟市小針浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2001.01.16	寺泊町野積	漂着	砂浜	死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2001.01.29	巻町越前浜	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2001.02.06	新潟市五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2001.12.02	岩室村間瀬立岩	漂着	岩場	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2002.02.10	新潟市五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2006.04.07	新発田市藤塚浜	漂着	砂浜	死	1
オサガメ	<i>Dermodochelys coriacea</i>	2007.02.08	佐渡市小比叡素浜海岸	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2007.02.16	新潟市文京町浜浦橋付近の海岸		護岸ブロック	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2007.10.05	村上市三面川河口沖	混獲	定置網	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2008.02.10	神林村塩谷集落の北(お暮場)	漂着	砂浜	生	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2009.02.22	胎内市胎内川右岸河口	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2009.10.10	村上市三面川河口沖	混獲	定置網	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2010.02.07	佐渡市相川下戸村	漂着	砂砂利	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2010.02.19	新潟市中央区窪田町	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2010.05.01	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	死	1
オサガメ	<i>Dermodochelys coriacea</i>	2010.12.03	聖籠町網代浜(亀代小学校地先)	漂着	砂浜	死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2011.01.11	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2011.01.11	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2011.01.29	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1
セグロウミヘビ	<i>Pelamis platurus</i>	2011.11.23	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.01.24	新発田市藤塚浜落堀川河口	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.01.30	新潟市西蒲区越前浜	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.02.16	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.02.22	聖籠町網代浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.07.15	新潟市北区太夫浜	産卵上陸	砂浜	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2012.10.21	聖籠町網代海岸	漂着		死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2012.11.29	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.12.22	村上市岩ヶ崎	漂着	砂浜	死	1
セグロウミヘビ	<i>Pelamis platurus</i>	2012.12.24	新潟市西区五十嵐1の町浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.12.24	新潟市西区五十嵐1の町浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.12.28	村上市野潟	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.12.28	村上市野潟	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2012.12.29	村上市岩ヶ崎	打ち上げ	岩、砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.03	村上市桑川	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.03	村上市野潟	漂着	砂浜	死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2013.01.03	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2013.01.05	村上市野潟	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.08	村上市吉浦	漂着	砂浜	死	2
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.08	村上市吉浦	漂着		死	2
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.14	村上市野潟	漂着		死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.14	村上市野潟	漂着		死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.01.23	村上市瀬波温泉	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2013.02.09	新潟市西区五十嵐2の町	漂着	砂浜	死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2013.02.14	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.02.14	村上市野潟	漂着	砂浜	死	2
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.02.18	胎内市桃崎浜	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2013.02.18	胎内市桃崎浜	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2013.02.19	村上市野潟	漂着	砂浜	死	1
ウミガメ類	-	2013.02.21	村上市	漂着		-	-
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.03.04	新潟市西蒲区間瀬	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2013.03.23	胎内市村松浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2013.06.29	新潟市西区上新栄町浜	漂着	砂浜	死	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2015.02.11	胎内市荒井浜海岸	漂着		死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2016.03.06	西区五十嵐中学校 地先	漂着	砂浜	死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2016.12.19	新潟市水族館地先	漂着	人工岩礁	生	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
ヒメウミガメ	<i>Lepidochelys olivacea</i>	2017.02.16	新潟市西蒲区越前浜	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2017.03.24	新潟市西蒲区越前浜	漂着	砂浜	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2017.07.04	新潟市西蒲区五ヶ浜	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2018.02.18	新潟市西区上新栄町 海岸	漂着	砂浜	生	1
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	2018.03.07	村上市府屋 海岸	漂着	岩礁海岸	生	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2019.03.06	村上市大月地区海岸	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2019.04.03	新潟市西区青山海岸	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2020.04.06	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2020.04.27	胎内市桃崎浜	漂着	砂浜	死	1
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	2020.10.11	出雲崎町沖	混獲	定置網	生	1
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	2021.02.07	新潟市西区小針浜	漂着		生	1
ヒメウミガメ	<i>Lepidochelys olivacea</i>	2021.02.13	聖籠町次第浜	漂着		死	1



タイマイ (2016.12.19)



ヒメウミガメ (2017.02.16)



アオウミガメ (2017.03.24)



アカウミガメ (2018.03.07)

魚 類

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
ゴマフグ	<i>Takifugu stictonotus</i>	1990.09.23	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	生	1
ゴマフグ	<i>Takifugu stictonotus</i>	1990.09.30	新潟市五十嵐浜	漁獲	定置網	生	1
イトヒキアジ	<i>Alectis ciliaris</i>	1991.08.09	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	1
ツバメウオ	<i>Platax teira</i>	1991.08.17	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	1
キントキダイ	<i>Priacanthus macracanthus</i>	1991.08.20	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	1
メダイ	<i>Hyperoglyphe japonica</i>	1991.08	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	1
ヒメイトマキエイ	<i>Mobula diabolus</i>	1991.09.26	糸魚川市	漁獲	定置網	生	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	1991.12.25	水族館裏	素手		生	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	1992.01.17	巻町四ツ郷屋	漂着	砂浜		1
ホシセミホウボウ	<i>Daicocys peterseni</i>	1992.07.02	新潟市五十嵐浜	漁獲	定置網	生	1
アカナマダ	<i>Lophotus capellei</i>	1992.08.14	柏崎市荒浜沖	漁獲	五智網	生	1
スギ	<i>Rachycentron canadum</i>	1992.09.30	新潟市五十嵐浜	漁獲	定置網	生	1
クサウオ	<i>Liparis tanakai</i>	1993.01.16	新潟市小針浜	漂着	砂浜	生	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
マツダイ	<i>Lobotes surinamensis</i>	1994.07.12	新潟西港沖1km	素手		生	1
ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>	1994.08.29	新潟市新川沖4km付近	釣り		生	1
ノトイズミ	<i>Kyphosus bigibbus</i>	1994.10.14	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	2
マツダイ	<i>Lobotes surinamensis</i>	1994.10.14	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	2
アイゴ(シモフリアイゴ型)	<i>Siganus fuscescens</i>	1994.11.16	新潟市五十嵐浜	漁獲	定置網	生	2
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	1994.11.17	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	18
ハコフグ	<i>Ostracion immaculatus</i>	1994.11.18	新潟市五十嵐浜	漁獲	定置網	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	1995.04.11	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	死	1
ニジカジカ	<i>Alcichthys elongatus</i>	1995.04.18	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	生	1
クロアジモドキ	<i>Parastromateus niger</i>	1995.09.30	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	生	1
コバンザメ	<i>Echeneis naucrates</i>	1995.11.19	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	1996.01.11	新潟市青山海岸	漂着	砂浜	死	1
シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	1996.02.28	阿賀野川河口(左岸側)付近	漂着	砂浜	死	1
シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	1996.10.19	新潟市関屋浜			死	1
ダウリアチョウザメ	<i>Huso dauricus</i>	1997.03.21	聖籠町網代浜	漁獲	刺網(約200m沖、水深3~4m、サケマスねらいの網)	生	1
アカグツ	<i>Halieutaea stellata</i>	1997.05.28	間瀬漁港沖(水深55m)	漁獲	底曳網	生	1
ハナビラウオ	<i>Psenes pellucidus</i>	1997.07.23	関屋浜沖(水深20m)	漁獲	定置網	生	1
ナルトビエイ	<i>Aetobatus flagellum</i>	1997.11.16	水族館裏海岸	漁獲	刺網(水深5m)	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	1999.04.09	新潟県小針浜沖水深9~10m	漁獲	刺網	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	1999.05.06	新潟市五十嵐浜沖	漁獲	定置網	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	1999.05.16	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2002.01.12	新潟市五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2002.04.12	新潟市関屋分水沖水深12~13m	漁獲	刺網	死	1
アカヤガラ	<i>Fistularia petimba</i>	2002.09.04	新潟市関屋浜	漁獲	刺網(水深17m)	死	1
アカヤガラ	<i>Fistularia petimba</i>	2002.09.05	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	死	1
アカヤガラ	<i>Fistularia petimba</i>	2002.09.08	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	死	1
ヒメシマガツオ	<i>Brama dussumieri</i>	2002.10.25	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	死	1
アカナマダ	<i>Lophotus capellei</i>	2002.12.01	新潟市五十嵐一の町(コスボの裏)	素手	海中(砂底)	生	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2002.12.30	西蒲原郡巻町越前浜~四ツ郷屋浜	漂着	砂浜	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2003.05.12	新潟市島見浜	釣り	縦提	生	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2004.02.21	新潟市青山海岸	漂着	砂浜	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolata</i>	2005.01.24	新潟市関屋浜	漂着	消波ブロック	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2005.04.30	新潟市関屋浜	漁獲	刺網	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2005.05.07	西蒲原郡巻町越前浜	漁獲	刺網	死	1
ツバクロエイ	<i>Gymnurd japonica</i>	2007.08.13	新潟市関屋浜	漁獲	刺網(水深10m)	死	1
ナルトビエイ	<i>Aetobatus flagellum</i>	2007.10.18	村上市三面川河口沖	漁獲	サケマス定置網(水深10m)	生	1
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	2007.11.16	新潟市中央区栄町(栄小学校地先)	釣り		生	1
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	2007.11.27	新潟市中央区栄町(栄小学校地先)	手網		生	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	2007.11.28	新潟市西区青山~五十嵐浜	漂着	砂浜	生	1
エビスダイ	<i>Ostichthys japonicus</i>	2007.12.2	新潟市中央区日和山海岸第3釣り堤防	釣り		生	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2008.01.04	新潟市西区五十嵐、新川河口左岸縦堤	漂着	消波ブロック	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2008.02.10	胎内市村松浜海岸(旧中条町)	素手	砂浜	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2008.03.13	新潟市中央区窪田町	漁獲		死	2
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2008.03.19	新潟市中央区窪田町	漁獲	刺網(200m沖)	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2008.04.10	新潟市西区上新栄町	漁獲	カニ刺網(200/300m沖、水深5m)	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2008.05.01	新潟市中央区関屋	素手	消波ブロック脇を遡泳	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2010.05.05	新潟市中央区窪田町	釣り		生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2010.06.13	新潟市西蒲区角田浜	漂着		死	1
マンザイウオ	<i>Taractes asper</i>	2010.06.26	新潟市西区青山	漂着		生	1
シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	2010.07.03	長岡市寺泊沖	釣り	寺泊沖水深50m	生	1
マンボウ	<i>Mola mola</i>	2011.01.14	聖籠町網代浜	漂着		死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2011.02.24	新潟市中央区関屋	漂着	消波ブロック	死	1
ネズミザメ	<i>Lamna ditropis</i>	2011.05.02	新潟市西区五十嵐、新川河口左岸海岸	漂着	砂浜	生	1
ニジマスアラウトウト(?) (ヤマメ?)	<i>Oncorhynchus mykiss</i> × <i>Salmo trutta</i> ?(O. masou masou?)	2011.06.28	村上市瀬波三面川河口	漁獲	定置網	生	1
アメマス	<i>Salvelinus leucomaenis leucomaenis</i>	2011.06.28	村上市瀬波三面川河口	漁獲	定置網	生	1
ツルギエチオピア	<i>Taractes rubescens</i>	2012.01.12	新潟市西蒲区越前浜~四ツ郷屋浜	漁獲	砂浜	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2012.03.09	新潟市中央区関屋	釣り		生	1
ノコギリザメ	<i>Pristiophorus japonicus</i>	2012.04.30	新潟市西蒲区間瀬沖	漁獲	底曳網	生	1
シロシュモクザメ	<i>Sphyrna zygaena</i>	2012.08.17	胎内市笹口浜沖	漁獲	カニ刺網	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2012.12.05	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	死	1
ウスバハギ	<i>Aluterus monoceros</i>	2012.12.24	新潟市西区五十嵐浜	漂着		死	3
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2012.12.28	村上市野潟	漂着		死	20-30
イガグリフグ	<i>Cyclichthys spilostylus</i>	2013.01.06	新発田市藤塚浜海水浴場	漂着	砂浜	死	1
ホシフグ	<i>Arothron firmamentum</i>	2013.01.07	新潟市西区上新栄町浜	漂着	砂浜	死	1
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	2013.01.07	新潟市西区五十嵐浜五十嵐中学地先	漂着		死	3
ウスバハギ	<i>Aluterus monoceros</i>	2013.01.07	新潟市西区五十嵐浜五十嵐中学地先	漂着		死	1
ソウギョ	<i>Ctenopharyngodon idellus</i>	2013.01.07	新潟市西区新川漁港右岸砂浜	漂着		死	1
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2013.01.07	新潟市西区五十嵐浜五十嵐中学地先	漂着		死	多数
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2013.03.07	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	死	1
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	2013.12.08	村上市岩ヶ崎	漂着	岩礁	死	1
イガグリフグ	<i>Cyclichthys spilostylus</i>	2014.01.18	新発田市藤塚浜	漂着	砂浜	死	1
ホシフグ	<i>Arothron firmamentum</i>	2014.01.18	新発田市藤塚浜	漂着	砂浜	死	6
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2014.01.18	新発田市藤塚浜	漂着	砂浜	死	7
イシガキフグ	<i>Chilomycterus reticulatus</i>	2014.01.26	聖籠町網代浜	漂着	砂浜	死	1
ウミスズメ	<i>Lactoria diaphana</i>	2014.02.06	新潟市西区青山海浜公園	漂着		死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2014.02.21	新潟市西蒲区五ヶ浜	漂着	磯	死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2014.03.05	新潟市西区青山	漂着		死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2014.03.15	新潟市西蒲区立岩	漂着		死	1
セレベスヒレアナゴ	<i>Myrophis microchir</i>	2014.04.01	新潟市西区小針浜	漂着		生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2014.04.20	新潟市西総合スポーツセンター裏	漂着		死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2014.04.21	新潟市西区五十嵐浜沖	漂着	定置網	生	1
シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	2014.04.27	新潟市中央区関屋浜沖	漂着	刺し網	-	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2014.06.10	新潟市関屋浜	漂着		死	1
メイトイシガキフグ	<i>Cylichthys orbicularis</i>	2014.11.06	新潟市西蒲区間瀬沖	漂着	底曳網	-	1
アカヤガラ	<i>Fistularia petimba</i>	2014.11.07	新潟市西区小針浜	漂着		死	1
ゴマヒレキントキ	<i>Heteropriacanthus cruentatus</i>	2014.12.01	新潟市西区青山沖	漂着	定置網	生	1
イガグリフグ	<i>Cylichthys spilostylus</i>	2014.12.24	佐渡	漂着	定置網	生	1
リュウグウノツカイ	<i>Regalecus russelii</i>	2014.12.28	新潟市 西蒲区 越前浜海岸	漂着	砂浜	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2014.12.30	新潟市 西蒲区 四ツ郷屋浜	漂着	砂浜	死	1
クロコバン	<i>Remora brachyptera</i>	2014.12.30	12/30漂着のヤリマンボウ口の中から	漂着		死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2015.03.09	聖籠町東港	漂着		生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2015.03.30	新潟市西区小針浜	漂着		生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2015.03.31	新潟市五十嵐中学地先砂浜	漂着		生	1
アムールチョウザメ	<i>Acipenser schrencki</i>	2015.04.05	長岡市寺泊海岸	漁獲	刺網	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2015.04.12	新潟市西区五十嵐浜	漁獲	砂浜	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2015.05.06	村上市寒川蒲萄川河口右岸	漂着	砂浜	生	1
アオザメ	<i>Isurus oxyrinchus</i>	2015.06.13	新潟市 西蒲区 間瀬 白岩	漁獲	砂浜	生	1
テンガイハタ	<i>Trachipterus trachipterus</i>	2015.06.21	胎内市 桃崎浜	漂着	砂浜	生	1
イカナゴ	<i>Ammodytes personatus</i>	2016.01.10	新潟市西区小針浜	漁獲		生	1
リュウグウノツカイ	<i>Regalecus russelii</i>	2016.02.08	佐渡市 黒姫 地先(内海府漁業生産組合 黒姫漁場)	漁獲	定置網	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2016.03.05	新潟市中央区関屋	漂着	消波ブロック	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2016.03.28	聖籠町網代浜	漂着	刺網	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2016.04.02	新潟市西区上新栄町	漂着	刺網	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2016.04.03	新潟市北区島見浜	漂着	縦提	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2016.04.25	新潟市西蒲区越前浜	漂着	砂浜	死	1
スミツキアカタチ	<i>Cepola schlegeli</i>	2016.11.27	新潟市沖	漂着	メタルジグ	生	1
クサビフグ	<i>Ranzania laevis</i>	2016.12.19	佐渡市両津湾	漁獲	定置網	死	1
アカナマダ	<i>Lophotus capellei</i>	2016.12.25	胎内市荒井浜海岸	漂着	砂浜	生	1
アカナマダ	<i>Lophotus capellei</i>	2016.12.26	新潟市西蒲区五ヶ浜海岸	漂着	砂浜	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2016.12.30	新潟市中央区窪田町海岸 水族館地先	漂着	砂浜	死	1
メイトイシガキフグ	<i>Cylichthys orbicularis</i>	2017.01.19	新潟市 西区 青山海岸	素手	砂浜	死	3
ホシフグ	<i>Arothron firmamentum</i>	2017.01.23	新潟市 西区 青山海岸	漂着	砂浜	死	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2017.01.24	胎内市荒井浜海岸	漁獲	砂浜	死	1
イラ	<i>Choerodon azurio</i>	2017.01.30	新潟市西区新川沖	漂着	漁網	死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2017.04.22	長岡市寺泊七ツ石海岸	漂着		生	1
ニホンイトヨ	<i>Gasterosteus nipponicus</i>	2017.05.14	聖籠町新潟東港網代漁港船着き場	たも網		生	1
クマサカフグ	<i>Lagocephalus lagocephalus</i>	2017.10.21	阿賀野川河口沖	釣り	ルアー	生	1
ノコギリザメ	<i>Pristiophorus japonicus</i>	2017.12.04	長岡市寺泊沖	漁獲	刺網	生	1
ウミスズメ	<i>Lactoria diaphana</i>	2018.01.28	新潟市 西区 青山海岸	漂着	砂浜	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2018.02.02	長岡市寺泊沖	漁獲	刺網	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2018.03.09	新潟市西蒲区五箇浜	漂着		死	1
シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	2018.04.11	新潟市 西区 上新栄町駐車場付近	漂着	砂浜	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2018.06.11	新潟市 西区 上新栄町駐車場付近	漂着	砂浜	死	1
クロヘリメジロザメ	<i>Carcharhinus brachyurus</i>	2018.08.23	新潟市沖	漁獲	ごち網	死	1
クマサカフグ	<i>Lagocephalus lagocephalus</i>	2018.09.18	不明(おそらく新潟市)	釣り	不明	死	1
アズマハナダイ	<i>Plectranthias kelloggi azumanus</i>	2018.10.17	新潟市沖	釣り	不明	死	1
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2018.12.15	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
アミモンガラ	<i>Canthidermis maculata</i>	2018.12.15	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
ウミスズメ	<i>Lactoria diaphana</i>	2019.02.02	新潟市西区青山海岸	漂着	砂浜	死	1
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2019.02.02	新潟市西区青山海岸	漂着		死・生	多数
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2019.02.05	新潟市西区五十嵐浜	漂着		死・生	多数
ウミスズメ	<i>Lactoria diaphana</i>	2019.02.10	新潟市西区小針浜	漂着		死	1
シャチブリ	<i>Ateleopus japonicus</i>	2019.04.08	両津沖	漁獲	底曳網	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2019.05.05	胎内市荒井浜海岸	漁獲	刺網	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2019.05.23	胎内市荒井浜海岸、桃崎浜海岸境界	漁獲	刺網	生	1
オキアジ	<i>Uraspis helvola</i>	2019.09.15	佐渡市大野亀沖	釣り	水深50m(ブリ狙い)	生	1
リュウグウノツカイ	<i>Regalecus russelii</i>	2019.10.07	佐渡市達者	漁獲	定置網	生	1
フエダイ	<i>Lutjanus stellatus</i>	2019.10.07	長岡市寺泊	漁獲	定置網	生	1
カワヤツメ	<i>Lethenteron camtschaticum</i>	2019.10.13	新潟市関屋分水路	漂着	遊歩道	死	1
マツダイ	<i>Lobotes surinamensis</i>	2019.11.03	長岡市寺泊	漁獲	定置網	生	1
ヤリマンボウ	<i>Masturus lanceolatus</i>	2019.12.25	胎内市荒井浜	漂着	砂浜	死	1
スジコバン	<i>Phtheichthys lineatus</i>	2019.12.26	新潟市西区真砂	漂着	砂浜	死	1
セレベスヒレアナゴ	<i>Myrophis microchir</i>	2019.12.28	新潟市西区真砂	砂浜	海岸漂着	死	1
シマガツオ	<i>Brama japonica</i>	2020.01.06	新潟市西蒲区間瀬	素手	砂浜波打ち際	生	1
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2020.02.09	新潟市西区	漂着		死	1
リュウグウノツカイ	<i>Regalecus russelii</i>	2020.02.13	新潟市小針浜	海岸漂着	砂浜	死	1
アカグツ	<i>Haliutaea stellata</i>	2020.03.09	新潟市沖	漁獲	底引き網	生	1
ウナギガジ	<i>Lumpenus sagitta</i>	2020.03.19	新潟市西蒲区間瀬	漁獲	底引き網	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2020.04.15	新潟市五十嵐浜	漂着	砂浜	生	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2020.05.23	村上市塩谷荒川河口右岸	漂着	砂浜	死	3
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2020.05.24	村上市瀬波海岸	漂着	砂利浜	死	1
サケガシラ	<i>Trachipterus ishikawae</i>	2020.05.31	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
ソウシハギ	<i>Aluterus scriptus</i>	2020.09.30	長岡市寺泊沖	漁獲	定置網	生	1
ツバメウオ	<i>Platax teira</i>	2020.10.09	長岡市寺泊沖	漁獲	定置網	生	1
アカグツ	<i>Haleutaea stellata</i>	2020.10.21	新潟市西蒲区間瀬沖	漁獲	底曳網	死	1
タカノハダイ	<i>Goniistius zonatus</i>	2020.12.28	長岡市寺泊沖	漁獲	刺し網	生	2
ウスバハギ	<i>Aluterus monoceros</i>	2021.01.17	新潟市西区小針浜	漂着		死	4
メイトイシガキフグ	<i>Cyclichthys orbicularis</i>	2021.01.17	新潟市西区小針浜	漂着		死	4
ウスバハギ	<i>Aluterus monoceros</i>	2021.01.20	新潟市西区小針浜	漂着		死	3
オキヒイラギ	<i>Equulites rivulatus</i>	2021.01.20	新潟市西区小針浜	漂着		死	10
メイトイシガキフグ	<i>Cyclichthys orbicularis</i>	2021.01.20	新潟市西区小針浜	漂着		死	4
ハリセンボン	<i>Diodon holocanthus</i>	2021.01.20	新潟市西区小針浜	漂着		死	1
ホシガレイ	<i>Verasper variegatus</i>	2021.02.22	長岡市寺泊分水沖水深120m	漁獲	刺し網	生	1
ハナミノカサゴ	<i>Pterois volitans</i>	2021.03.01	新潟市西蒲区間瀬沖水深100m	漂着		死	1
カワビシヤ	<i>Histiogaster typus</i>	2021.03.02	新潟市西蒲区間瀬沖水深100m	漂着		死	1

【参考図書】中坊徹次「日本産 魚類検索 全種の同定」2000 東海大学出版会 川那部浩哉、水野信彦、細谷和海「山溪カラー図鑑 日本の淡水魚」1989 株式会社山と溪谷社

無脊椎動物

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1990.08.20	新潟東港内	素手		生	1
ソバガラガニ	<i>Trigonoplax unguiformis</i>	1991.08.25	新潟市小針浜	漁獲	刺網	生	1
ヒダベリイソギンチャク	<i>Metridium senile</i>	1993.03.29	新潟西港沖	漁獲	板曳	生	1
オウムガイ	<i>Nautilus pompilius</i>	1994.12.11	新潟市小針浜	漂着	砂浜	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1995.07.23	巻町角田浜	漂着	砂浜	生	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1995.10.14	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1995.10.16	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
エチゼンクラゲ	<i>Stomolophus nomurai</i>	1995.11.19	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
アオイガイ	<i>Argonauta argo</i>	1995.12.19	両津湾内岸より約1500m	玉網	海面	生	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1996.09.13	新潟市関屋	漁獲	小型定置網	死	2
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1996.09.14	新潟市関屋	漁獲	小型定置網	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1996.09.20	新潟市関屋	漁獲	小型定置網	死	1
タコブネ	<i>Argonauta hians</i>	1996.10.11	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1997.08.22	関屋浜	漁獲		死	1
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	1997.12.07	角田岬沖水深30m	遊漁船	海面	生	1
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	1998.10.29	水族館地先海岸(岩場)	漂着		死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	1999.09.05	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	2
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2000.07.31	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2000.08.02	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1

和名	学名	年月日	場所	捕獲方法	微小環境	生死	個体数
アオイガイ	<i>Argonauta argo</i>	2000.08.02	新潟市関屋浜	漁獲	定置網	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2004.09.04	新潟市西海岸	素手		死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2004.09.10	新潟西港西突堤	釣り(エギ)		生	1
アミダコ	<i>Ocythoe tuberculata</i>	2004.12.03	新潟東港西突堤	手網		生	1
アミダコ	<i>Ocythoe tuberculata</i>	2005.01.23	新潟市寺尾海岸	素手	砂浜	生	1
アミダコ	<i>Ocythoe tuberculata</i>	2005.01.26	岩船郡山北町	漂着	海岸	生	2
アオイガイ	<i>Argonauta argo</i>	2006.11.26	新潟東港突堤	手網	海面	生	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2007.09.08	新潟市中央区西船見町(水族館地先)	釣り		生	1
カツオノカンムリ	<i>Velella velella</i>	2007.09.08	柏崎町石地海岸	漂着	砂浜	死	多
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2007.09.22	新潟市西港突堤	釣り		生	1
フタバヒメセミエビ	<i>Scyllarus bicuspidatus</i>	2007.10.31	新潟市中央区西船見町(水族館地先)	漁獲	ハイカゴ(水深15m)	生	1
アカイカ	<i>Ommastrephes bartramii</i>	2009.03.09	新潟市西蒲区間瀬	漂着	砂浜	生	1
ダイオウイカ	<i>Architeuthis dux</i>	2010.02.20	新潟市西区五十嵐一の町	漂着	砂浜	死	1
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	2012.11.24	新潟市西区五十嵐浜	漂着	砂浜	死	1
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	2012.12.09	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	死	1
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	2012.12.10	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	死	2
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	2012.12.13	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	死	2
ソデイカ	<i>Thysanoteuthis rhombus</i>	2012.12.25	新潟市西区青山海岸	漂着	砂浜	死	1
ダイオウイカ	<i>Architeuthis dux</i>	2014.01.08	佐渡市白瀬沖	漁獲	定置網	生	1
ダイオウイカ	<i>Architeuthis dux</i>	2014.02.10	佐渡市白瀬沖	漁獲	定置網	生	1
ダイオウイカ	<i>Architeuthis dux</i>	2014.02.14	佐渡市鷲崎沖	漁獲	定置網	生	1
アカボヤ	<i>Halocynthia aurantium</i>	2014.03.09	新潟市西区青山海岸	漂着		生	1
コウダクダゲヒゲエビ	<i>Solenocera alticarinata</i>	2014.11.06	新潟市西蒲区間瀬沖	漁獲	底曳網	-	1
ダイオウイカ	<i>Architeuthis dux</i>	2016.02.03	新潟市西蒲区四ツ郷屋浜	漂着		死	1
アオイガイ	<i>Argonauta argo</i>	2016.11.05	聖籠町	漂着	砂浜	生	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2016.12.26	新潟市西区小針浜	漂着	砂浜	生	1
アオイガイ	<i>Argonauta argo</i>	2017.12.24	柿崎市	漂着		生	1
カツオノエボシ	<i>Physalia physalis</i>	2019.09.24	新潟市西蒲区巻漁港	漂着	砂浜波打ち際	生	1
カツオノカンムリ	<i>Velella velella</i>	2019.09.24	新潟市西蒲区巻漁港	漂着	砂浜波打ち際	生	約30
ギンクラゲ	<i>Porpita porpita</i>	2019.09.24	新潟市西蒲区巻漁港	漂着	砂浜波打ち際	生	多数
ルリガイ	<i>Janthina globosa</i>	2019.09.24	新潟市西蒲区巻漁港	漂着	砂浜波打ち際		3
ギンクラゲ	<i>Porpita porpita</i>	2019.10.05	新潟市西蒲区巻漁港、新潟市西区小針浜、新潟市中央区日和山海岸	漂着	砂浜波打ち際	生	多数
ハナガサクラゲ	<i>Olindias formosa</i>	2019.10.05	新潟市中央区日和山海岸	漂着	砂浜		1
カツオノカンムリ	<i>Velella velella</i>	2020.09.19	新潟市西蒲区巻漁港	漂着	砂浜波打ち際	生、死	5
ギンクラゲ	<i>Porpita porpita</i>	2020.09.19	新潟市西蒲区巻漁港	漂着	砂浜波打ち際		1
ルリガイ	<i>Janthina globosa</i>	2020.09.19	新潟市西蒲区巻	漂着		生	1
エチゼンクラゲ	<i>Nemopilema nomurai</i>	2020.09.30	長岡市寺泊野積海岸	漂着	砂浜波打ち際	死	1
ムラサキダコ	<i>Tremoctopus violaceus gracialis</i>	2020.11.01	新川漁港	手網	堤防	生	1

【参考図書】岡田要「新日本動物図鑑」2004 株式会社北隆館。奥谷喬司「日本近海産貝類図鑑」2000 東海大学出版会

新潟市水族館

マリンピア日本海 リニューアル

リニューアルのポイント（施設・設備）

2009年度（平成21年度）

「新潟市水族館リニューアル基本計画策定検討委員会」を設置し、基本計画を策定

2010年度（平成22年度）

基本設計

2011年度（平成23年度）

実施設計

2012年（平成24年）9月～

リニューアル工事（休館）

2013年（平成25年）7月15日

リニューアルオープン

リニューアルの柱

老朽化対策

ホスピタリティの充実

新たな魅力の付加

リニューアルのポイント（施設・設備）

環境負荷低減

- ソーラーパネル(30Kw)による発電。
- 館内の照明をほぼLED化(水槽照明含む)。

バリアフリー・ホスピタリティ

- 膜屋根による雨に濡れないルートの確保。
- 展示動線に沿ったバリアフリールートを確認するため、エレベーターを2基新設。
- 休憩コーナーやベンチを各所に配置。
- 清潔感のあるトイレや授乳室を整備。

リニューアル後



1 ロータリー

路線バス・送迎バス・タクシーの乗降場所、バス用駐車スペースを集約して配置。

2 アプローチ棟 新設

入館者アンケートや運営上の課題により問題点としてあげられた「駐車場から建物までの距離が長い」に対応し、アプローチ棟を前面に新設することにより解消。新設したアプローチ棟にショップやチケットカウンター・新設水槽を配置しリニューアル感を創出。

3 車いす駐車場 新設

屋根付きの車いす利用者駐車場を10台分新設。

4 本館

日本海大水槽・個水槽群をリニューアル。ハンズ・オン展示などの体験型展示ツールを導入し、楽しく学べる展示空間を整備（本館以外の展示スペースに共通）。安全対策として、マリンピアホール天井の耐震化を実施。

5 水辺の小動物

水槽の防水改修などの老朽化対策を実施。生物をより近く近くで見ることができるよう、擬岩など水槽内造形を変更。



出典：国土地理院撮影の空中写真（2009年撮影）

リニューアル前

6 マリンサファリ

水槽の防水改修などの老朽化対策を実施。擬岩や膜屋根の設置、観覧部分の壁をコンクリートと手すりから全面ガラス化。

7 ドルフィンスタジアム

イルカプールの防水改修などの老朽化対策。車いす観覧スペースの新設。雨の吹込み防止屋根の設置。

8 ペンギン海岸

生息地であるペルーやチリの環境を模した陸上部を増設。観覧スタンド・膜屋根など観覧環境を整備。

9 にいがたフィールド 新設

里山や田んぼ・潟・角田山など様々な自然環境が調和して成立する新潟の陸域や水環境を展示。

新潟市水族館マリンピア日本海リニューアル

エリアごとの主なポイント



- 1 アプローチ通路**
リニューアル前の問題点であった、多客時のエントランス前の混雑を解消するため、広いアプローチ通路を確保し、客たまりスペースとしています。
- 2 企画展示室の設置**
企画展示、体験・学習イベントのスペースを設置しています。海水配管を用意しフレキシブルな展示・学習空間としました。
- 3 キッズファン**
海をモチーフにした幼児の遊び場を整備しました。

- 4 体験・学習**
体験・学習のためにアクアラボを新設。骨格標本の展示や実験など学びの空間としています。
- 5 より見やすく**
手摺を強化ガラスとし、生き物がより見やすくなりました。
- 6 トドステージ**
トドを間近に見せるためにトドプールにステージを設置しています。

- 7 イルカスタンド**
冬場の風対策のため風除けネットを設置しました。
- 8 雨に濡れない動線の確保**
各展示エリアへの動線部に膜屋根を設置し雨に濡れずにアクセスや観覧が可能になりました。また、エレベーターを2基新設することにより車いす利用者の動線も確保しています。
- 9 大水槽の漏水**
漏水個所の調査を実施し漏水個所の特定を行い、防水改修に加え内圧充填工法により躯体の強化を図っています。

- 10 飼育設備機器**
経年劣化した機器及び配管の更新。また、屋上にある海水及び淡水タンクを更新しました。
- 11 マリンピアホール**
生き物をモチーフとしたベンチを設置し休憩所として利用。また、天井の耐震化により安全性を高めました。
- 12 育成室**
クラゲや甲殻類、希少な魚類などの繁殖・育成を行っている様子をガラス越しに見ることができます。

『生物の科学 遺伝』

(エヌ・ティー・エス発行)

年6回発行の「生物の科学 遺伝」に当館スタッフが寄稿しました。

- ①2016年 シリーズ『「生物」「生命」を研究・育成する施設から読者の皆さんへのメッセージ』へ6回の連載として寄稿(1年間)
- ②2018年 特集Ⅰ『日本海の生き物と環境 —明らかになってきたユニークな生き物たちと環境』への寄稿

For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ

新潟市水族館
マリンピア日本海 [Vol.1]

〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL: 025-222-7500 URL: <http://www.marinepia.or.jp>

文●加藤 治彦(新潟市水族館マリンピア日本海 館長)

新潟市中央区の西海岸公園地区に立地する「新潟市水族館マリンピア日本海」は、1990年7月に市制施行100周年を記念して開館しました。23年目にあたる2012年9月より、施設の経年劣化や地震対策、バリアフリー化、新たな魅力の付加を目的に休館し、約10ヶ月にわたるリニューアル工事後2013年7月に新装再開しました。敷地面積は約40,000 m²、建物延床面積11,500 m²、水量3,000 m³で、地域性の高いものからエキゾチックなものまで多様な分類群の水族約500種2万点を擁する総合水族館です。

リニューアルを契機に、展示を10のゾーンに再整理し、よりストーリー性を持ったわかりやすい展示となったと考えています。以下、各ゾーンについて紹介します。

- ① 潮風の風景：増築部分に新たに設置した7基の水槽で、海洋環境の多様性を概説し、水族館への期待感を喚起する導入部です。サンゴ礁、マングローブ、干潟、岩礁域等のさまざまな海辺環境を底質や植生と関連づけて再現し、それらの環境に生息する生物を展示しています。
- ② 日本海—大陸と列島に囲まれた海：造波装置により潮騒の間こえる水量800m³の「日本海大水槽」を擬岩やアクリルパネルで2分割し、水槽底部に入館者を導くスロープ側に浅海域のさまざまな魚類を展示し、透明アクリルトンネルを抜けた大観覧面側を沖合部としてコブダイやサバ科等日本海に生息する魚類を展示しています。
- ③ 暖流の旅—黒潮と対馬海流：塗装や擬岩、擬サンゴなどのディスプレイで環境再現を図った18基の水槽群を用いて、北赤道海流を起源とする黒潮と対馬海流の流れに沿った生物地理学的展示展開をしています。
- ④ 信濃川—多様な陸水環境と魚類：10基の水槽で河口部から上流域にわたる多様な河川環境を示し、水族を展示しています。ウケクチウグイやシナイモツゴ等の在来希少魚を見ることができます。



⑤ 体験・学習：水族に触れて生き物を体感できる体験水槽、ライブラリー、標本展示コーナーがあり、アクアラボでは水族について楽しく学べる「体験プログラム」を日替わりで毎日開催しています。

⑥ 水辺の小動物：半水生の哺乳類を展示しています。草食性のアメリカビーバー、すでに絶滅したとされるニホンカワウソの基亜種ユーラシアカワウソ、日本初繁殖のバイカルアザラシ、日本の飼育下では希少になりつつあるラッコの4種です。

⑦ ドルフィンスタジアム：ハンドウイルカ、カマイルカを用いてショー形式の展示をおこない、鯨類の分類や形態、生息環境やヒトとの関わり、認知、行動能力などについて概説し、科学的に正確な知識の普及をめざしています。

⑧ マリンサファリーひれあしの入り江：二層構造で水面からも水中からも観覧できるこのゾーンでは、ゴマフアザラシ、トド、カリフォルニアアシカを展示しています。

⑨ ペンギン海岸：フンボルトペンギンとイワトビペンギンを飼育展示し、広い陸上部に多くの営巣箱を設置しています。

⑩ にいがたフィールド：新たに造成されたゾーンで、ため池、水田、湧水、小川、砂丘湖等を配置し、この地域の淡水の湿地環境を再現しました。半自然的な環境で、キタノメダカ、アカヒレタビラ、シナイモツゴ、ホトケドジョウ、トミヨ属淡水魚等、在来淡水魚の自然繁殖を目指すとともに、入館者が自然の野山へ訪れる契機となるようなビジターセンター機能も併せ持ちたいとの願いも込めて、植栽も地域環境を再現するように作られています。環境教育が大きな目的となりつつある水族館の新たな展示手法として、その訴求力に期待もしています。

館長 加藤治彦 より

地域性のある展示は、地域水族館としての義務であり、また魅力でもあると考えます。また現代社会では、環境保全が人類の持続的発展に不可欠であるとの認識も重要です。生き物の生命を展示する水族館では、多様性や環境保全にも配慮しながら、これらに貢献できるような展示を目指しています。



For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ



〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL: 025-222-7500 URL: <http://www.marinepia.or.jp>

文◎ 新田 誠 (新潟市水族館 マリンピア日本海 展示課)

アカムツは、水深200 m付近に生息するスズキ目ホルジャコ科の魚で、口内が黒い様子からノドグロともよばれています。飼育が難しく、展示する水族館はまれですが、マリンピア日本海では数年にわたる育成研究の結果、育成個体による生体展示を実現することができました。

アカムツの研究は、底曳網で数尾が生きて漁獲されたことがきっかけでスタートしました。このときの生体はその日のうちに死んでしまいましたが、原因は鱗が剥がれたことによる擦過傷と深海からの浮上による水圧のダメージでした。そこで、ダメージの少ない採集方法がないか調べてみると、新潟近海では9月ごろに水深100 m付近の浅い海域に集まる習性を持つことや、その時期に寺泊沖で刺網によるアカムツ漁をおこなっていることがわかりました。2008年に、刺網漁業者の協力を得ることができ、アカムツ展示を目標とした採集への挑戦が始まりました。

寺泊沖の刺網で漁獲されたアカムツは、漁網で受ける傷や水圧によるダメージは少ないものの、影響を受けにくいのは雄で、雌の多くは腹部を上にして浮いてしまいました。また、雌のみが体長20 cmを超える大型魚に成長するため、大型魚を対象とする刺網漁の網目では雄の漁獲がほとんど見込めず、生体の採集は期待どおりには進みませんでした。しかし、漁獲後の魚体を注意深く観察すると、雌の腹部に膨張が見られ、卵巣が発達していることに気づきました。また、雄が水圧のショックで放精する様子も観察されました。偶然のできごとでしたが、寺泊沖の刺網漁は産卵習性を利用した漁だったのです。

採集方法に行き詰まっていたとき、ふとこの時期のアカムツであれば卵と精子が採取でき、人工授精ができるのではないかと考えました。成魚を採集して生体展示することはほぼ不可能ですが、仔魚から育成する方法であれば、水圧や水温、擦過傷の影響などを考えなくてよく、入手に伴

う障害は大きく減らせるはずでした。これまで、アカムツの人工授精はもちろんなこと受精卵すら見つかっていません。前例のない挑戦となりましたが、2010年に人工授精に成功し、世界で初となる卵の発生の様子を記録することに成功しました。

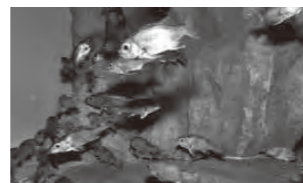
初めての卵管理は、大多数の卵が発生途中で死ぬという大失敗に終わりました。アカムツ卵は浮性で、受精後は水面に浮いて発生が進みますが、ふ化直前に底に沈む性質が見られたことから、空気(酸素)と触れている水面から酸素の少ない底に沈んだことによる酸欠が原因と考えられました。沈降による酸欠死を防ぐためエア量の改善を試み、2012年には約20%のふ化率まで向上しました。

仔魚の育成は順調に見えましたが、10日を経過したところから摂餌不良に陥る個体の増加で大量死を招き、育成期間は最長で20日間で終わりました。アカムツの仔魚は、口が開いていない未熟な状態でふ化します。3日目でも口が開き摂餌が始まりますが、口径は0.2 mm程度しかなく、餌として用意した動物プランクトンがかろうじて捕食できる大きさしかありませんでした。魚の成長は水温の影響を受けるため、高水温で飼育するほうが早く成長します。たくさんの餌を捕食させるには、仔魚の飼育水温の見直しが必要と考えました。翌年の2013年9月に寺泊沖の鉛直水温を測定し、海洋での仔魚の分布水深と照合した結果、仔魚が分布している水深20~40 m付近では、水温が約22~25℃であることがわかりました。飼育水温を23℃に見直して育成した結果、223尾を稚魚期まで育成することに成功し、1年後の2014年に世界的にも前例を見ない100尾に及ぶアカムツの生体展示が実現しました。

アカムツは、雄が3歳、雌が4歳で成熟すると考えられていますが、繁殖行動が未解明で、自然・飼育どちらの環境でも確認された事例がありません。今後は、アカムツの繁殖に関わる環境要因を解明し、水槽内での繁殖行動を誘発するきっかけを発見したいと考えています。アカムツの全生活史を通した完全飼育の達成を目指し、今後もさらなる挑戦を続けていきたいと思っています。



ふ化後3ヶ月(約30mm)



現在のアカムツ水槽

For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ



〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL: 025-222-7500 URL: <http://www.marinepia.or.jp>

文◎ 石川 訓子 (新潟市水族館 マリンピア日本海 展示課)

みなさんにとって水族館とはどんなところでしょうか？生き物を見て楽しむところ、癒される場所、娯楽施設、観光スポット、遠足の行き先、校外学習の場など、答えは多々あると思います。では、職員はというと「楽しみながら水族のことを知ってもらおう場」でありたいと考えています。種名板や解説文、スタッフによる解説、校外学習の受け入れ、ハンズ・オン展示などを用いて多くの来館者に対し生物の情報を発信しているのはそんな思いからです。

一方で、受け手の反応に合わせたきめ細かい学びの提供やじっくり生物の話をする機会が少ないという問題意識がありました。そこで、少人数に対する定期的な教育プログラムとして「水族館いきもの教室」を平成18年6月よりスタートしました。毎月1回、違ったテーマで開催する小学生以上を対象とした事前募集型のプログラムで、手や頭、五感を使った観察や実験、模造紙やホワイトボードを駆使した解説などをおこないます。参加者は小学生とその親という組み合わせがほとんどですが、大人だけの応募も受け付けています。

ここでは毎年恒例となっている人気の教室を二つ紹介します。

(1) 「解剖教室」

解剖する生物は、軟骨魚(トラザメ)、硬骨魚(マサバやブリの子、ザラビクニンなど)、軟体動物(スルメイカ)とプログラムによってさまざまです。どの生物の時でも気をつけていることは、解剖により得た情報を生きている生物にフィードバックするという、「生」へとつながる学びを得ることです。生体を扱う水族館ならではのプログラム作りを心がけています。

プログラムでは、体のつくりについて、「触る・動かす・切り取る・顕微鏡で見る・食べている物を調べる」など外見から徐々に内部の構造へと学んでいきます。その後生体

を見ながら実際に呼吸するときの鰓や口の動き、泳ぐ時のヒレや体の使い方、食べ方などを観察します。また学んだことを楽しく振り返るために、10問程度の三択クイズを全員でおこない、内容を再確認します。

今年度は「魚の解剖」を計画しており、トラザメが入ってきた際はサメを解剖する予定です。

(2) 「貝の標本づくり」

毎年夏休みに開催しているため、夏休みの課題の完成を目的とした参加者が多いのですが、このプログラムでは標本ケースに並べた完成品を目指すのではなく、作り方の基本を学ぶことに主眼をおいています。標本作りは方法さえわかれば想像するより簡単にできるものです。海へ行き、生き物に触れ、観察するきっかけになることを願ったプログラムです。

プログラムでは、最初に水族館前の海岸へ行き、金属のヘラやバターナイフなど家にありそうな道具を使って貝を採集します。採集した貝は水族館で茹でて肉の部分を取り除き、1個体ずつ、巻き貝のフタがあれば一緒に包んで持ち帰ってもらいます。ラベルには採集場所と日時をまず記入し、種名は水族館が作った見本と照らし合わせながら参加者が決定します。また、家庭で標本が作れるように手順や作成上の重要ポイントを明記したプリントを配布しています。

二つの教室を紹介しましたが、このようなプログラムを水族館でおこなうメリットは「生体を観察できること」です。そのため水族館で取り扱っている生物をテーマに選ぶようにしています。上記以外にも「キタノメダカの産卵観察」、「パファンウニの人工授精」など、また「ミズクラゲの浮遊標本づくり」や「魚拓」など、作った作品を持ち帰れるプログラムもあります。

水族館は楽しく学ぶことができる施設です。「水族館いきもの教室」は、「より深く学べる」プログラムの一例ですが、普段から来館者が無意識のうちに生物に興味を湧き、学んでしまう仕掛けのある展示や解説を提供する施設でありたいと思います。



水族館地先海岸での貝の採集風景

For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ



〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL: 025-222-7500 URL: <http://www.marinepia.or.jp>

文● 日高 萌生 (新潟市水族館 マリンピア日本海 展示課)

新潟市水族館 マリンピア日本海では、ハンドウイルカ3頭とカマイルカ4頭を飼育し、「楽しく学べる」をコンセプトにイルカについて学習できるイルカショー解説をおこなっています。ハンドウイルカは体長約1.9~3.8 m、体重180~330 kgで世界中の熱帯や温帯域に分布しています。水族館でよく見ることのできるイルカです。カマイルカは最大で体長約2.5 m、体重約180 kgで、北太平洋の温帯域に分布し新潟沿岸でも観察されることがあります。背ビレが草を刈る鎌のような形をしているのが特徴です。

毎日おこなっているイルカショーですが、イルカの「トレーニング」や「健康管理」はどのようにおこなわれているのでしょうか。今回はこの二つについてお話しします。

(1) トレーニング

水族館のイルカは、心理学の理論であるオペラント条件付けを応用した行動形成法を用いてトレーニングをおこないます。オペラント条件付けとは、ある行動の直後に褒美などの刺激を与えることで行動の出現確率を変化させる手続きのことです。直後の刺激を強化子(きょうかし)、強化子を与えることを強化といいます。与えると行動の出現確率が上がる強化子を正の強化子とよびますが、イルカにとっての代表的な正の強化子は餌となります。犬にお手や伏せ、おすわりなどを教えるときに褒美としておやつやおもちゃなどを与えるのもオペラント条件付けを応用しています。

イルカはいつでも強化子(餌)を与えられるところにいるとは限らないため、餌に代わる強化子として笛を使います。イルカにとって笛の音は強化子ではないため、笛の音と餌を同時に与えることで笛と餌を関連付けさせ、笛が鳴ったら餌がもらえるということを教えます。イルカは言葉が通じないため、意図を言葉で伝えることができません。強化したい行動(たとえばジャンプ)をうまく引き出すために提示する刺激(ハンドサインや道具など)を工夫し、適切な

タイミングで強化する。トレーナーの腕の見せどころです。

(2) 健康管理

イルカは大型で決して安全な動物とはいえません。飼育係の危険性やイルカの負担を軽減するため、健康管理のためのハズバンドリートレーニングをおこなっています。ハズバンドリートレーニングとは、健康管理をするために必要な自発的な受診動作などを行動形成することです。

普段おこなっている主な健康チェック項目は以下のとおりです。すべての項目でイルカが自発的に受診動作をします。

- 口内・食道チェック: 異物を飲み込んでないか口に入れているかを確認します。食道に魚の骨や松の葉、昆虫などがときどきあります。ビニールや金属製のネジは危険物です。
- 体表チェック: 体に傷がないかや垢がどれくらい取れるかを確認します。
- 歯茎チェック: 飼育下ではトレーナーから餌をもらって丸呑みにするのでほとんど歯は使いませんが、野生下では餌を噛んで捕まえるため歯茎に刺激があります。飼育下ではその刺激がないため、電動歯ブラシで歯茎に刺激を与え歯茎を健康に保ちます。
- 目のチェック: 目に傷などがないか確認して必要があれば目薬を点眼します。
- 体温測定: イルカの体温は肛門からプローブを挿入して測定します。人間と同じく36.0~37.0℃です。

ここまでの健康

チェックは朝のショー前と夕方のショー後におこなっているため、誰でも見ることができます。

- 体重測定: 毎週月曜日の朝に体重測定をおこない体重の増減によって餌の量を調整しています。

他にも採血や採尿、内視鏡検査などのハズバンドリートレーニングもおこない、定期健診や体調不良の際には検査をおこないます。

水族館に訪れた際にはただ動物を見て楽しむだけでなく、違う観点から観察したり、ハンズ・オン展示に触れてみたり、ショーの解説に耳を傾けてみたりして楽しく学んでください。



体温測定



内視鏡検査

For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ



〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL: 025-222-7500 URL: <http://www.marinepia.or.jp>

文● 山田 篤 (新潟市水族館 マリンピア日本海 展示課)

近年、人の手によって自然環境が変化し、野生生物の生息環境が悪化しています。多くの動植物種が絶滅危惧種とされ、レッドリストには国内で約3,500種(環境省)、世界では約24,000種(IUCN)が掲載されています。

動物園や水族館の役割として「種の保存」は重要なものと位置づけられています。「種の保存」とは、絶滅のおそれのある生物を飼育下に置き、遺伝的な多様性をできるだけ高く保つよう繁殖を重ね、野生復帰可能な個体群を維持することです。生物が野生下で絶滅した時のバックアップという意味合いがありますが、生息環境が悪化したままでは元の生息地に戻すことはできません。

動物園や水族館の展示動物が死んでしまった場合、以前は野生から捕獲してくることがほとんどでしたが、現在では野生個体自体が少なくなっているため、飼育下繁殖に力を入れています。「種の保存」を違う側面から見ると、展示生物を野生からの捕獲に頼ることなく持続的に確保するためともいえます。ただ、単独の施設では「種の保存」事業はすぐに行き詰まってしまう。創始個体が1ペアの場合、どちらか1頭が死んでしまえば繁殖できません。仮に繁殖が順調にいった場合でもいずれ収容スペースが不足し、近親交配の可能性も高くなります。そこで、現在では公益社団法人日本動物園水族館協会(JAZA)に加盟する150ほどの動物園、水族館でバラバラに飼育されているすべての個体を一つの大きな群れとして管理しようという考え方で事業を進めています。また、飼育個体数が少ない種や国際的な連携が欠かせない種は、他の地域の動物園水族館協会と合わせた管理計画を立ててペアリングをおこない、個体数や遺伝的多様性の維持に努めています。

新しい取り組みとしては配偶子バンクがあります。生きている動物から採取した精子や卵母細胞、死んでしまった動物から採取した生殖器官等を凍結保存しておき、人工授

精につなげようという試みです。ウシではすでに確立されている手法ですが、繁殖生理が十分に解明されていない野生動物では難しく、最近になってやっとペンギン類でも成功したとの報告があります。

このように、さまざまな方法で「種の保存」の努力がされていますが、動物園や水族館の中だけで種が保存されていても意味がありません。「種の保存」の最終的な目標は、希少野生生物が生息していけるような自然環境の保全です。

自然は多様な生物の生態が複雑に絡み合って成り立っています。一つの種の絶滅は短期的には影響がないように見えますが、その種がどんな役割を果たしていたかわからないため、長期的にみると自然環境の急激な変化を招くおそれもあります。私たちの子孫のためにも、人と自然との共存の道を探っていく必要があると考えます。

当館での「種の保存」の取り組みを二つ紹介します。

◆ シナイモツゴ

東日本の一部の地域に生息する全長8 cmほどのコイ科魚類です。生息地の消失と国内外来種で近縁のモツゴとの交雑、国外外来種であるオオクチバスやブルーギルによる食害などによって個体数が減少し、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IA類にリストアップされています。生息地が分断されているので地域間の遺伝的差異があり、それぞれの系統が交雑しないように保存しています。また、生息地の状況を確認するための調査を定期的におこなっています。



シナイモツゴ *Pseudorasbora pumila*

◆ フンボルトペンギン

温暖な南アメリカのペルーとチリに生息している体長60 cmほどのペンギンで、現在の生息個体数は35,000羽ほどです。営巣地の土壌撈取、エルニーニョや漁業による餌生物の減少などによって、生息が脅かされています。JAZA加盟動物園、水族館で1,800羽余りが飼育されていますが、1980年にCITES(通称ワシントン条約)により商取引が規制され、現在飼育している個体はすべて飼育下で繁殖したものです。当館では70羽余りを飼育していますが、近親交配を避けるために血縁のない他の施設の個体を借り受けたり、受精卵の交換をしたりして繁殖調整をおこなっています。



フンボルトペンギン *Spheniscus humboldti*

For your Lifework

「生物」「生命」を研究・育成する施設から
読者の皆さんへのメッセージ

新潟市水族館
マリンピア日本海 [Vol.6]

〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL: 025-222-7500 URL: <http://www.marinepia.or.jp>

文●大和 淳(新潟市水族館マリンピア日本海 管理課)

このコーナーでのマリンピア日本海の連載も今回で一旦終了となります。これまでの5回は、①展示紹介、②繁殖育成研究、③教育プログラム、④動物の健康管理、⑤種の保存、をテーマに、マリンピア日本海での取り組みについて紹介してきました。6回目となる今回は、筆者が水族館の機能の中で最重要と考えている「環境教育」についてお話ししたいと思います。

水族館や動物園の機能として「レクリエーション」「研究」「種の保存」「教育」があるといわれています。その中で、やはり「教育」がポイントになると考えています。

水族館には「生きている水族を展示する施設」が必ずありますので、それぞれの機能は展示と密接な関係を持っています。展示は基本的に教育や学びと切り離すことはできません。どのような展示も教育的な意味で「見てもらいたいこと」や「伝えたいこと」「感じてもらいたいこと」などがあります。一方で、水族館は「楽しい＝レクリエーションの場」であることも求められています。しかし、教育や学びと楽しさは反することではありません。むしろ、今まで以上に「楽しみながら学べる」水族館にしていく必要があります。また、「研究」や「種の保存」もその取り組みや成果を展示にフィードバックする必要があるため、間接的に教育に関係します。すなわち、すべての機能は教育機能と対となっています。

2003年に公布され、2011年に改正された『環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律』の第2条第3項では、環境教育を「持続可能な社会の構築を目指して、家庭、学校、職場、地域その他のあらゆる場において、環境と社会、経済及び文化とのつながりその他環境の保全についての理解を深めるために行われる環境の保全に関する教育及び学習をいう」と定義しています。短くまとめると「持続可能な社会の構築を目指しておこなう環境の保全に

関する教育及び学習」となります。水族館は主に野生生物を扱いますので、機能としての「種の保存」はもちろんのこと、すべての活動が環境の保全を念頭においておこなわれることが理想です。また、持続可能な社会には「生物多様性」も含まれるため、水族館がその構築に取り組むことは当然ともいえます。これらのことから、水族館にとって環境教育は重要な機能であり、水族館の教育活動によって「持続可能な社会の構築に参加する人間を(大人も子どもも)増やすこと」は水族館の存在意義のひとつといえると思います。

当館での環境教育プログラムの一例を紹介します。

2013年のリニューアルの際、屋外に「にいがたフィールド」という新潟の水辺をモデルにした、いわゆるピオトープを造成しました。「砂丘湖」「ため池」「湧水」「小川」などの「自然環境」の再現とともに、「人工環境」である「田んぼ」も作りました。新潟といえば「お米」であり、平野や山間部の田んぼの風景を映像などで一度はご覧になったことがあると思います。この田んぼで4歳から小学生くらいの子どもの主な対象とした「田んぼの体験プログラム」を実施しています。最近では他の水族館でも館内に田んぼを造成し、体験プログラムを実施しているところが増えてきたようですが、当館の田んぼは次の特徴があります。



水が張られた田んぼでの田植え

- (1) 田植えや稲刈りの時にも水を抜かない「年中湛水」により、田んぼを棲み場とする水生生物との共生を実現(ここまで徹底しているところは少ないと思います)。
- (2) 無農薬、無化学肥料(現状は有機肥料も未使用)で栽培。また、このプログラムでは、
 - ① 水生生物の棲み場としての田んぼの重要性を再確認するとともに、稲作の行程と水生生物との関係を体験的に感じてもらう
 - ② 普段目にする田んぼとの違いを感じてもらい、生物との共存を含む持続可能な社会を構築するための農業について考えてもらう
 - ③ 栽培することと食べることをつなげるを目指して実施しています。

水族館と環境教育についてお話ししましたが、持続可能な社会の構築にどれだけ貢献できるかが、これからの水族館に問われているのではないのでしょうか。

[特集I] 4 日本海の生き物と環境 —— 明らかになってきたユニークな生き物たちと環境

関連する学科: 生物, 物理学, 化学, 生物学, 水産学, 動物学, 環境学, 海洋学

日本海固有水の 低温環境と深海生物 ——その採集と展示のノウハウ

新田 誠 Makoto Nitta

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 新潟市水族館マリンピア日本海 展示課展示第1係 主査

水族館では、教育的配慮の下に水生生物を採集して飼育し、展示している。海洋では、深度が増すにつれて高水圧や低水温の環境となり、採集や飼育は困難となる。日本海の深海には、どのような生物が生息しているのか。深海という特異な環境に暮らす生物を展示するために、新潟市水族館がおこなっている努力や工夫について紹介する。

新潟市水族館マリンピア日本海は、1990年7月に開館した水族館で、総水量3,226 m³、大きささまざまな64基の水槽があり、850種約60,000個体の生物を飼育している。そのうち、深海生物の水槽は11基で、地域の種を中心に53種約1,400個体を飼育している。それぞれの水槽は冷却能力を有し、生息環境に合わせて水温を1.0~13.5℃に調節している。

水族館は博物館の一つと位置づけられているが、水族館に求められる社会的役割は、生物を採集してこれらを健全に飼育し、展示水槽や解説パネルを通じて教育的配慮の下に紹介することである¹⁾。



展示水槽で飼育している人工授精によって育成したアカムツ

【関連する領域】

組織: 日本海区水産研究所, 富山県水産研究所, 農水省・水産庁, 大学(水産学・生物系)
業界: 水産業, 漁業
学科: 生物, 物理学, 化学

学問: 生物学, 水産学, 動物学, 環境学, 海洋学
情報源: 国立研究開発法人水産研究・教育機構日本海区水産研究所HP, 水産庁HP, 国立研究開発法人海洋開発研究機構HP, 東京大学大気海洋研究所HP

日本固有水の低温環境と深海生物 —— その採集と展示のノウハウ

そのために基礎的な調査研究は必須であり、特に飼育に関する分野では、採集方法の確立や育成技術の開発などが大きなテーマとなっている。

1 新潟の海の特徴

海洋環境は、おおまかに浅海と深海に分けられる。一般的に水深200 mより深い場所を深海とするため²⁾³⁾、いわゆる深海生物とは水深200 m以深に分布域のある種を指す²⁾。

新潟県の本州側と佐渡島との間に最大水深537 mの佐渡海峡があり、当館の深海生物の採集活動は主にこの海域でおこなわれている。国立研究開発法人水産研究・教育機構日本海区水産研究所が2016年におこなった5月と7月の佐渡海峡での水温調査によると、表層水温は14.4~22.1℃と大きく変化するのに対し、水深300 mでは1.6~1.7℃と、深くなるほど水温変化の少ない低温の環境となる(図1)。これは、日本海に共通する特徴で、表層水温は対馬海流の影響を受けることで大きく変化する一方、およそ300 m以深には水温0~1℃で低塩分のほぼ安定した「日本海固有水」とよばれる水塊が存在する。日本海での深海生物の採集では、この表層との極端な水温差と水圧差の影響を強く受ける²⁾⁴⁾。

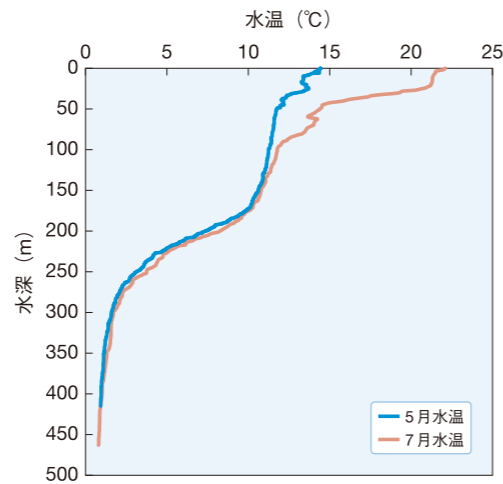


図1 佐渡海峡沖の水温(2016年)
(資料:国立研究開発法人水産研究・教育機構 日本海区水産研究所)

相違のない種が多い。

日本海の深海魚は、二次性が大部分を占めているとされる⁵⁾⁶⁾。これは、日本海の地理学的特徴との関連が指摘されている。日本海は他の海洋とつながる海峡が最大深度で130 mと浅いため深海魚が進入しにくいことに加え、深層にある日本海固有水の特徴が適応を阻んだためと考えられている⁵⁾⁷⁾⁸⁾。

3 深海生物の採集

深海生物の採集は、前述したとおり水温差と水圧差の影響を強く受ける。水中では水深が増すに従って水圧も増していく。水圧は10 mで1気圧かかり、1 cm²に1 kgの力が加わる。水深200 m以深では、1 cm²当たり20 kg以上もの水圧を受ける過酷な環境となる³⁾⁸⁾⁹⁾。

当館における深海生物の採集は、漁業者の協力によるところが大きい。水深300 m以浅に生息している生物は底びき網や刺し網、釣りなどで採集、これまでに29種を飼育・展示している。水

【特集I】4 日本海の生き物と環境 —— 明らかになってきたユニークな生き物たちと環境

深300 m以深では主にかご網で採集、これまでに41種を飼育・展示している(表1)。当館の採集でサラサベッコウタマガイという新種が発見されたこともあり⁴⁾、採集活動が生物学的研究に資することもある[図2(a)]。

深海魚の特徴として、筋肉内の水分量が多く、鰾は退化もしくは脂質で満たされているなど、水圧に適応した体であることがあげられる³⁾。しかし、日本海ではほとんどが二次性深海魚であるため、気体を満たした鰾で浮力調整をおこなっている種が多い。このような種を急激に水面まで引き上げると鰾内の気体の調整が間に合わず、鰾が大きく膨らみ仰向けに浮き上がってしまう[図2(b)]。膨らんだ鰾が腹腔内で他の臓器を圧迫するため胃や腸が口や肛門から飛び出すこともある。この症状は減圧症とよばれ、採集を困難にする原因となっている。飛び出した胃が鰾を圧迫して窒息する場合もあるため、船上で早急に処置をする必要がある。一般的には、体側から注射針を使って鰾内の気体を抜く方法が簡易的におこなわれるが、再発が多く、完全な処置方法とはいい難い。加圧水槽でもう一度圧力を加えると鰾が元の大きさに戻り、生存率が上がることが知られている。ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまでは、船上に持ち込める加圧水槽を開発し、希少な深海魚の展示に成功している[図2(c)]。

4 深海生物の輸送と検疫

採集された生物は、生息水深と同じ水温に設定した水槽に収容して水族館まで輸送するが、深海生物の採集、輸送で特に気を使うのは水温の上昇である。ホッコクアカエビなど、日本海固有水に生息し、鉛直移動の習性を持たない種では、水温が5℃を超えると生存できないなど厳しい条件があり¹⁰⁾、保温性の高い容器を用意する必要がある。

輸送した生物は、重度の擦傷だけでなく、肉眼では確認できない細かい傷を負っていることも

多く[図2(d)]、数日間は感染予防として抗菌剤による薬浴をする¹¹⁾。

5 アカムツの餌付けと常設展示

検疫期間にもう一つおこなわなければならないのが餌付けである。水深300 m以深の深海生物は、食物への遭遇率が低いため²⁾³⁾、貪欲な種が多く、水槽内で餌付きの早い傾向がある。一方、水深300 m以浅の深海生物のうち、特に魚類に関しては餌付きの遅い種が多い。餌付けは、胃内容物を調べて自然下での食物を特定することから始める。当館では、日本海を代表するアカムツを餌付けて飼育することに成功したので、この時の方法を紹介する。

アカムツの胃内容物からは、小型個体ではカイアシ類、オキアミ類、エビジャコ類などの小型甲殻類、大型になるとホッコクアカエビ、ニギス、カタクチイワシなどの大型甲殻類や小型魚類が確認された。魚は視覚・嗅覚・触覚などで摂餌しているとされる¹²⁾。本種は、視覚で餌を認識する行動が飼育下で観察されるため、自然下で認識していた形が適当であると考え、小型甲殻類であるナンキョクオキアミを初期餌料に選んだ。ナンキョクオキアミを釣り糸の先に付け、水流になびかせながら口元に近づけることを繰り返すと、次第に眼で追ったり、吻先を接近させたりする行動が見られるようになる。次に、水流に乗せて口元に落ちるように餌のみを投入する。ナンキョクオキアミの摂餌に成功すれば、次は同じ大きさの短冊状に切った魚肉を混ぜて、同じような方法で与える。このような過程を経て、ようやく餌付けに成功する。しかし、本種の餌付けには1~2ヶ月かかることも珍しくなく、餌付けに成功しても栄養不良に陥っていることが多く、採集個体の長期飼育は難しい。

アカムツは水族館では飼育困難種といわれてきたが、まったく飼育ができないわけではなく、採

日本海固有水の低温環境と深海生物 —— その採集と展示のノウハウ

表1 新潟市水族館で佐渡海峡の水深200m以深から採集し展示した深海生物

底びき網・刺し網・釣り		かご網	
門	種名	門	種名
脊索動物門	クロヌタウナギ	脊索動物門	ヤマトコブシカジカ
	トラザメ		ガンコ
	ホシザメ		アバチャン
	アブラツノザメ		ナガツカ
	ヒメ		ザラビクニン
	マダラ		イサゴビクニン
	キアンコウ		クロゲンゲ
	ハツメ		アゴゲンゲ
	オニオコゼ		タナカゲンゲ
	ホウボウ		ノロゲンゲ
	オオクチシナギ		ツバイ
	アカムツ		エッチュウバイ
アラ	エゾボラモドキ		
ガンコ	アヤボラ		
トクビレ	ケショウツノオリレ		
	ハイロタマガイ		
	ニクイロツムバイ		
	サラサベッコウタマガイ		
	ボウズイカ		
	スミレダコ		
	ヒゲウミシダ		
	ニホンカイヒメウミシダ		
	フサトゲニリンヒトデ		
	アカトゲニリンヒトデ		
	ホソトゲイバラヒトデ		
	アカモミジ		
	スナイトマキ		
	ウスモミジガイ		
	キタクシノハクモヒトデ		
	セトモノイソギンチャク		
	ズワイガニ		
	ベニスワイガニ		
	ケガニ		
	ホッコクアカエビ		
	トヤマエビ		
	モロトゲアカエビ		
	イバラモエビ		
	トゲモエビ		
	クロザコエビ		
	キタザコエビ		
	ミツカドホンヤドカリ		
	刺胞動物門		

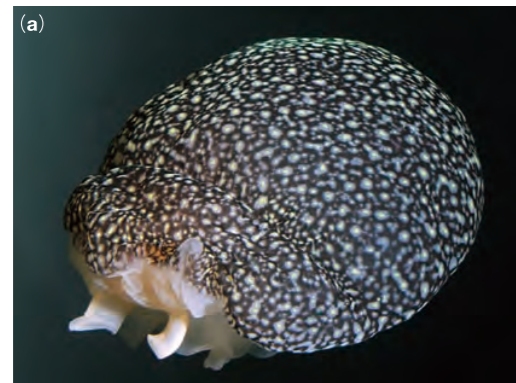


図2 深海生物の採集 (a) サラサベッコウタマガイ, (b) 採集直後の浮き上がったアカムツ, (c) 加圧水槽 (ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしま提供), (d) 水族館に輸送後、数日経過して擦過傷が現れたアカムツ

【特集1】 ④ 日本海の生き物と環境 —— 明らかになってきたユニークな生き物たちと環境

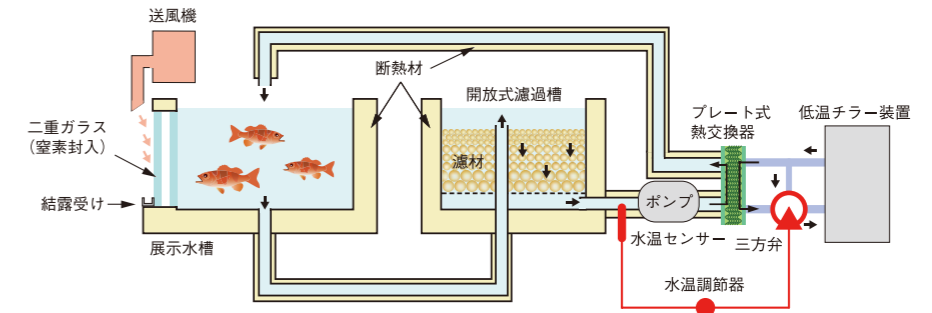


図3 深海水槽の循環と設備

集個体ならではの餌付け成功率の低さが、通年の常設展示を困難にしていた。当館では、アカムツを長期飼育するために2010年から人工授精による育成研究を開始した。2013年に育成技術の開発に成功し¹³⁾¹⁴⁾、現在では、700尾に及ぶ常設展示を実現するに至っている。

6 飼育設備と水温管理

深海生物の展示では、低水温を作るために低温チラー装置を用いている。この装置で作られ出された1°Cの冷却液は、各水槽のプレート式熱交換器に送られ、熱交換によって飼育水が冷却される。低水温の水槽には結露が生じるため、快適に観察できるように、設備に工夫が必要である。薄いアクリルガラスの水槽では窒素封入した二重ガラスを用い、厚いアクリルガラスの場合でも、上部からガラス面に風を当てて結露を防止している (図3)。

深海生物は高い圧力の下で生活しているが、水槽内に圧力をかけてはいない。冬の低水温期や寒流の影響を受ける場所では、深海生物がより浅海に移動、分布している例が知られており²⁾、深海生物は高水圧を好んでいるのではなく、水温が低いところを選んで生活していることがうかがえる。生息域調査をもとに採集時期を選ぶことで、採集時の減圧や水温変化によるダメージを軽減するこ

とも可能で、当館の採集もより浅海に移動する時期を選択して実施している。

海水よりも比重の小さい水分を筋肉内に多量に含んでいたり、鰾に脂質を貯えたりする特異な形態を持つ一次性深海魚の飼育では水圧をかけた方が効果的かもしれないが、日本海で見られる二次性深海魚においては、水圧よりも水温管理を徹底的におこなう事で健全に飼育ができる。深海生物の水槽や配管は分厚い断熱材で覆うことで熱損失の防止が図られている。

7 深海の色と水槽照明

深海生物の生息している水深では、太陽光はほとんど届かず、薄暗い環境であると考えられる。水には光を吸収する特性があり、波長の長い光から吸収が始まる。水深7 mで赤色、水深42 mまでに橙色と黄色が吸収されてしまい、水深155 m以深では青色と藍色しか届かなくなる¹⁵⁾ (図4)。

深海生物の展示では、展示目的により照明が異なる。色の見え方は、その物体が反射する色で決まる。たとえば、赤い生物が赤色に見えるためには、環境光に赤色の波長が含まれることが必須で、その赤色を反射することで赤く見える (図5)。

生物によって認識できる色はさまざまだが、淡水魚では数種で赤・青・緑を認識する視物質を持

日本海固有水の低温環境と深海生物 —— その採集と展示のノウハウ

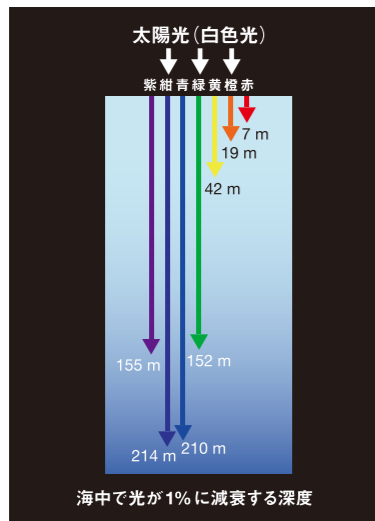


図4 光と水深¹⁵⁾

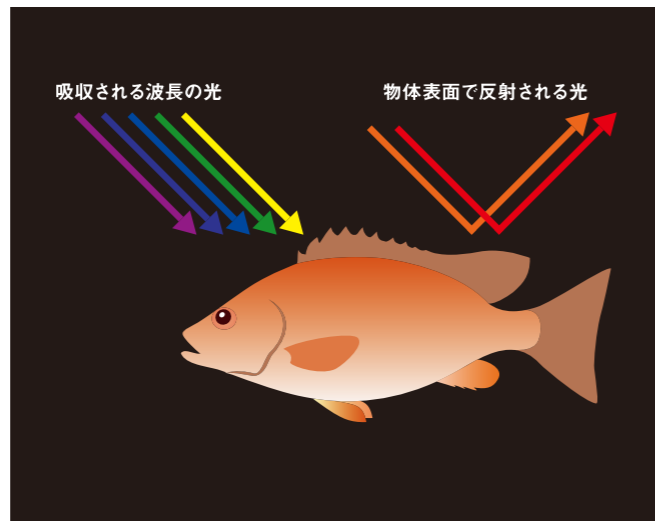


図5 色の見える仕組み

つことが確認されており、色の識別能力を有することが知られている¹⁶⁾¹⁷⁾。海水魚は色覚を有する明確な報告はないが、深海生物に多い赤色の生物は、青色や藍色の光が当たるとくすんだ灰色に見えることから、海中では保護色になっているという考えもある²⁾³⁾。展示の際、生息環境や深海での生物の見え方の紹介であれば低照度の青色光照明により海底環境が再現できる。一方で、形態的特徴である赤色の体色を紹介するのであれば、赤い波長を含んだ照明が必要となる。当館では、深海生物に赤い体色の生物が多く生息する不思議さに興味を抱いていただきたいという思いから、青色光しか届かない水深帯の種でも、照度を抑えた白色光を照明に使用した展示をしている。

8 照明の影響

深海生物は光に対してストレスを感じやすいといわれている。ストレスを与えずに飼育するには照明を使用しないのが最善であるが、観察ができないため、展示水槽には照明が必要となる。深海では赤色の波長が届かないため、そこに生息する

生物は赤色を認識できないとの推測から、ストレスの軽減を期待して深海生物の飼育に赤色光を用いることがある。一方、当館の深海生物では、白色光を使用した水槽での産卵行動が数種で観察され、白色光でも良好な飼育環境が作れることを実証している。深海生物に適した照明に関する明確な報告はなく、何色が適しているかはまだ解明されていない。

照明の色よりも明暗の変化や強い光がストレスになって死亡率が高まる深海種は多く、当館の飼育種ではアカムツが代表例である。本種は暗期に活動的で、照度の急激な変化に敏感に反応してパニックを起し、水槽壁に衝突する行動が現れる。当館では夜間も低照度の照明を点灯することで死亡率を下げることに成功している。当館の飼育水槽では常夜灯を設置し、白色光による24時間照明で飼育をおこなっている。しかし、魚類は光周期の影響を受けやすいことから、24時間照明が成長や性成熟に影響を及ぼすことも考えられる。生残率を取るか、性成熟による繁殖行動や成熟課程の解明を取るか……。常設展示の必要性や生物の生態解明、自然繁殖技術の確立など、水族館の担う役割は多岐にわたるが、どれを優先すべきか

[特集I] ④ 日本海の生き物と環境 —— 明らかになってきたユニークな生き物たちと環境

の判断は難しい。

深海魚には、大きな眼を持ち、タペータム層という器官でかすかな光を増幅させる機能を有する種も多いことから⁹⁾¹⁶⁾、深海生物の飼育では、光の色よりも照度に注意する必要があるといえる。

9 生態解明と育成技術の開発に向けて

近年、水族館では、水生生物の自然界からの加入量の軽減が課題となり、展示生物を繁殖個体によって補っていく努力が必要とされている。当館も加盟している公益財団法人日本動物園水族館協会では、水槽内繁殖から育成まで成功した種に対し、「繁殖賞」を授与している。しかし、海水魚に関する受賞は2016年までで213種と少ない。現在確認されている世界の海水魚が約16,000種¹⁸⁾であるので1.3%程度しか繁殖に成功していない。深海魚に至ってはわずか21種である。海洋生物の繁殖育成は困難であり、理想どおりに進んでいないのが現状である。

生物の繁殖には、温度や日照が大きくかわってくる。水槽内で自然繁殖を目指す場合、種の生息環境を再現する必要があるが、季節変化のある海域に分布する種ほど成熟させるための要因解明が難しく、飼育下では繁殖行動が現れにくい傾向にある。さらに、水温変動が少なく、日照変化の乏しい深海に生息する種では、繁殖期をどのように察知しているのかが解明されていないことが多い。当館で飼育下繁殖を目指しているアカムツは、新潟県沿岸では9月に産卵期を迎え、水深100 m前後の浅海に移動する習性がある¹⁴⁾¹⁹⁾。これまで、この移動は季節移動であると考えられてきた。しかし、日中におこなった水中カメラロボットによる海底調査では、産卵水深とされる海域で確認できず、日移動である可能性も示唆され始めている。アカムツの水槽内繁殖を実現させるために、今後これら解明を進めていく努力が必要である。

[文献]

- 鈴木克美, 西源二郎. 水族館学—水族館の望ましい発展のために (東海大学出版会, 2005).
- 尼岡邦夫. 深海魚—暗黒街のモンスターたち (ブクマン社, 2009).
- 長沼 毅. 深海生物学への招待 (日本放送出版協会, 1996).
- Okutani, T. & Numanami, H. *VENUS* 53, 3, 211-215 (1993).
- 西村三郎. 日本海の成立—生物地理学からのアプローチ[改訂版](築地書館, 1990).
- 河野光久, 三宅博哉, 星野昇, 伊藤欣吾, 山中智之 ほか. 山口県水産研究センター研究報告 11, 1-30 (2014).
- 沖山宗雄. 対馬暖流—海洋構造と漁業 (日本水産学会編 編) 43-55 (恒星社厚生閣, 1974).
- 蒲生俊敏. 日本海 その深層で起こっていること (講談社, 2016).
- 田村保, 丹羽宏. *化学と生物* 24, 5, 326-333 (1986).
- 新潟県水産海洋研究所. 平成18年度新潟県農林水産業研究成果集 (2006).
- 塚田脩. 新・飼育ハンドブック 水族館編 第1集 繁殖・餌料・病気 (財団法人日本動物園水族館協会教育指導部編 編) 104-106 (1995).
- 岩井保. 魚学入門 (恒星社厚生閣, 2005).
- 八木佑太, 新田誠, 飯田直樹, 竹内宏行, 山田達哉 ほか. *魚類学雑誌* 163-168 (2015).
- 山田達哉, 八木佑太, 飯田直樹, 新田誠. *海洋と生物* 37, 1, 12-18 (2015).
- 福江純, 栗野諭美, 田島由起子. カラー図解でわかる光と色のしくみ—なぜ空は青く虹は七色なのか? どうして花は彩り生物は光るのか? (ソフトバンク クリエイティブ, 2008).
- 植松一真, 神原淳. *魚類生理学の基礎* (恒星社厚生閣, 2002).
- 吉田将之, 森吉健太, 黒田昭仁, 藤本隆俊, 国吉久人 ほか. *魚類学雑誌* 52, 2, 141-145 (2005).
- Eschmeyer, W. N., Fricke, R., Fong, J. D. & Polack, D. A. *ZOOTAXA* 2525, 19-50, (2010).
- 大西健美. 新潟県水産海洋研究所研究報告 2, 15-20 (2009).



新田 誠 Makoto Nitta

公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 新潟市水族館 マリンピア日本海 展示課展示第1係 主査
1996年, 東海大学海洋学部水産学科水産資源開発課程卒業。1996年, 東海大学海洋研究所 研究生。
1997年, 日本エヌ・ユー・エス株式会社 新潟事業所勤務。2001年より, 新潟市水族館 マリンピア日本海 展示課勤務。専門分野は, 水産増殖学, アカムツの人工授精・育成技術の開発。

資料編

1. 施設の概要

① 名称	新潟市水族館	⑧ 延床面積	11,601.08 m ²
② 設置者	新潟市(所管:文化スポーツ部文化政策課)	⑨ 構造	鉄筋コンクリート造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
③ 所在地	新潟市中央区西船見町5932-445	⑩ 階数	地上2階・地下1階
④ 開館	1990年(平成2年)7月27日	⑪ 総水量	3,000m ³
⑤ リニューアル	2013年(平成25年)7月15日リニューアルオープン	⑫ 最大水槽水量	日本海大水槽 800m ³
⑥ 敷地面積	42,164.87m ²	⑬ 海水取水方法	サイフォン式
⑦ 建物面積	7,589.59m ²	⑭ 展示生物	約600種 30,000個体

2. 新潟市水族館条例

○新潟市水族館条例

平成2年3月30日条例第3号

改正

平成17年 7 月 1 日条例第38号
平成18年12月21日条例第71号
平成20年 3 月19日条例第17号
平成21年 3 月24日条例第11号

新潟市水族館条例

(設置)

第1条 魚類、海獣その他の水生動物(以下「魚類等」という。)に関する知識を広め、魚類等への親しみを深めることにより、市民の教養と健全な余暇の活用に資するため、新潟市水族館(以下「水族館」という。)を新潟市中央区西船見町5932番地445に設置する。

(休館日)

第1条の2 水族館の休館日は、12月29日から翌年1月3日までとする。ただし、市長が特に必要があると認める場合は、臨時にこれを変更することができる。

(開館時間)

第1条の3 水族館の開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、市長が特に必要があると認める場合は、臨時にこれを変更することができる。

(事業)

第2条 水族館は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 魚類等を収集し、飼育し、及び展示すること。
- (2) 魚類等に関する資料を収集し、保管し、及び展示すること。
- (3) 魚類等に関する知識を普及させること。
- (4) 魚類等に関する調査研究をすること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、水族館の目的を達成するために必要な事業

(入館料)

第3条 魚類等を観覧しようとするものから、別表に掲げる入館料を徴収する。この場合において、市長は、回数券及び年間入館券を発行することができる。

2 前項に規定する入館料は、観覧するときに徴収する。ただし、回数券又は年間入館券による場合にあっては、これらを行行するときに徴収する。

3 前項の規定にかかわらず、市長は、特別の理由があると認める場合は、別に第1項に規定する入館料の納付期日を定めることができる。

(入館料の免除)

第4条 市長は、規則で定める特別の理由があると認める場合は、その入館料の全部又は一部を免除することができる。

3. 入館料

(入館料の不還付)

第5条 既納の入館料は、還付しない。ただし、市長は、特別の理由があると認める場合は、その入館料の全部又は一部を還付することができる。

(入館の制限)

第6条 市長は、次のいずれかに該当する場合は、水族館に入館しようとするものに対し、入館を拒むことができる。

- (1) 水族館の利用の目的又は内容が、公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあると認められる場合
- (2) 水族館の施設又は設備を損傷するおそれがあると認められる場合
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が水族館の管理上支障があると認める場合

(行為の制限)

第7条 水族館に入館したもの(以下「入館者」という。)は、次に掲げる行為をしてはならない。ただし、市長の許可を受けた場合は、この限りでない。

- (1) 他のものに迷惑を与える行為をすること。
- (2) 施設又は設備を損傷する行為をすること。
- (3) 動物を伴うこと。
- (4) 業として行う写真、映画等の撮影その他これらに類する行為をすること。
- (5) 飲食物その他の物品を販売し、又は陳列すること。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が水族館の管理上支障があると認める行為をすること。

(許可の条件)

第8条 市長は、前条ただし書の規定による許可(以下「許可」という。)に、水族館の管理のため必要な範囲において条件を付けることができる。

(許可の取消し等)

第9条 市長は、次のいずれかに該当するものに対し、許可を取り消し、若しくはその条件を変更し、又は行為の中止、原状回復若しくは水族館からの退去を命じることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反しているもの
- (2) 許可に付けた条件に違反しているもの
- (3) 偽りその他不正な手段により水族館に入館したもの

2 市長は、水族館の管理上又は公益上の理由により特に必要があると認める場合は、入館者に対し前項に規定する処分をすることができる。

(指定管理者による管理)

第10条 市長は、水族館の設置の目的を効果的に達成するため、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって、市が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に水族館の管理を行わせる。

(指定管理者の指定の手続)

第11条 水族館の指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添えて市長に申請しなければならない。

2 市長は、前項の規定により申請をしたもののうち、提出された事業計画書等により、次に掲げる基準に最も適合していると認めるものを、水族館の指定管理者として指定するものとする。

- (1) 水族館の平等利用が確保されること。
- (2) 水族館の効用を最大限に発揮するとともに管理経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を安定して行う能力を有していること。
- (4) 第2条に規定する事業を効果的に企画運営する能力を有すること。

3 市長は、前2項の規定にかかわらず、前項の基準に適合するものとして市長があらかじめ選考した一の団体(以下「被選考者」という。)から提出させた事業計画書その他規則で定める書類を審査し、被選考者が水族館の設置の目的を効果的に達成できると認めるときは、被選考者を指定管理者として指定することができる。

(指定管理者の業務の範囲)

第12条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 水族館の利用の許可に関する業務
- (2) 入館料の納付期日の決定及び免除に関する業務
- (3) 第9条の規定による退去等の命令に関する業務
- (4) 水族館の施設及び設備の維持管理に関する業務
- (5) 第2条に規定する事業の実施に関する業務
- (6) その他水族館の管理上、市長が必要と認める業務

(秘密を守る義務)

第13条 指定管理者の役員及び職員は、業務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(個人情報の取扱い)

第14条 指定管理者は、個人に関する情報(以下「個人情報」という。)の漏えいの防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 指定管理者の役員及び職員は、業務上知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用してはならない。その職を退いた後も同様とする。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して4月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。

(平成2年新潟市規則第30号で平成2年7月27日から施行)

附 則(平成17年条例第38号)

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 指定管理者の指定及びこれに関し必要なその他の行為は、この条例の施行前においても、行うことができる。

附 則(平成18年条例第71号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年条例第17号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年条例第11号)

この条例は、平成21年4月1日から施行する。

別表(第3条関係)

■入館料表

区分	入館料の額			
	個人 (1人1回につき)	団体(30人以上) (1人1回につき)	回数券 (6枚つづり)	年間入館券 (1人1年間につき)
一般	1,500円	1,200円	7,500円	3,500円
小学生・中学生	600円	480円	3,000円	1,300円
幼児	200円	160円	1,000円	400円

備考

- 1 上表の規定にかかわらず、市長が特に必要があると認める場合の入館料の額は、上表に規定する入館料の額の範囲内で市長が別に定める額とする。
- 2 上表の「幼児」とは、4歳以上6歳までの未就学の者をいい、「小学生・中学生」とは、学校教育法(昭和22年法律第26号)に定める小学校、中学校及びこれらに準ずる学校の児童及び生徒をいう。
- 3 上表の「一般」とは、備考2以外の者で15歳以上のものをいう。

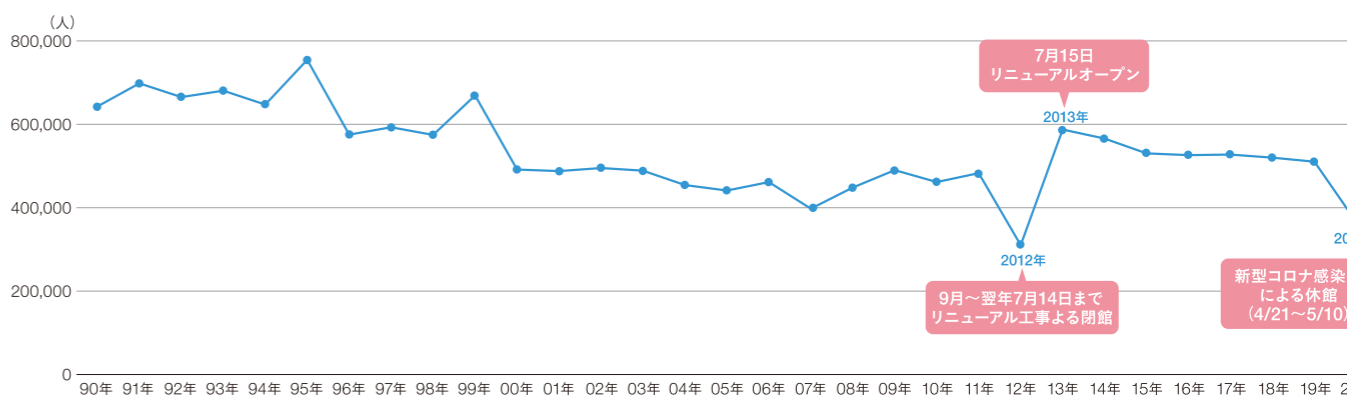
3. 入館者数の推移

■マリニピア日本海 入館者数(集計年度は4月から翌年3月末)

年度	H2年度	H3年度	H4年度	H5年度	H6年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年
年計	641,443	696,796	663,949	679,263	645,997	753,042	574,119	591,712	573,400	667,844
累計	641,443	1,338,239	2,002,188	2,681,451	3,327,448	4,080,490	4,654,609	5,246,321	5,819,721	6,487,565

年度	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度
	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
年計	490,529	486,816	494,161	487,823	453,419	440,286	460,529	396,908	447,512	489,113
累計	6,978,094	7,464,910	7,959,071	8,446,894	8,900,313	9,340,599	9,801,128	10,198,036	10,645,548	11,134,661

年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
年計	460,630	481,908	309,716	586,288	564,629	529,218	525,008	526,371	518,980	509,286	364,392
累計	11,595,291	12,077,199	12,386,915	12,973,203	13,537,832	14,067,050	14,592,058	15,118,429	15,637,409	16,146,695	16,511,087

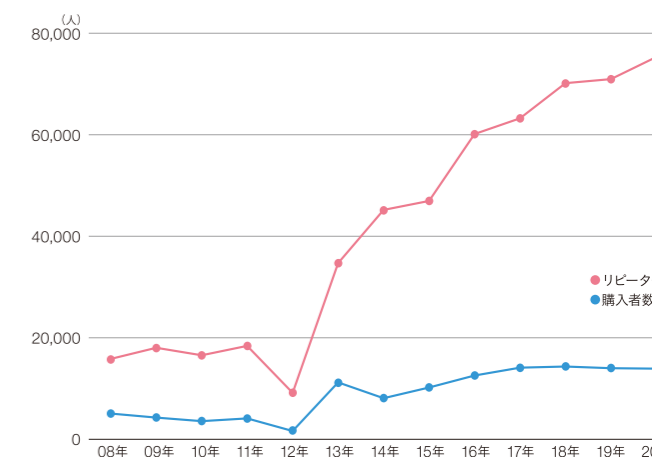


■年間パスポート購入者数/リピーター数(集計年度は4月から翌年3月末)

年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
購入者	4,934	4,136	3,431	3,973	1,482
リピーター数	15,743	17,943	16,462	18,319	9,026

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
購入者	11,097	7,969	10,087	12,456	14,011
リピーター数	34,692	45,217	46,986	60,220	63,328

年度	H30年度	R1年度	R2年度	累計
	2018年	2019年	2020年	
購入者	14,235	13,904	13,816	115,531
リピーター数	70,285	71,084	75,465	544,770



4. 展示水槽と主な飼育生物 (2020年7月時点: 現在とは異なる場合があります)

ゾーン名称	水槽名称	飼育水		水槽			ろ過槽		主な飼育生物
		海水	淡水	面積(m ²)	水深(m)	容量(m ³)	ろ過方式	台数(台)	
①潮風の風景	サンゴ	○		4.00	0.5	2.0	重力式	1	ウスコモンサンゴ・フトゲサンゴ・キイロハギ など約35種
	アマモ場	○		2.00	0.9	1.8	重力式	1	アマモ・タツノオトシゴ・チャガラ など約15種
	砂泥底	○		2.00	0.9	1.8	重力式	1	アカムツ(幼魚)・エンコウガニ など約10種
	マングローブ	○		3.00	0.5	1.5	重力式	1	ヤエヤマヒルギ・ヒメツバメウオ など約8種
	干潟	○		3.00	0.5	1.5	重力式	1	トビハゼ・ヒメハゼ など約7種
	磯	○		3.00	0.5	1.5	重力式	1	イソギンポ・ホンヤドカリ・ムツサンゴ など約35種
	岩礁	○		2.00	0.9	1.8	重力式	1	マツカサウオ・オオエダキサング・フトヤギ など約15種
②日本海	日本海大水槽	○		162.43	4.5	731.0	圧力式	10	磯:コブダイ・メジナ など約13種 深場:ホシエイ・クエ・スマ など約30種
	新潟の浅瀬	○		0.70	1.0	0.7	重力式	1	ミズダコ
	新潟の浅瀬	○		0.70	1.0	0.7	重力式	1	アカクラゲ
	新潟の浅瀬	○		0.70	1.0	0.7	重力式	1	ミズクラゲ
	新潟の浅瀬	○		0.70	1.0	0.7	重力式	1	アミメハギ・ケスジヤドカリ など約15種
	佐渡の深海	○		0.67	1.0	0.7	重力式	1	ナガツカ・コイボイソギンチャク など約10種
	佐渡の深海	○		0.67	1.0	0.7	重力式	1	コンベイトウ・サラサベッコウタマガイ など約10種
	佐渡の深海	○		0.67	1.0	0.7	重力式	1	ホッコクアカエビ・ヒゲウミシダ など約7種
③暖流の旅	南西諸島の海	○		5.44	1.5	8.2	重力式	1	カクレクマノミ・チンアナゴ など約30種
	ドロップオフ	○		17.91	1.7	30.5	重力式	3	キンギョハナダイ・トビエイ など約20種
	サンゴ礁	○		23.00	1.7	39.1	重力式	3	アケボノチョウウオ・ヒフキアイゴ など約45種
	海底洞窟	○		6.40	1.5	9.6	重力式	1	アカマツカサ・ドクウツボ・コブセミエビ など約15種
	新潟の砂泥・岩礁	○		6.40	1.5	9.6	重力式	1	クロダイ・ホウボウ・サザエ など約30種
	トカラ列島・東シナ海北部	○		4.23	1.5	6.4	圧力式	1	サラサハタ・アカオビハナダイ など約15種
	日本海西部	○		1.78	1.5	2.7	重力式	1	ハナミノカサゴ・ハリセンボン など約5種
	能登半島	○		2.01	1.5	3.1	圧力式	1	イシダイ・ウスメバル など約5種
	太平洋沿岸	○		2.01	1.5	3.1	圧力式	1	ウツボ・ニザダイ など約10種
	太平洋沿岸	○		1.78	1.5	2.7	重力式	1	ギンユゴイ・ヒゲダイ など約10種
	太平洋 水深100~200m	○		1.78	1.5	2.7	圧力式	1	アラ・キンメダイ など約5種
	太平洋 水深100m	○		2.21	1.5	3.4	重力式	1	シキシマハナダイ・サクラダイ など約5種
	日本海 水深300m以深	○		2.45	1.5	3.7	重力式	1	イサゴビクニン・ベニズワイガニ など5種
	日本海 水深300~400m	○		2.03	1.7	3.5	重力式	1	スケトウダラ・フサトゲニチリンヒトデ など約10種
	新潟沿岸 水深100~200m	○		9.47	1.7	16.1	重力式	1	アカムツ・アズマハナダイ など約7種
	新潟沿岸	○		4.72	1.7	8.1	圧力式	1	アカムツ(その後、アラ・キダイ等に変更)
	ユーラシア大陸東部淡水域	○		11.72	1.8	21.1	圧力式	1	チョウザメ など約5種
	北大西洋 カリブ海	○		29.03	1.9	55.2	重力式	4	ターボン・レッドドラム など約10種
	円柱①	○							ミズクラゲ
	円柱②	○							タコクラゲ
円柱③	○							アカクラゲ	

	水槽名称	飼育水		水槽			ろ過槽		主な飼育生物
		海水	淡水	面積(m ²)	水深(m)	容量(m ³)	ろ過方式	台数(台)	
④信濃川	河口・沿岸	○		13.62	0.9	12.8	圧力式	1	シロギス・クサフグ など約15種
	下流域	○		6.02	0.8	4.8			コイ・ナマズ など約8種
	下流域	○		6.09	0.9	5.7	重力式	1	キタノメダカ・トウヨシノボリ など約5種
	田んぼ・用水路	○		6.09	0.8	5.0			ヤリタナゴ・ニホンイシガメ など約5種
	中流域	○		7.73	0.8	5.9			オイカワ・ニホンウナギ など約5種
	中上流域	○		7.72	0.9	6.6	重力式	1	ウキゴリ・ウグイ など約2種
	中上流域 山間のため池	○		6.08	0.9	5.5			シナイモツゴ・キタノアカヒレタビラ など約4種
	中上流域	○		6.09	0.8	5.0	重力式	1	ウケクテウグイ
	上流域	○		6.09	0.9	5.4	重力式	1	サクラマス(ヤマメ)など
上流域 滝壺	○		11.88	1.0	11.4	重力式	1	アメマス(エゾイワナ)・ニッコウイワナ	
⑤体験・学習	磯の体験水槽	○		12.00	0.3	3.6	圧力式	1	トゲツノヤドカリ・イトマキヒトデ など約10種
⑥水辺の小動物	アメリカビーバー	○		—	1.0	22.5	圧力式	1	アメリカビーバー
	ユーラシアカワウソ	○		—	1.0	17.0	圧力式	1	ユーラシアカワウソ
	バイカルアザラシ	○		—	1.5	50.0	重力式	2	バイカルアザラシ
	ラッコ	○		—	3.0	80.0	重力式	5	2020年3月ラッコ死亡、2021年4月〜ウミガラス展示
⑦ドルフィンスタジアム	イルカショープール	○		—	4.0	800.0			ハンドウイルカ・カマイルカ
	ウェイトングプール	○		—	3.0	125.0	圧力式	6	
	ホスピタルプール	○		—	2.0	25.0			
	イルカ屋内プール	○		—	3.0	300.0			
⑧マリンサファリ	トド・アザラシ	○		—	2.0	300.0	圧力式	2	トド・ゴマフアザラシ・カリフォルニアアシカ
⑨ペンギン海岸	ペンギン	○		—	1.0	55.0	圧力式	1	フンボルトペンギン・イワトビペンギン
⑩にいがたフィールド	砂丘湖	○		—	1.0	78.0			アサザ・ハス・ギンブナ など
	わき水	○		—	0.3	0.54			トミヨ属淡水型・ホトケドジョウ など
	小川	○		—	0.3	6.0			トチカガミ・ヤリタナゴ など
	田んぼ	○		—	0.15	11.0			キタノメダカ など
	ため池	○		—	0.8	22.0			シナイモツゴ・フトヒルムシロ・ヒシ など
	ニシキゴイ池	○		22.5	0.8	18.0			ニシキゴイ

5. 飼育動物リスト(2020年7月31日時点データ)

哺乳類			
	科名	和名	個体数
1	ビーバー科	アメリカビーバー	2
2	マイルカ科	ハンドウイルカ	3
3		カマイルカ	5
4	イタチ科	ユーラシアカウソン	2
5		コツメカウソン	2
6	アシカ科	カリフォルニアアシカ	1
7		トド	2
8	アザラシ科	ゴマフアザラシ	8
9		バイカルアザラシ	2
合計……			27

鳥類			
	科名	和名	個体数
1	ペンギン科	イワトビペンギン	1
2		フンボルトペンギン	85
合計……			86

爬虫類			
	科名	和名	個体数
1	ヌマガメ科	クサガメ	17
2		ニホンイシガメ	3
3		ミシシッピアカミミガメ	5
4	スッポン科	ニホンスッポン	2
合計……			27

両生類			
	科名	和名	個体数
1	サンショウウオ科	ヒダサンショウウオ	3
2		クロサンショウウオ	6
3		トウホクサンショウウオ	6
4		ハコネサンショウウオ	2
5		ハクバサンショウウオ	43
6	イモリ科	アカハライモリ	27
7	アカガエル科	サドガエル	1
8	アオガエル科	モリアオガエル	8
9	アマガエル科	ニホンアマガエル	3
合計……			99

魚類			
	科名	和名	個体数
1	ネコザメ科	ネコザメ	4
2	トラザメ科	トラザメ	13
3	トラフザメ目	トラフザメ	1
4	ドチザメ科	ホシザメ	1
5		ドチザメ	2
6	メジロザメ科	クロヘリメジロザメ	1
7	サカタザメ科	コモンサカタザメ	1
8	アカエイ科	ホシエイ	4
9	トビエイ科	トビエイ	5
10		マダラトビエイ	1
11	チョウザメ科	ベステル	5
12	ナミノハナ科	ナミノハナ	3
13		シベリアチョウザメ	5
14	ニシン科	マイワシ	2,155
15		サッパ	1
16		コノシロ	6
17	カタクチイワシ科	カタクチイワシ	1
18	カライワシ科	ターボン	5
19	ウナギ科	ニホンウナギ	11
20	ウツボ科	ウツボ	1
21		ドクウツボ	2
22		ニセゴイシウツボ	4
23		トラウツボ	1
24		ハワイウツボ	3
25		ミナミミソレウツボ	1
26		アミキカイウツボ	2
27	ウミヘビ科	ダイナンウミヘビ	3
28		ホタテウミヘビ	4
29	アナゴ科	チンアナゴ	41
30		ニシキアナゴ	15
31	アユ科	アユ	84
32	サケ科	ニッコウイワナ	34
33		アメマス(エゾイワナ)	4
34		サクラマス(ヤマメ)	55
35		イトウ	4
36		サケ	1,591
37		ベリヤジ	9
38	コイ科	ヤリタナゴ	94
39		キタノアカヒレタビラ	147
40		タイリクバラタナゴ	124

魚類							
	科名	和名	個体数	科名	和名	個体数	
41	コイ科	カネヒラ	10	81	イットウダイ科	ニジエビス	3
42		ツチフキ	1	82		アヤメエビス	1
43		ニゴイ	3	83		クラカケエビス	3
44		タモロコ	314	84		イットウダイ	1
45		モツゴ	138	85		メナダ	19
46		シナイモツゴ	1,972	86		オニボラ	3
47		ウケクチウグイ	5	87	フサカサゴ科	エゾメバル	1
48		ウグイ	120	88		アカメバル	86
49		アブラハヤ	59	89		シロメバル	170
50		オイカワ	51	90		ウスメバル	64
51		ギンブナ	105	91		トゴツメバル	12
52		ゲンゴロウブナ	5	92		ハツメ	4
53		コイ	9	93		クロソイ	19
54		[ニシキゴイ]	47	94		タケノコメバル	8
55	ドジョウ科	ドジョウ	190	95		タヌキメバル	4
56		ヒガシシマドジョウ	7	96		ムラソイ	4
57		ホトケドジョウ	1,200	97		カサゴ	14
58	ギギ科	ギギ	7	98		ユメカサゴ	11
59	ナマズ科	ナマズ	2	99		ミノカサゴ	3
60	ゴンズイ科	ゴンズイ	30	100		ハナミノカサゴ	2
61	ヒメ科	ヒメ	46	101	オニオコゼ科	オニオコゼ	6
62	サヨリ科	サヨリ	7	102		ヒメオコゼ	1
63	メダカ科	キタノメダカ	8,002	103	ハオコゼ科	ハオコゼ	92
64	トゲウオ科	ニホンイトヨ	79	104	アイナメ科	クジメ	2
65		トミヨ属淡水型	300	105		アイナメ	2
66	サギフエ科	サギフエ	9	106		ホッケ	5
67	ヘコアユ科	ヘコアユ	29	107	カジカ科	ケムシカジカ	2
68	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	13	108		ツマグロカジカ	2
69		オクヨウジ	11	109		ニジカジカ	6
70		オイランヨウジ	3	110		カマキリ	1
71		クロウミウマ	46	111		キヌカジカ	2
72		タツノオトシゴ	37	112		アナハゼ	2
73	タラ科	マダラ	10	113		カジカsp.	3
74		スケトウダラ	10	114	ウラナイカジカ科	ガンコ	8
75	キンメダイ科	キンメダイ	4	115		ヤマトコブシカジカ	2
76	ヒウチダイ科	ハシキンメ	1	116	トクビレ科	シロウ	14
77	マツカサウオ科	マツカサウオ	9	117		トクビレ	9
78	イットウダイ科	アカマツカサ	2	118		テングトクビレ	14
79		エビスダイ	3	119		ヤセテングトクビレ	1
80		ヤセエビス	1	120	ホウボウ科	ホウボウ	10

魚類							
科名	和名	個体数	科名	和名	個体数		
121	ホウボウ科	カナガシラ	1	161	テンジクダイ科	キンセンイシモチ	1
122	クサウオ科	イサゴビクニン	8	162		ヤライイシモチ	10
123		ザラビクニン	55	163		マンジュウイシモチ	24
124		スナビクニン	1	164		ブレラボゴン・カウデルニー	76
125		トゲビクニン	144	165	ヒメツバメウオ科	ヒメツバメウオ	7
126		アバチャン	18	166	テッポウウオ科	セブンスポットアーチャー	7
127	ダンゴウオ科	コンベイトウ	11	167	キス科	シロギス	4
128	アカメ科	スヌーク	2	168	アマダイ科	アカアマダイ	8
129	スズキ科	スズキ	2	169	アジ科	ブリ	13
130		オオクチイシナギ	4	170		カスマアジ	2
131	ウバウオ科	ウバウオ	1	171		ギンガメアジ	8
132	スギ科	スギ	1	172		マアジ	48
133	ユゴイ科	ギンユゴイ	8	173		カイワリ	12
134	ホタルジャコ科	アカムツ	2,911	174	ヒイラギ科	ヒイラギ	6
135	ハタ科	アオハタ	3	175	ニベ科	レッドドラム	2
136		キジハタ	5	176	ヒメジ科	ヒメジ	2
137		クエ	12	177		ホウライヒメジ	3
138		アラ	4	178		オジサン	2
139		ナミハタ	1	179	ハタンボ科	キンメモドキ	1
140		マハタ	2	180	メジナ科	メジナ	33
141		アカハタ	2	181	フエダイ科	ヨスジフエダイ	4
142		オオモンハタ	3	182		ベンガルフエダイ	1
143		サラサハタ	1	183		フエダイ	1
144		キンギョハナダイ	41	184		バラフエダイ	1
145		カシワハナダイ	1	185		ヨコスジフエダイ	1
146		アカネハナゴイ	5	186		イトフエフキ	1
147		スミレナガハナダイ	13	187	タカサゴ科	クマササハナムロ	10
148		アズマハナダイ	3	188		タカサゴ	52
149		アカイサキ	7	189		ササムロ	4
150		サクラダイ	3	190		ウメイロモドキ	16
151	シキシマハナダイ科	シキシマハナダイ	4	191		ニセタカサゴ	4
152	サンフィッシュ科	オオクチバス	2	192	タカベ科	タカベ	1
153		コクチバス	3	193	イサキ科	イサキ	24
154		ブルーギル	7	194		コショウダイ	5
155	キントキダイ科	ホウセキキントキ	5	195		ヒゲダイ	3
156		チカメキントキ	1	196		ヒゲソリダイ	13
157	テンジクダイ科	イトヒキテンジクダイ	30	197		コロダイ	1
158		ネオンテンジクダイ	45	198		ポークフィッシュ	3
159		ネンブツダイ	8	199	シマイサキ科	コトヒキ	3
160		クロホシイシモチ	87	200	イトヨリダイ科	フタスジタマガシラ	7

魚類							
科名	和名	個体数	科名	和名	個体数		
201	イトヨリダイ科	タマガシラ	1	241	スズメダイ科	ハマクマノミ	8
202	タイ科	チダイ	2	242		セジロクマノミ	10
203		マダイ	12	243		カクレクマノミ	7
204		クロダイ	11	244		クラウンアナネモフィッシュ	2
205		ヘダイ	2	245		スパインチークアナネモフィッシュ	1
206		キダイ	50	246		アマミスズメダイ	11
207	カゴカキダイ科	カゴカキダイ	36	247		ミスジリュウキュウスズメダイ	6
208	チョウチョウウオ科	フエヤッコダイ	2	248		ヨスジリュウキュウスズメダイ	4
209		カスミチョウチョウウオ	12	249		スズメダイ	567
210		ウミツキチョウチョウウオ	1	250		マルスズメダイ	2
211		トゲチョウチョウウオ	7	251		リボンスズメダイ	9
212		フウライチョウチョウウオ	3	252		デバスズメダイ	48
213		ニセフウライチョウチョウウオ	1	253		ソラスズメダイ	50
214		チョウハン	7	254		ナガサキスズメダイ	2
215		シラコダイ	6	255		オヤビッチャ	13
216		チョウチョウウオ	13	256		ロクセンスズメダイ	14
217		アケボノチョウチョウウオ	12	257		ルリスズメダイ	63
218		ミゾレチョウチョウウオ	1	258		シリキルリスズメダイ	31
219		スタレチョウチョウウオ	1	259		ナミスズメダイ	3
220		セグロチョウチョウウオ	4	260		ヤマブキスズメダイ	2
221		ゲンロクダイ	4	261		シコクスズメダイ	10
222		スミツキトノサマダイ	1	262	メギス科	クレナイニセスズメ	1
223		ハタタテダイ	11	263	ゴンベ科	クダゴンベ	2
224		オニハタタテダイ	2	264		ベニゴンベ	1
225		ムレハタタテダイ	46	265	タカノハダイ科	タカノハダイ	7
226		リーパタフライフィッシュ	7	266	ベラ科	コブダイ	12
227	キンチャクダイ科	タテジマキンチャクダイ	2	267		イラ	1
228		キンチャクダイ	1	268		ヤマブキベラ	4
229		サザナミヤッコ	5	269		カミナリベラ	1
230		タテジマヤッコ	2	270		ホシササノハベラ	20
231		アデヤッコ	1	271		ヤシャベラ	2
232		イナズマヤッコ	2	272		ホンソメワケベラ	5
233		スミレヤッコ	1	273		ホンベラ	88
234		チャイロヤッコ	1	274		キュウセン	58
235		ブルーエンゼルフィッシュ	1	275		ギチベラ	1
236		クイーンエンゼルフィッシュ	1	276		メガネモチノウオ	1
237		アラビアンエンゼルフィッシュ	1	277		ニセモチノウオ	1
238	イシダイ科	イシダイ	27	278		キツネダイ	1
239		イシガキダイ	1	279		キューバンホグフィッシュ	1
240	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	40	280	ブダイ科	ヒブダイ	7

魚類							
科名	和名	個体数	科名	和名	個体数		
281	タウエガジ科	フサギンボ	2	321	ハゼ科	トビハゼ	18
282		ダイナンギンボ	3	322		ミナミトビハゼ	3
283	ニシキギンボ科	ギンボ	4	323		ツムギハゼ	13
284	オオカミウオ科	オオカミウオ	1	324		アゴハゼ	3
285	ゲンゲ科	ナガツカ	21	325	クロユリハゼ科	ハタタテハゼ	16
286		カズナギ	25	326		クロユリハゼ	1
287		タナカゲンゲ	19	327	クロホシマンジュウダイ科	クロホシマンジュウダイ	1
288		クロゲンゲ	19	328	アイゴ科	アイゴ	3
289		ノロゲンゲ	4	329		ヒフキアイゴ	4
290		アゴゲンゲ	1	330		ヒメアイゴ	6
291		マツバラゲンゲ	3	331	ツノダシ科	ツノダシ	12
292	ヘビギンボ科	ヘビギンボ	42	332	ニザダイ科	テングハギモドキ	2
293	コケギンボ科	コケギンボ	11	333		ミヤコテングハギ	3
294	イソギンボ科	イソギンボ	12	334		シマハギ	5
295		ナベカ	47	335		サザナミトサカハギ	3
296		ニジギンボ	26	336		ニザダイ	5
297		ヤエヤマギンボ	16	337		キイロハギ	2
298		ホシギンボ	1	338		ナンヨウハギ	7
299	ネズッポ科	ネズミゴチ	2	339		ヒレナガハギ	11
300		ニシキテグリ	20	340		ゴマハギ	1
301		スポッテッドマンダリン	10	341		ニジハギ	1
302		レッドバックドラゴネット	5	342		ニセカンランハギ	2
303	カワアナゴ科	ホシマダラハゼ	1	343	サハ科	マサバ	395
304	ハゼ科	オトメハゼ	1	344		グルクマ	1
305		ヒメハゼ	8	345		スマ	8
306		スジハゼ	5	346		ハガツオ	13
307		トウヨシノボリ	49	347	ヒラメ科	ヒラメ	1
308		ヌマチチブ	16	348		タマガンゾウビラメ	1
309		ドロメ	7	349		アラメガレイ	5
310		ウキゴリ	7	350		マガレイ	1
311		シマウキゴリ	6	351		ムシガレイ	2
312		マハゼ	3	352		ヤナギムシガレイ	5
313		アカハゼ	1	353		ソウハチ	11
314		アカオビシマハゼ	9	354	ササウシノシタ科	ササウシノシタ	100
315		チャガラ	39	355		クロウシノシタ	10
316		キヌバリ	47	356		シマウシノシタ	4
317		タスキヒナハゼ	1	357	ギマ科	ギマ	2
318		ヒレナガネジリンボウ	2	358	モンガラカワハギ科	ムラサメモンガラ	2
319		ジュズカケハゼ広域分布種	11	359		モンガラカワハギ	1
320		コシノハゼ	12	360	カワハギ科	カワハギ	10

魚類			
科名	和名	個体数	
361	カワハギ科	アミメハギ	131
362		フチドリカワハギ	2
363	フグ科	シマフグ	5
364		クサフグ	21
365		ショウサイフグ	4
366		コモフグ	16
367		マフグ	2
368		ヒガンフグ	14
369		サザナミフグ	1
370	ハリセンボン科	ハリセンボン	4
371		イシガキフグ	1

合計……24,682

刺胞動物・有櫛動物(1種のみ)			
科名	和名	個体数	
1	カプトクラゲ科(有櫛動物)	カプトクラゲ	15
2	タマウミヒドラ科	サルシアクラゲ	5
3	エダアシクラゲ科	エダアシクラゲ	20
4	エダクラゲ科	ドフラインクラゲ	23
5	エダクダクラゲ科	ミサキコモチエダクダクラゲ	220
6	ハシゴクラゲ科	ハシゴクラゲ	100
7	エボシクラゲ科	エボシクラゲ	100
8	マツバクラゲ科	エイレネクラゲ	10
9		ギヤマンクラゲ	120
10	ハナガサクラゲ科	カギノテクラゲ	2
11		コモチカギノテクラゲ	20
12	オキクラゲ科	アカクラゲ	68
13		アマクサクラゲ	50
14	ミズクラゲ科	ミズクラゲ	700
15	ビゼンクラゲ科	ビゼンクラゲ	19
16	ハナツタ科	ムラサキハナツタ	6
17	ウミトサカ科	ボウウミイチゴ	34
18		ウミキノコ	5
19		オオウミキノコ	1
20		ヤナギカタトサカ	2
21		ヤワタコアシカタトサカ	20
22		ホンチチミトサカ	5
23		トゲトサカsp.	9
24		カタトサカ	50
25		チヂミトサカ	6

刺胞動物			
科名	和名	個体数	
26	ウミトサカ科	カワラフサトサカ	1
27		ナグラカタトサカ	20
28	フタヤギ科	スタレアカヤギ	7
29		アカヤギ	4
30		アミメアカヤギ	1
31		シロアザミヤギ	2
32	フトヤギ科	フトヤギ	8
33	トゲヤギ科	フトトゲヤギ	1
34		ホソトゲヤギ	1
35		トゲヤギsp.	2
36		トゲナシヤギ	3
37		ホソトゲナシヤギ	1
38	ウミカラムツ科	ムチカラムツ	1
39	ムチヤギ科	ムチヤギ	2
40		エダムチヤギ	2
41	イソバナ科	イソバナ	2
42	トゲウミエラ科	トゲウミエラ	1
43	ウメボシイソギンチャク科	コイボシイソギンチャク	35
44		ミドリイソギンチャク	18
45	ハタゴイソギンチャク科	イボハタゴイソギンチャク	1
46	イソギンチャク科	ダーリアイソギンチャク	3
47	スナギンチャク科	センナリスナギンチャク	8
48		ヤギセンナリスナギンチャク	1
49	ヒダベリイソギンチャク科	ヒダベリイソギンチャク	5
50	イソギンチャクモドキ科	ディスクコーラル	3
51	ハナヤサイサンゴ科	ショウガサンゴ	26
52		トゲサンゴ	10
53		フトトゲサンゴ	27
54		ハナヤサイサンゴ	50
55	クサビライシ科	シタザラクサビライシ	10
56	ミドリイシ科	チヂミウスコモンサンゴ	5
57		スギノキミドリイシ	4
58		スゲミドリイシ	2
59	ハマサンゴ科	ハナガササンゴ	1
60	ウミバラ科	キッカサンゴ	3
61	オオトゲサンゴ科	コハナガタサンゴ	2
62		ハナガタサンゴ	2
63		カクオオトゲキクメイシ	2
64		オオタバサンゴ	1
65	キクメイシ科	タバネサンゴ	1

刺胞動物			
科名	和名	科名	個体数
66	ビワガラシ科	アザミサンゴ	50
67	ヒユサンゴ科	ヒユサンゴ	1
68	チョウジガイ科	ナガラハナサンゴ	1
69		コエダナガラハナサンゴ	1
70	キサソコ科	ジュウジキサソコ	9
71		オノミチキサソコ	1
72		エントウキサソコ	22
73		オオエダキサソコ	57
74		ムツサンゴ	15
75		ナガイボヤギ	1
76		タバネイボヤギ	2
77		オオイボヤギ	4
78		シロバナキサソコ	1
79		オキノセキサソコ	1
80		ハナタテサンゴ	15
81		ハナタテキサソコ	16
82		キサソコsp.	40
83	ハナギンチャク科	ヒメハナギンチャク	19

合計……2,145

環形動物			
科名	和名	科名	個体数
1	コガネウロコムシ科	ニホンコガネウロコムシ	1
2	ケヤリムシ科	ケヤリムシ	1
3	ユムシ科	ユムシ	1

合計……3

軟体動物			
科名	和名	科名	個体数
1	ニシキウズガイ科	ヒメクボガイ	21
2		ヘソアキクボガイ	10
3		クボガイ	4
4		コシダカガンガラ	19
5		オオコシダカガンガラ	7
6		イシダタミガイ	9
7		クビレクロツケ	5
8	サザエ科	サザエ	24
9	アマオブネガイ科	イシマキガイ	18
10	タマキビ科	アラレタマキビ	363
11	タニシ科	オオタニシ	51

軟体動物			
科名	和名	科名	個体数
12	タニシ科	マルタニシ	52
13		ヒメタニシ	50
14	カワニナ科	カワニナ	65
15		チリメンカワニナ	8
16	モノアラガイ科	モノアラガイ	10
17	ソデボラ科	マガキガイ	42
18	オオヘビガイ科	オオヘビガイ	3
19	ベッコウタマガイ科	サラサベッコウタマガイ	4
20	フジツガイ科	アヤボラ	10
21		ボウシュウボラ	2
22	アキガイ科	アカニシ	2
23		イボニシ	4
24		レイシガイ	17
25		ケショウツノオリレ	4
26	エソバイ科	エッチュウバイ	2
27		ツバイ	2
28		エソボラモドキ	33
29		バイ	15
30		ニクイロツムバイ	4
31	ムシロガイ科	アラレガイ	14
32		ムシロガイ	42
33		アラムシロ	14
34	テングニシ科	テングニシ	4
35	イトマキボラ科	ナガニシ	10
36		コナガニシ	8
37	マクラガイ科	マクラガイ	19
38	コロモガイ科	トカシオリレボラ	7
39	アメフラシ科	クロヘリアメフラシ	7
40		ウミナメクジ	1
41		タツナミガイ	4
42	ユビウミウシ科	ユビウミウシ	2
43	ブドウガイ科	ブドウガイ	25
44	メリヘウミウシ科	メリヘウミウシ	1
45	オオミノウミウシ科	ミノウミウシ	3
46	イシガイ科	イシガイ	5
47		カラスガイ	2
48		ドブガイ	10
49	シジミ科	マシジミ	4
50	フネガイ科	クイチガイサルボウ	4
51	ザルガイ科	トリガイ	1

軟体動物			
科名	和名	科名	個体数
52	シャコガイ科	ヒメジャコガイ	3
53	ヒメイカ科	ヒメイカ	3
54	ダンゴイカ科	ボウズイカ	4
55		ミミイカ	1
56	マダコ科	マダコ	3
57		ミスダコ	2
58		スマレダコ	3
59		タコsp.	2

合計……1,068

節足動物			
科名	和名	科名	個体数
1	ゲンゴロウ科	オキナワスジゲンゴロウ	10
2	シャコ科	シャコ	1
3	クルマエビ科	クルマエビ	1
4	オトヒメエビ科	オトヒメエビ	3
5	サラサエビ科	サラサエビ	2
6	テッポウエビ科	コトブキテッポウエビ	1
7	テナガエビ科	テナガエビ	9
8		スジエビ	197
9		スジエビモドキ	59
10		アシナガスジエビ	124
11		カクレエビ	4
12		<i>Urocaridella antonbrunii</i>	2
13	ヌマエビ科	ヌマエビ	1700
14		カワリヌマエビsp.	123
15		ミゾレヌマエビ	59
16	モエビ科	サンゴモエビ	28
17		トゲモエビ	84
18		ツノモエビ	29
19		アカシマモエビ	4
20		イバラモエビ	26
21		コシマガリモエビ	215
22		アシナガモエビ	8
23		アシナガモエビモドキ	50
24		アカシマシラヒゲエビ	16
25		イソスジモエビ	3
26		シロボシアカモエビ	29
27		<i>Lysmata bognessi</i>	4
28	タラバエビ科	ホッコクアカエビ	170

節足動物			
科名	和名	科名	個体数
29	タラバエビ科	トヤマエビ	39
30		モロトゲアカエビ	34
31	エビジャコ科	エビジャコ	41
32		クロザコエビ	14
33		トゲザコエビ	1
34		キタザコエビ	6
35		カジワラエビ	7
36	イセエビ科	イセエビ	5
37		カノコイセエビ	4
38		シマイセエビ	1
39		ソウリエビ	5
40		セミエビ	7
41		コブセミエビ	5
42		キタンヒメセミエビ	1
43	ザリガニ科	アメリカザリガニ	210
44	ヤドカリ科	ケブカヒメヨコバサミ	21
45		イソヨコバサミ	10
46		サンゴヨコバサミ	1
47		トゲツノヤドカリ	169
48		トゲトゲツノヤドカリ	274
49		ケスジヤドカリ	2
50		クリイロサンゴヤドカリ	15
51	ホンヤドカリ科	ホンヤドカリ	27
52		ヤマトホンヤドカリ	3
53		ユビナガホンヤドカリ	27
54		ケアシホンヤドカリ	14
55		ハダカホンヤドカリ	45
56		ミツカドホンヤドカリ	3
57		ヨモギホンヤドカリ	12
58		ホシノラホンヤドカリ	12
59		ゼンマイヤドカリ	2
60	コシオリエビ科	アカツノチュウコシオリエビ	2
61	ヘイケガニ科	サメハダヘイケガニ	2
62	クモガニ科	ベニズワイガニ	38
63		ヨツハマガニ	6
64		ズワイガニ	9
65		ツノガニ	4
66		クモガニsp.	13
67		キイケアシガニ	1
68	コブシガニ科	テナガコブシガニ	7

節足動物			
	科名	和名	個体数
69	コブシガニ科	マメコブシガニ	14
70		ヒラテコブシ	13
71	クリガニ科	ケガニ	3
72	ワタリガニ科	イシガニ	2
73		ベニイシガニ	1
74		フタホシイシガニ	2
75	オウギガニ科	ゴカクイボオウギガニ	1
76	エンコウガニ科	エンコウガニ	8
77	サワガニ科	サワガニ	10
78	スナガニ科	スナガニ	3
79	イワガニ科	モクスガニ	1
80		イソガニ	1
81		アカテガニ	16
82		クロベンケイガニ	18

合計……4,153

棘皮動物			
	科名	和名	個体数
1	クシウミシダ科	ニッポンウミシダ	20
2	ヒメウミシダ科	ヒゲウミシダ	73
3		ニホンカイヒメウミシダ	43
4	イボアシウミシダ科	トラフウミシダ	1
5	スナヒトデ科	スナヒトデ	32
6	モミジガイ科	モミジガイ	16
7		トゲモミジガイ	4
8		ニセモミジガイ	1
9	イバラヒトデ科	ホソゲイバラヒトデ	2
10	ゴカクヒトデ科	アカモミジヒトデ	18
11	アオヒトデ科	アカヒトデ	14
12	コブヒトデ科	バハマシースター	1
13	ニチリンヒトデ科	フサゲニチリンヒトデ	33
14		アカゲニチリンヒトデ	1
15		ニチリンヒトデsp.	1
16	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ	165
17		トゲイトマキヒトデ	4
18		ヌノメイトマキ	2
19	ヒメヒトデ科	キタオトゲヒトデ	1
20	マヒトデ科	マヒトデ	37
21		ニッポンヒトデ	1
22		ヤツデヒトデ	12

棘皮動物			
	科名	和名	個体数
23	クモヒトデ科	ニホンクモヒトデ	19
24		キタクシノハクモヒトデ	71
25		トゲクモヒトデ	1
26		セノテツルモツル	1
27		オキノテツルモツル	2
28		クモヒトデsp.	4
29	ラッパウニ科	アカウニ	6
30	オオバフンウニ科	バフンウニ	20
31		ハリサンショウウニ	5
32	ナガウニ科	キタムラサキウニ	15
33	フトザオウニ科	ボウズウニ	1
34	タコノマクラ科	タコノマクラ	1
35	クロナマコ科	ニセクロナマコ	5
36		フジナマコ	38
37		クロナマコ	10
38	シカクナマコ科	マナマコ	56
39		オキナマコ	15

合計……752

2020年7月31日時点データ		種類	個体数
脊椎動物	哺乳類	9	27
	鳥類	2	86
	爬虫類	4	27
	両生類	9	99
	魚類	371	24,682
無脊椎動物	有櫛動物	1	15
	刺胞動物	82	2,130
	環形動物	3	3
	軟体動物	59	1,068
	節足動物	82	4,153
	棘皮動物	39	752
合計		661	33,042

6. 管理運営

① 指定管理者制度による管理運営

管理運営の沿革

1990年(平成2年)4月 管理運営委託 受託者:財団法人新潟市開発公社

2006年(平成18年)4月 指定管理者制度移行 指定管理者:財団法人新潟市開発公社

2011年(平成23年)4月 指定管理者:公益財団法人新潟市開発公社(公益財団へ移行)

2017年(平成29年)4月 指定管理者:公益財団法人新潟市海洋河川文化財団 と公益財団法人新潟市開発公社の共同事業体による管理運営(2年間)

※ 水族館運営を担う職員が公益財団法人新潟市開発公社から公益財団法人新潟市海洋河川文化財団へ転籍。

2019年(平成31年)4月 指定管理者:公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団

現在に至る

7. 公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団

① 財団の沿革

2016年(平成28年)3月 一般財団法人 新潟市海洋河川文化財団 設立

2017年(平成29年)4月 公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団 へ移行

② 財団の目的及び事業(定款第2章より)

(目的)

第3条 この法人は、新潟市を中心とする海洋・河川文化(海、河川をはじめとする水辺環境とそこに生息する生物などの影響を受けて発展してきた、人々の暮らし、生活様式、価値観等)の現況把握、歴史的背景及び保護継承を通して、社会における海洋・河川文化の重要性・関係性を啓発し、もって新潟市の文化醸成に寄与するとともに、地域社会の持続的発展に寄与することを目的とする。

(事業)

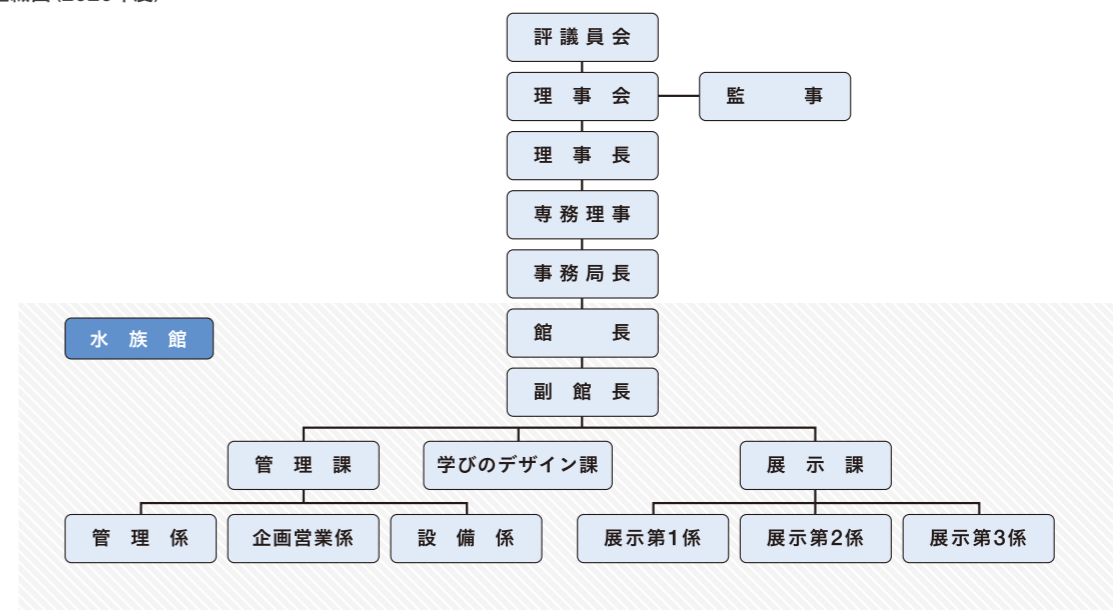
第4条 この法人は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1) 海洋・河川文化の普及啓発、調査研究及び保護継承事業

(2) 海洋・河川に生息する水生生物とその生息環境の展示及び飼育事業

(3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

② 財団組織図(2020年度)



③ ビジョン/ミッション(2017年制定)

ビジョン 「新潟で一番愛される施設を目指す」

ミッション 「私たちは、自然について楽しみながら学べる機会を提供し、生命の多様性が尊重される社会に貢献します。」

あとがき ～館長からのメッセージ～

新潟市水族館マリンピア日本海
館長 野村 卓之

東西に長い海岸線と大小2つの島をもち、国内最長河川が流れる新潟県は、多様性に富んだすぐれた自然環境が特徴で、新潟県でしか見られない生物も少なくありません。また、全国に自慢できるおいしい食材もたくさんあります。

身近な自然がいかに大事なものであるか？ 守り、後世に伝えていくべきものは何か？ 魅力あふれる新潟県の自然に目を向け、あらためて地域の自然環境を正しく認識するのは大切なことです。

新潟市の2代目の水族館として、新潟市水族館マリンピア日本海は1990年に誕生しました。そして、2012年から2013年にかけて大規模リニューアル工事を行い、老朽化対策に加え、新たな魅力創出とホスピタリティの充実を掲げて生まれ変わりました。

2017年には、初代である市立新潟水族館から数えて50年の節目を迎え、皆様と共に歩んできた歴史を振り返り、あらためて水族館の存在意義を確信しました。

また、これからも迷うことなく歩み続けるために、ビジョン「新潟で一番愛される施設を目指す」とミッション「私たちは、自然について楽しみながら学べる機会を提供し、生命の多様性が尊重される社会に貢献します」を策定しました。

さて、一般的に、飼育係の仕事は生物の世話が中心と思われがちですが、実は生物や生態系、自然環境などに関する正しい情報を発信することこそが水族館や動物園の飼育係の重要な役割なのです。生物の飼育展示はそのための手段のひとつです。本物の野生生物を間近で見ることので得られる貴重な情報を最大限に発信したいと思っています。

新潟市水族館マリンピア日本海では、地域の海や川にすむ水生生物を中心に、里山の生物から普段は目にすることのない深海生物まで、水と関わりのある様々な生物を展示しています。これらを通して、県内外の皆様が新潟県のすばらしさを知っていただきたいと考えています。

2020年に30周年を迎えた新潟市水族館マリンピア日本海。何時来ても、何度来ても新たな発見がある水族館、人々の健全な暮らしと生物との共存について考えるきっかけとなる水族館であり続けたいと思います。

新潟市水族館マリンピア日本海 30周年記念誌 1990-2020

発行日
令和5年7月27日

編集・発行
公益財団法人 新潟市海洋河川文化財団
〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
電話：025-222-7500
URL：https://www.marinepia.or.jp

デザイン・印刷
株式会社 ハイングラフ



新潟市水族館

マリネピア日本海

NIIGATA CITY AQUARIUM

〒951-8555 新潟市中央区西船見町5932-445
TEL 025-222-7500 FAX 025-223-2824

<https://www.marinepia.or.jp>

